



SPA Ver. 10.6.0.2

マイグレーションガイド

目次

1. 本マニュアルについて	1
2. マイグレーションの概要	4
3. SPA Ver. 10.1 以降からのマイグレーション	6
3.1. Windows 版のマイグレーション手順 (Ver. 10.1 以降の場合)	7
3.1.1. マイグレーション前の準備	8
3.1.2. SPA サーバーの更新とリストア	8
3.1.2.1. 文字認識モデルデータの更新とリストア	13
3.1.3. アーカイブコマンドの更新とリストア	15
3.2. Linux 版のマイグレーション手順 (Ver. 10.1 以降の場合)	16
3.2.1. マイグレーション前の準備	17
3.2.2. SPA サーバーの更新とリストア	18
3.2.3. アーカイブコマンドの更新とリストア	22
4. SPA Ver. 10.0 からのマイグレーション	24
4.1. Windows 版のマイグレーション手順 (Ver.10.0 の場合)	25
4.1.1. マイグレーション前の準備	26
4.1.2. SPA サーバーの更新とリストア	26
4.1.2.1. 文字認識モデルデータの更新とリストア	30
4.1.3. Document Converter の更新とリストア	32
4.1.3.1. Document Converter の更新とリストア (自動更新機能を利用する場合)	32
4.1.3.2. Document Converter の更新とリストア (自動更新機能を利用しない場合)	35
4.1.4. アーカイブコマンドの更新とリストア	36
4.2. Linux 版のマイグレーション手順 (Ver. 10.0 の場合)	37
4.2.1. マイグレーション前の準備	38
4.2.2. SPA サーバーの更新とリストア	39
4.2.3. アーカイブコマンドの更新とリストア	43
5. SPA Ver. 9.3 からのマイグレーション	45
5.1. マイグレーション後も同じ環境を利用する場合	46
5.1.1. マイグレーション前の準備	48
5.1.2. Windows 版のマイグレーション手順	49
5.1.2.1. インストーラーの実行	52
5.1.2.2. 通常モードへの移行	54
5.1.2.3. 検索インデックスの作成でを使用したサービスとデータの削除	55
5.1.2.4. Ver. 9.3 へのリストア	57
5.1.3. Linux 版のマイグレーション手順	62
5.1.3.1. インストーラーの実行	64
5.1.3.2. 通常モードへの移行	66
5.1.3.3. 検索インデックスの作成でを使用したデータの削除	66
5.1.3.4. Ver. 9.3 へのリストア	67
5.2. 別の環境にマイグレーションする場合	71
5.2.1. Windows 版のマイグレーション手順	73
5.2.1.1. SPA Ver. 9.3 (Windows 版) からのエクスポート	74
5.2.1.2. 最新バージョンの SPA (Windows 版) へのインポート	76

5.2.2. Linux 版のマイグレーション手順	79
5.2.2.1. SPA Ver. 9.3 (Linux 版) からのエクスポート	80
5.2.2.2. 最新バージョンの SPA (Linux 版) へのインポート	83
6. SPA サーバーのマイグレーション後の設定	88
6.1. 難読化に対応した URL 表示への変更	88
6.2. Cross-Site Request Forgery 脆弱性対策	89
6.3. カスタムロールの変更	90
6.4. アーカイブファイルの保存先として「Box」を指定する場合の設定	91
6.5. 統合 Windows 認証を IIS 経由で使用する場合の設定	91
7. OCR サービスのアップデート	92
7.1. OCR サービスのアップデート前の準備	92
7.2. OCR サービスの更新とリストア	92
7.3. OCR サービスで利用する文字認識モデルデータの更新とリストア	96
付録	98
付録 1 検索インデックスの作成条件の調整	98
付録 2 バージョンの確認方法	100
付録 3 リストアした環境を再度マイグレーションする	100

1. 本マニュアルについて

本マニュアルは、SPA の開発者、システム管理者向けのマニュアルです。

旧バージョンから最新バージョンへのマイグレーションについて説明します。

マニュアルの体系

SPA には以下のマニュアルがあります。

マニュアル名	概要	対象読者
SPA 製品ガイド	SPA を理解する上で必要な概念や、設定、運用に関する手順について説明します。	開発者、システム管理者、運用管理者
セットアップガイド	SPA、および Bridge サービス、Document Converter のセットアップ手順について説明します。	開発者、システム管理者
Web API リファレンス	SPA が提供する Web API のリファレンスです。	開発者
Web 利用者操作ガイド	SPA に保存されている文書を利用して、Web ブラウザーから一般利用者が操作できることを説明します。	一般利用者
タブレット利用者ガイド	SPA に保存されている文書を、タブレットから利用する手順について説明します。	一般利用者
SPA Enterprise 設定ガイド	SPA Enterprise の導入方法と設定、運用について説明します。	開発者、システム管理者
シナリオで学ぶ機能活用	SPA でよく使われる機能の設定について、目的別にまとめたチュートリアルです。	開発者、システム管理者、運用管理者
マイグレーションガイド	旧バージョンの SPA のデータを SPA Ver. 10.2 以降で利用するために必要な作業や、マイグレーションの仕様について説明します。	開発者、システム管理者

対象読者

本マニュアルでは、対象読者となるユーザーを次のように定義しています。

ユーザー	説明
開発者	SPA の運用環境を作成するユーザー。
管理者	システム管理者 SPA のユーザー、グループの追加や定義類の作成など、アーカイブ前に必要な管理業務を行うユーザー。主に、管理画面での設定を行う。
	運用管理者 SPA でのアーカイブや、アーカイブされた文書類を業務の中で利用するための管理業務を行うユーザー。主に、ユーザー画面での設定を行う。
一般利用者	SPA にアーカイブされた文書を Web ブラウザーおよびタブレットから利用するユーザー。

本マニュアルの構成

本マニュアルの構成は、次のとおりです。

タイトル	説明
マイグレーションの概要 (p. 4)	現在使用しているバージョンに応じたマイグレーション方法の概要を説明します。
SPA Ver. 10.1 以降からのマイグレーション (p. 6)	SPA Ver. 10.1 以降からのマイグレーションについて説明します。
SPA Ver. 10.0 からのマイグレーション (p. 24)	SPA Ver. 10.0 からのマイグレーションについて説明します。
SPA Ver. 9.3 からのマイグレーション (p. 45)	SPA Ver. 9.3 からのマイグレーションについて説明します。
SPA サーバーのマイグレーション後の設定 (p. 88)	SPA サーバーのマイグレーション後に必要な設定について説明します。
OCR サービスのアップデート (p. 92)	OCR サービスのアップデートについて説明します。

マニュアル内で使用する表記

マニュアル内で使用する表記について説明します。

注意、参考、制限

マニュアル内では、注意、参考、制限を次のように区別して記載しています。

注意

操作によって元の状態に戻れなくなる場合や、元の状態に戻るのが難しい場合に、このパーツで示します。

参考

製品を使用する上での補足情報をこのパーツで示します。

制限

製品の制限をこのパーツで示します。

記号

マニュアル内で使用する記号の意味は、次のとおりです。

記号	表記例	意味
[]	[ファイル] メニュー	製品画面に表示されている項目名やメニュー名を表します。OS や他社製品の項目名やメニュー名も同様に表します。

記号	表記例	意味
<>	http://<IP アドレスまたはサーバー名>	URL やファイル名の一部など、環境によって変わる文字列を表します。
\	C:\archiver	入力例では、円マーク (¥) はバックスラッシュで表します。

商標

本製品では、ABBYY 社の OCR エンジンを使用しています。



本製品では、EduLab 社の OCR サービスを使用しています。



本製品では、Cogent Labs 社の OCR サービスを使用しています。



本マニュアルに記載されている社名および商品名等の名称は、各社の商標または登録商標です。

著作権

(C) 2013 WingArc1st Inc. All rights reserved.

その他

本マニュアルの内容は予告なく変更することがあります。

発行

2021年11月29日 初版 (Ver. 10.6.0.2 対応)

2. マイグレーションの概要

SPA 製品のマイグレーションは、ソフトウェアのバージョンアップに加え、既存バージョンで利用していたデータ資産（設定および文書）を最新バージョンの環境に移行する作業を示します。最新バージョンの SPA へのマイグレーションは、現在使用しているバージョンによってマイグレーション方法が異なります。ここでは、使用しているバージョンに応じたマイグレーション方法の概要を説明します。

- [SPA Ver. 10.X の場合 \(p. 4\)](#)
- [SPA Ver. 9.3 の場合 \(p. 5\)](#)
- [SVF PDF Archiver Ver. 9.2 の場合 \(p. 5\)](#)

SPA Ver. 10.X の場合

マイグレーション方法は、マイグレーション後も同じ環境（サーバー）を利用するか、既存バージョンとは別の環境で利用するかで方法が異なります。

- 同じ環境で利用する場合
インストーラーのアップデート機能を利用して SPA サーバーを更新します。SPA サーバーを更新すると、自動更新機能のあるモジュールは、自動更新されます。自動更新されないモジュールは、別途、手動で更新します。同じ環境で利用する場合、データ資産の移行は不要です。
- 別の環境で利用する場合
既存環境のコールドバックアップを取得し、新環境に移行（コールドリストア）した後、新環境を「同じ環境で利用する場合」の方法で更新します。

詳細は、以下を参照してください。

- SPA Ver. 10.1 以降
「[SPA Ver. 10.1 以降からのマイグレーション \(p. 6\)](#)」
- SPA Ver. 10.0 および、Ver.10.0 をインストーラーでインストールした後パッチを適用することで Ver. 10.1 に更新した SPA Ver. 10.1
「[SPA Ver. 10.0 からのマイグレーション \(p. 24\)](#)」

参考

対象の SPA の確認方法は、「[付録 2 バージョンの確認方法 \(p. 100\)](#)」を参照してください。

OCR サービスを使用している場合

OCR サービスを使用している場合は、SPA のバージョンに合わせて OCR サービスもアップデートします。

OCR サービスのインストーラーのアップデート機能を利用して、OCR サービスをアップデートします。詳細は、[OCR サービスのアップデート \(p. 92\)](#)を参照してください。

注意

SPA サーバーと OCR サービスのバージョンが異なると、正常に動作しないことがあります。

SPA をマイグレーションする際は、必ず、OCR サービスも同じバージョンのインストーラーを使用してバージョンアップしてください。

SPA Ver. 9.3 の場合

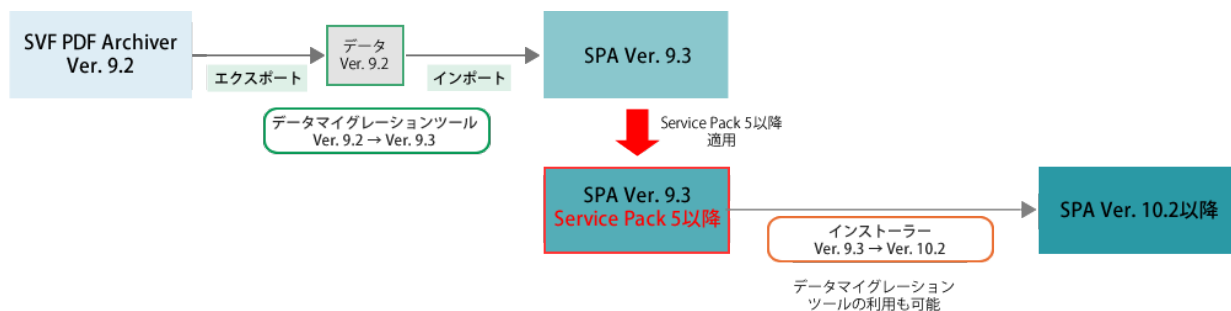
マイグレーション方法は、マイグレーション後も同じ環境を利用するか、既存バージョンとは別の環境で利用するかで異なります。同じ環境で利用する場合はインストーラーのアップデート機能を利用し、別の環境で利用する場合は「データマイグレーションツール」を利用します。

SPA Ver. 9.3 からのマイグレーションについては、「[SPA Ver. 9.3 からのマイグレーション \(p. 45\)](#)」を参照してください。

SVF PDF Archiver Ver. 9.2 の場合

SVF PDF Archiver Ver. 9.2 から最新バージョンの SPA に直接マイグレーションすることはできません。このため、SVF PDF Archiver Ver. 9.2 を利用している場合は、次の流れで段階的にマイグレーションする必要があります。

1. SVF PDF Archiver Ver. 9.2 からデータをエクスポートし、SPA Ver. 9.3 にインポートする。
2. SPA Ver. 9.3 に Service Pack 5 以降を適用する。
3. 最新バージョンの SPA にマイグレーションする。



注意

- SPA Ver. 9.3 が必要です。また、SVF PDF Archiver Ver. 9.2 から SPA Ver. 9.3 へのマイグレーションには、専用のデータマイグレーションツールが必要です。詳細は、弊社営業担当までご連絡ください。SVF PDF Archiver Ver. 9.2 から SPA Ver. 9.3 へのマイグレーションで利用するデータマイグレーションツールについては、Ver. 9.3 の『データマイグレーションガイド』を参照してください。
- 同じサーバーにバージョンの異なる SPA をインストールすることはできません。異なるバージョンの SPA をインストールする場合は、必要に応じてデータのバックアップを取得し、既存の SPA をアンインストールしてください。

3. SPA Ver. 10.1 以降からのマイグレーション

Ver. 10.1 以降からのマイグレーションは、マイグレーション後も同じ環境を利用するか、既存バージョンとは別の環境で利用するかで方法が異なります。ここでは、各マイグレーション方法の流れを説明します。

- [マイグレーション後も同じ環境を利用する場合の流れ \(p. 6\)](#)
- [マイグレーション後は別の環境を利用する場合の流れ \(p. 6\)](#)

なお、Ver. 10.0 をインストーラーでインストールした後、パッチを適用することで Ver. 10.1 に更新した SPA の場合は、「[SPA Ver. 10.0 からのマイグレーション \(p. 24\)](#)」を参照してください。対象の SPA の確認方法は、「[付録 2 バージョンの確認方法 \(p. 100\)](#)」を参照してください。

マイグレーション後も同じ環境を利用する場合の流れ

次の流れでマイグレーションします。同じ環境で利用する場合、モジュールの更新のみでマイグレーションは完了します。データ資産を移行する必要はありません。

1. 旧環境のコールドバックアップを取得するなど、マイグレーション前の準備を行います。
2. 最新バージョンのインストーラーを実行し、モジュール（SPA サーバー、Bridge サービス、Document Converter）を更新します。更新手順については、以下の章を参照してください。
 - Windows 環境の場合
「[Windows 版のマイグレーション手順 \(Ver. 10.1 以降の場合\) \(p. 7\)](#)」
 - Linux 環境の場合
「[Linux 版のマイグレーション手順 \(Ver. 10.1 以降の場合\) \(p. 16\)](#)」
3. アーカイブコマンドを利用している場合、アーカイブコマンドを更新します。
4. OCR サービスを利用している場合、OCR サービスをアップデートします。OCR サービスのアップデート手順は、「[OCR サービスのアップデート \(p. 92\)](#)」を参照してください。

マイグレーション後は別の環境を利用する場合の流れ

次の流れでマイグレーションします。マイグレーション後は別の環境を利用する場合、旧環境のインストーラーとアクティベーションキーが必要になります。

1. 旧環境のコールドバックアップを取得します。詳細は、Ver. 10 の『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」の「コールドバックアップを行う」を参照してください。
2. 移行後の環境に、旧環境と同じバージョンをインストールし、アクティベーションします。詳細は、Ver. 10 の『セットアップガイド』を参照してください。
3. 手順 1 で取得したバックアップをリストアします。詳細は、Ver. 10 の『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」の「コールドバックアップからのリストア」を参照してください。
4. 最新バージョンのインストーラーを実行し、モジュール（SPA サーバー、Bridge サービス、Document Converter）を更新します。更新手順については、以下の章を参照してください。
 - Windows 環境の場合
「[Windows 版のマイグレーション手順 \(Ver. 10.1 以降の場合\) \(p. 7\)](#)」
 - Linux 環境の場合

「Linux 版のマイグレーション手順 (Ver. 10.1 以降の場合) (p. 16)」

5. アーカイブコマンドを利用している場合、アーカイブコマンドを更新します。
6. OCR サービスを利用している場合、OCR サービスをアップデートします。OCR サービスのアップデート手順は、「[OCR サービスのアップデート \(p. 92\)](#)」を参照してください。

3.1. Windows 版のマイグレーション手順 (Ver. 10.1 以降の場合)

次のモジュールごとに、モジュールの更新とリストアの手順を説明します。

- SPA サーバー (Bridge サービスと Document Converter を含む) (p. 8)
- アーカイブコマンド (p. 15)

マイグレーションにあたっての注意事項

- 下記のモジュールは、すべて同じバージョンのものを使用してください。バージョンが異なるモジュールを使用すると、正常に動作しないことがあります。
 - SPA サーバー
 - Bridge サービス
 - Document Converter
 - アーカイブコマンド
- マイグレーション後は、SPA サーバーのインストーラーのバージョンが Ver. 10.6.0.2 に更新されません。Bridge サービスと Document Converter は、自動更新機能によりモジュールのみが更新され、インストーラーのバージョンは更新されません。インストーラーのバージョンの確認方法は、「[付録 2 バージョンの確認方法 \(p. 100\)](#)」を参照してください。
- インストーラーで最新バージョンの SPA にマイグレーションしたあと、以前のバージョンにリストアした環境は、そのままインストーラーを使ってマイグレーションし直すことができません。あらためてマイグレーションする場合は「[付録 3 リストアした環境を再度マイグレーションする \(p. 100\)](#)」を参照してください。
- SPA Ver. 10.4 以前のバージョンからマイグレーションすると、アーカイブされた文書に対し、「確認済み」プロパティが付与されます。アーカイブされた文書数が多い場合、「確認済み」プロパティが付与されるまでに時間がかかる場合があります。

以下の環境で計測した時間を参考に示します。ただし、処理時間は文書数に比例するわけではありません。

項目	値
機種	Dell PowerEdge T640
OS	WS2019
CPU	Xeon シルバー 4110
メモリー	96GB
Disk	C ドライブ x 1 (RAID なし) : 800GB D ドライブ x 7 (RAID-0) : 5.6TB

項目	値
SPA	DドライブにSPAをインストール
アーカイブ文書数	100万文書
処理時間	約22時間

3.1.1. マイグレーション前の準備

マイグレーションを実行する前に、次の準備を行ってください。

- 更新用モジュール（最新バージョンのインストーラー、アーカイブコマンド）を更新対象モジュールのある環境に用意します。
- モジュール更新時に、インストーラーによりプログラムがバックアップされるため、SPAサーバーがインストールされているドライブに、SPAのインストールフォルダーの2倍程度の空き容量が必要になる場合があります。
- インストーラーのアップデート機能を利用してマイグレーションしたことがある環境の場合、SPAのインストールフォルダー直下に更新時に取得したバックアップ（「_backup」フォルダー）が残っている場合があります。このフォルダーは、名称を変更したり、フォルダーごと移動したりして、SPAのインストールフォルダーに「_backup」フォルダーがない状態にしてください。「_backup」フォルダーが存在すると、最新バージョンのインストーラーによるバックアップが正しく実行されません。
- 各種データや、設定ファイルなどのコールドバックアップを取得します。取得したデータは、更新した環境をリストアする場合に必要になります。バックアップ手順は『SPA製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」の「コールドバックアップを行う」を参照してください。
モジュール更新時に、インストーラーによりプログラムはバックアップされますが、各種データや設定ファイルなどは、バックアップされません。一方、モジュール更新後にモジュール更新前の状態に戻す場合には、モジュールのほかに各種データや設定ファイルなども合わせてリストアする必要があります。

- Microsoft Windows Server 2012 または Microsoft Windows Server 2012 R2 で Bridge サービスを利用する場合、Media Foundation がインストールされている必要があります。Media Foundation のインストールの確認およびインストール手順は次のとおりです。
 1. スタート画面から [サーバー マネージャー] を選択します。
 2. [管理] - [役割と機能の追加] を選択します。
 3. 表示される画面に従って Bridge サービスを利用する環境を選択し、機能の選択画面の一覧にある [Media Foundation] または [メディア ファンデーション] を確認します。
 - チェックボックスがオンで「インストール済み」と表示される場合
Media Foundation がインストールされています。
 - チェックボックスがオフの場合
チェックボックスをオンにして Media Foundation をインストールします。インストール後、Microsoft Windows Server 2012 または Microsoft Windows Server 2012 R2 を再起動します。

3.1.2. SPA サーバーの更新とリストア

SPAサーバーの更新とリストアの手順を説明します。

- SPA サーバー更新時の注意事項 (p. 9)
- SPA サーバーの更新手順 (p. 9)
- SPA サーバーのリストア手順 (p. 12)

SPA サーバー更新時の注意事項

- インストーラーは、「管理者」ユーザーで実行してください。
- モジュールを更新すると、apache-tomcat がアップデートされます。apache-tomcat でポート番号や SSLなどを設定している場合は、モジュール更新後に設定を変更してください。
- Bridge サービスの自動更新により、下記のファイルがアップデートされます。下記のファイルに個別の設定を行っている場合は、Bridge サービスの更新後に設定を変更してください。
 - <Bridge サービスのインストール先>%bridge%lib%linux%OcrConfig.xml
 - <Bridge サービスのインストール先>%bridge%lib%windows%OcrConfig.xml
- Bridge サービスの自動更新により、SPA Bridge Service のヒープサイズの設定内容もアップデートされます。Bridge サービスのモジュール更新後は、必要に応じてヒープサイズを変更してください。
- OCR サービスを利用している場合は、SPA サーバーを更新する前に、SPA の Loader 設定画面から、Distributor に追加されている OCR の読み取りが設定された文書定義が使用されている処理定義を無効にしてください。SPA サーバーを更新すると自動的に SPA サーバーのサービスが起動されるため、処理定義を無効にしていない場合、アップデートする前の OCR サービスに SPA からアクセスすることで予期せぬエラーが発生する場合があります。
無効にした処理定義は、SPA サーバーと OCR サービスの更新が完了してから有効にしてください。

SPA サーバーの更新手順

1. サービスの終了

- アーカイブコマンドの確認（利用している場合のみ）
モジュール更新対象の SPA サーバーにアーカイブを行っているアーカイブコマンドが起動していないことを確認します。
- Bridge サービスの終了
モジュール更新対象の SPA サーバーに接続しているすべての Bridge サービス（SPA Bridge Service）を終了します。
- Document Converter の終了（利用している場合のみ）
モジュール更新対象の SPA サーバーに接続しているすべての Document Converter を終了します。
- OCR サービスへのアクセス停止（利用している場合のみ）
SPA の Loader 設定画面から、Distributor に追加されている OCR の読み取りが設定された文書定義が使用されている処理定義を無効にします。
- SPA サーバーのサービスの終了
次のサービスを、次の順番ですべて終了します。
 - SPA Webservice
 - SPA Archive Server
 - SPA Solr Server
 - SPA ZooKeeper

- SPA PostgreSQL Service

2. Bridge サービスデータ/ログのバックアップ

次のフォルダーを任意の場所にバックアップします。

- <Bridge サービスのインストール先>%bridge%state (RDE 取り込みとフォルダー監視の処理状況)
- <Bridge サービスのインストール先>%bridge%logs (Bridge サービスログファイル)
- <Bridge サービスのインストール先>%bridge%data%simulation (OCR シミュレーションファイル)

3. インストーラーの実行

次の手順でインストーラーを実行します。

- 「%SPA%Installer%install.exe」を起動します。
[言語の選択] ダイアログが表示されます。
- 使用する言語を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
[使用許諾契約] 画面が表示されます。
- 「使用許諾の条項に同意します」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
[バックアップ先] 画面が表示されます。
- バックアップ先を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。

参考

次のフォルダーはバックアップ先に指定できません。

- <SPA のインストールフォルダー>
- <SPA のインストールフォルダー>%archiver 配下のフォルダー
- 配下に「archiver」という名前のフォルダーがあるフォルダー
- ネットワークドライブ上にあるフォルダー

更新するモジュールについての情報が表示されます。

- 内容に問題がないことを確認し、[インストール] ボタンをクリックします。
最新バージョンの SPA のインストールが開始されます。
- インストールが完了すると、SPA サーバーのサービスが起動されます。
[完了] ボタンをクリックします。

制限

インストールの完了後に、SPA WebService が正常に起動しなかった場合は、次の手順で SPA WebService を再起動する必要があります。

- SPA Archive Server が起動したことを確認します。
- SPA WebService を停止します。
- SPA WebService を開始します。

4. Bridge サービスの起動

Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。

5. 文字認識モデルデータの更新

「WingArc Data Capture」を利用している場合、文字認識モデルデータの更新が必要です。「[文字認識モデルデータの更新とリストア \(p. 13\)](#)」に従って、文字認識モデルデータを更新してください。

6. Bridge サービスのオンライン確認

次の手順で Bridge サービスがオンラインになっていることを確認します。

- a. SPA の管理画面 (<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/spa/manager.jsp>) にログインします。
- b. 管理画面の設定カテゴリ [文書定義の設定] - [Loader 設定] をクリックし、Loader 設定画面を開きます。
- c. [振り分け] タブで Bridge サービスがオンラインになっていることを確認します。

7. Bridge サービスの終了

Bridge サービスを自動更新するため、Bridge サービス (SPA Bridge Service) を終了します。

8. Bridge サービスの起動

Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。Bridge サービスが自動更新されます。

9. SPA サーバーのモジュール更新の確認

ログイン画面 (<http://<IP アドレスまたはサーバー名>:44230/spa/>) を表示し、バージョンが「Ver. 10.6.X.X」と表示されていることを確認します。

10. Bridge サービスのモジュール更新の確認

次の手順で Bridge サービスのモジュールが更新されたことを確認します。

- a. SPA の管理画面 (<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/spa/manager.jsp>) にログインします。
- b. 管理画面の設定カテゴリ [文書定義の設定] - [Loader 設定] をクリックし、Loader 設定画面を開きます。
- c. [振り分け] タブで Bridge サービス名を選択します。
- d. [サービス設定] タブで [プロパティ 設定] ボタンをクリックします。
- e. [バージョン情報] タブをクリックし、製品バージョンが「Ver. 10.6.X.X」となっていることを確認します。

11. Document Converter の起動 (Document Converter を利用している場合)

スタート画面から [SPA Document Converter Start] を選択して Document Converter を起動します。

12. プリンタードライバーの更新 (Document Converter を利用している場合)

参考

Windows の管理ツールにある「印刷の管理」で、「SPA Converter Printer」のバージョンを確認し、「1.0.0.3」である場合、この手順は必要ありません。

次の手順でプリンタードライバー (SPA Convert Printer) を更新します。

- a. <Document Converter のインストール先>%docconverter%util%version.cmd を実行して、「Server Version」が「Ver. 10.6.X.X」であることを確認します。
- b. <Document Converter のインストール先>%docconverter%util%printer-driver.cmd を管理者として実行します。「続行するには何かキーを押してください」というメッセージが表示されます。

- c. キーボードで何かしらのキーを押します。プリンタードライバーの更新を確認するダイアログが表示されます。
- d. [インストール] ボタンをクリックします。プリンタードライバーが更新されます。
- e. Windows の管理ツールにある「印刷の管理」で、「SPA Converter Printer」のバージョンが「1.0.0.3」であることを確認します。
Windows の管理ツールに「印刷の管理」がない場合は、Windows に「印刷とドキュメントサービス」の役割を追加してください。

13. OCR サービスの更新 (OCR サービスを利用している場合)

OCR サービスを更新します。手順は「[OCR サービスのアップデート \(p. 92\)](#)」を参照してください。

SPA サーバーのリストア手順

モジュール更新前の状態に復元する場合には、次の手順に従って、リストアしてください。

1. モジュールの更新手順 1 に従って、サービスを終了します。
2. 次のファイルとフォルダーを削除します。
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%apache-tomcat
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%bridge
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%conf
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%data
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%jre
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%launcher
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%lib
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%license
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%solr
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%util
3. インストーラーが取得したバックアップを、<SPA サーバーのインストール先>%に上書きコピーします。
デフォルトのバックアップ先は次のとおりです。
 - <SPA サーバーのインストール先>%_backup%
4. 更新前に取得した各種データや設定ファイルのバックアップをリストアします。
リストアの際は、『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」-「コールドバックアップからのリストア」の手順 4~5 を実行してください。
5. モジュールの更新手順 2 でバックアップした次のフォルダーを、<Bridge サービスのインストール先>%bridge フォルダーに上書きコピーします。
 - <Bridge サービスのインストール先>%bridge%logs
 - <Bridge サービスのインストール先>%bridge%data%simulation
6. <Bridge サービスのインストール先>%bridge%splstate フォルダーを削除し、モジュールの更新手順 2 でバックアップした<Bridge サービスのインストール先>%bridge%splstate フォルダーを<Bridge サービスのインストール先>%bridge フォルダーにコピーします。
7. 次のサービスを、次の順番ですべて起動します。

- a. SPA PostgreSQL Service
 - b. SPA ZooKeeper
 - c. SPA Solr Server
 - d. SPA Archive Server
 - e. SPA Webservice
8. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。
 9. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を終了し、再度、起動します。
 10. 「WingArc Data Capture」を利用している場合は、文字認識モデルデータを復元します。復元手順は、「[文字認識モデルデータの更新とリストア \(p. 13\)](#)」を参照してください。
 11. モジュール更新手順 8 に従って、SPA のバージョンが更新前のバージョンであることを確認します。
 12. モジュール更新手順 9 に従って、Bridge サービスのバージョンが更新前のバージョンであることを確認します。
 13. スタート画面から [SPA Document Converter Start] を選択して Document Converter を起動します。
 14. 次の手順で、プリンタードライバーをリストアします。
 - a. <Document Converter のインストール先>%docconverter%util%version.cmd を実行して、「Server Version」が更新前のバージョンであることを確認します。
 - b. <Document Converter のインストール先>%docconverter%util%printer-driver.cmd を管理者として実行します。「続行するには何かキーをおしてください」というメッセージが表示されます。
 - c. キーボードで何かしらのキーを押します。環境によっては、プリンタードライバーの更新を確認するダイアログが表示されることがあります。
 - d. 確認のダイアログが表示された場合は [インストール] ボタンをクリックします。プリンタードライバーが更新されます。
 - e. Windows の管理ツールにある「印刷の管理」で、「SPA Converter Printer」のバージョンが更新前のバージョンであることを確認します。
 15. OCR サービスをリストアします。手順は「[OCR サービスのアップデート \(p. 92\)](#)」を参照してください。

3.1.2.1. 文字認識モデルデータの更新とリストア

「WingArc Data Capture」を利用している場合、文字認識モデルデータの更新が必要です。文字認識モデルデータの更新には、次の 2 種類があります。利用している環境に応じて、選択してください。

- [ツールで更新する \(p. 14\)](#)

文字認識モデルデータの更新ツールを利用して、インターネット経由で自動的に更新します。更新ツールにより文字認識モデルデータがバックアップされるため、Bridge サービスがインストールされているドライブに、12GB の空き容量が必要です。

- [モジュールをコピーして更新する \(p. 14\)](#)

文字認識モデルデータのモジュールをコピーして更新します。モジュールは文字認識モデルデータのメディアまたはサポートサイトからダウンロードして準備します。

ここでは、文字認識モデルデータの更新とリストアの手順を説明します。

ツールで更新する

文字認識モデルデータの更新

更新ツールを使って文字認識モデルデータを更新します。

1. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を停止します。
2. 管理者としてコマンドプロンプトを起動して、次のコマンドを実行します。

```
<Bridge サービスのインストール先>\util\model_data\update\update.cmd
```

コマンドが実行され、実行結果の「Current version」に更新されたモデルデータのバージョンが表示されます。

3. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を再起動します。

参考

- 最新のモデルデータは自動的にダウンロードされます。
- 更新前のモデルデータは、次のフォルダーにバックアップされます。
<Bridge サービスのインストール先>%utils%model_data%update%backup%builtin_ocr
なお、保存されるのは直前にバックアップされたバージョンのみです。それより古いモデルデータは順次削除されます。

文字認識モデルデータのリストア

文字認識モデルデータを更新前のバージョンにリストア（復元）します。

参考

更新前のモデルデータは、次のフォルダーにバックアップされています。

```
<Bridge サービスのインストール先>%utils%model_data%update%backup%builtin_ocr
```

1. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を停止します。
2. 次のフォルダー内のファイルをすべて削除します。
<Bridge サービスのインストール先>%ocr%builtin_ocr
3. バックアップされているモデルデータを、次のフォルダーに上書きコピーします。
<Bridge サービスのインストール先>%ocr%builtin_ocr
4. モデルデータの更新状況が記録された次のファイルを削除します。
<Bridge サービスのインストール先>%utils%model_data%update%work%model_data.version
5. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を再起動します。

モジュールをコピーして更新する

文字認識モデルデータの更新

モジュールをコピーして文字認識モデルデータを更新します。

1. 次のフォルダーを任意の場所にバックアップします。
<Bridge サービスのインストール先>%bridge%ocr%builtin_ocr%model_data

2. 文字認識モデルデータのモジュールを任意の場所に展開します。
「model_data」フォルダーが展開されます。
3. 展開した「model_data」フォルダーを次のフォルダーに上書きコピーします。
<Bridge サービスのインストール先>%bridge%ocr%builtin_ocr
4. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を再起動します。
5. 次の手順で文字認識モデルデータが適用されたことを確認します。
 - a. SPA の管理画面 (<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/spa/manager.jsp>) にログインします。
 - b. 設定カテゴリ [文書定義の設定] - [Loader 設定] をクリックし、Loader 設定画面を開きます。
 - c. [振り分け] タブで Bridge サービス名を選択します。
 - d. [サービス設定] タブで [プロパティ 設定] ボタンをクリックします。
 - e. [バージョン情報] タブをクリックし、製品バージョンが「Ver. 10.6.X.X」となっていることを確認します。

文字認識モデルデータのリストア

文字認識モデルデータを更新前のバージョンにリストア（復元）します。

1. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を停止します。
2. 次のフォルダー内のファイルをすべて削除します。
<Bridge サービスのインストール先>%ocr%builtin_ocr
3. 文字認識モデルデータを更新する際にバックアップしたデータを、次のフォルダーに上書きコピーします。
<Bridge サービスのインストール先>%ocr%builtin_ocr
4. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を再起動します。

3.1.3. アーカイブコマンドの更新とリストア

アーカイブコマンドの更新は、アーカイブコマンドを利用している場合のみ必要です。

- [アーカイブコマンドの更新手順 \(p. 15\)](#)
- [アーカイブコマンドのリストア手順 \(p. 16\)](#)

アーカイブコマンドの更新手順

アーカイブコマンドの更新手順は、以下のとおりです。

1. **アーカイブコマンドの停止確認**
アーカイブコマンドが起動していないことを確認します。
2. **既存モジュールのバックアップ**
次のフォルダーを任意の場所にバックアップします。
 - <アーカイブコマンドの配置先>%archive%info
 - <アーカイブコマンドの配置先>%archive%jre
 - <アーカイブコマンドの配置先>%archive%lib
 - <アーカイブコマンドの配置先>%archive%license

3. 既存モジュールの削除

次のフォルダーを削除します。

- <アーカイブコマンドの配置先>%archive%info
- <アーカイブコマンドの配置先>%archive%jre
- <アーカイブコマンドの配置先>%archive%lib
- <アーカイブコマンドの配置先>%archive%license

4. モジュールの展開

「archive_command.win.zip」を任意の場所に展開します。

「archive_command.win」フォルダーが展開されます。

5. モジュールの更新

展開した「archive」フォルダーに含まれるすべてのファイルとフォルダーを、「<アーカイブコマンドの配置先>%archive」フォルダーに上書きコピーします。

6. モジュール更新後の確認

コマンドプロンプトから<アーカイブコマンドの配置先>%archive%archive_document.bat を実行します。

表示される「spa-command」のバージョンが、「Ver. 10.6.X.X」となっていることを確認します。

アーカイブコマンドのリストア手順

モジュール更新前の状態に復旧する場合には、次の手順に従って、リストアしてください。

1. 更新手順 1 に従って、アーカイブコマンドの停止を確認します。
2. 更新手順 3 と同じフォルダーを削除します。
3. 更新手順 2 で取得したバックアップを元の場所にコピーします。
4. 更新手順 6 に従って、バージョンが本パッチ適用前のバージョンであることを確認します。

3.2. Linux 版のマイグレーション手順 (Ver. 10.1 以降の場合)

次のモジュールごとに、モジュールの更新とリストアの手順を説明します。

- SPA サーバー (Bridge サービスを含む) (p. 18)
- アーカイブコマンド (p. 22)

マイグレーションにあたっての注意事項

- 下記のモジュールは、すべて同じバージョンのものを使用してください。バージョンが異なるモジュールを使用すると、正常に動作しないことがあります。
 - SPA サーバー
 - Bridge サービス
 - Document Converter
 - アーカイブコマンド
- マイグレーション後は、SPA サーバーのインストーラーのバージョンが Ver. 10.6.0.2 に更新されません。Bridge サービスと Document Converter は、自動更新機能によりモジュールのみが更新され、インストーラーのバージョンは更新されません。インストーラーのバージョンの確認方法は、「[付録 2 バージョンの確認方法 \(p. 100\)](#)」を参照してください。

- インストーラーで最新バージョンの SPA にマイグレーションしたあと、以前のバージョンにリストアした環境は、そのままインストーラーを使ってマイグレーションし直すことができません。あらためてマイグレーションする場合は「付録3 リストアした環境を再度マイグレーションする (p. 100)」を参照してください。
- SPA Ver. 10.4 以前のバージョンからマイグレーションすると、アーカイブされた文書に対し、「確認済み」プロパティが付与されます。アーカイブされた文書数が多い場合、「確認済み」プロパティが付与されるまでに時間がかかる場合があります。
以下の環境で計測した時間を参考に示します。ただし、処理時間は文書数に比例するわけではありません。

項目	値
機種	Dell PowerEdge T640
OS	WS2019
CPU	Xeon シルバー 4110
メモリー	96GB
Disk	C ドライブ x 1 (RAID なし) : 800GB D ドライブ x 7 (RAID-0) : 5.6TB
SPA	D ドライブに SPA をインストール
アーカイブ文書数	100 万文書
処理時間	約 22 時間

3.2.1. マイグレーション前の準備

マイグレーションを実行する前に、次の準備を行ってください。

- 更新用モジュール（最新バージョンのインストーラー、アーカイブコマンド）を更新対象モジュールのある環境に用意します。
- モジュール更新時に、インストーラーによりプログラムがバックアップされるため、SPA サーバーがインストールされているドライブに、SPA のインストールフォルダーの 2 倍程度の空き容量が必要になる場合があります。
- インストーラーのアップデート機能を利用してマイグレーションしたことがある環境の場合、SPA のインストールフォルダー直下に更新時に取得したバックアップ（「_backup」フォルダー）が残っている場合があります。このフォルダーは、名称を変更したり、フォルダーごと移動したりして、SPA のインストールフォルダーに「_backup」フォルダーがない状態にしてください。「_backup」フォルダーが存在すると、最新バージョンのインストーラーによるバックアップが正しく実行されません。
- 各種データや、設定ファイルなどのコールドバックアップを取得します。取得したデータは、更新した環境をリストアする場合に必要になります。バックアップ手順は『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」の「コールドバックアップを行う」を参照してください。
モジュール更新時に、インストーラーによりプログラムはバックアップされますが、各種データや設定ファイルなどは、バックアップされません。一方、モジュール更新後にモジュール更新前の状態に戻す場合には、モジュールのほかに各種データや設定ファイルなども合わせてリストアする必要があります。

3.2.2. SPA サーバーの更新とリストア

以降の手順では、SPA サーバーのインストール先を<SPA_DIR>、Bridge サービスのインストール先を<SBS_DIR>と記載します。

- [SPA サーバー更新時の注意事項 \(p. 18\)](#)
- [SPA サーバーの更新手順 \(p. 18\)](#)
- [SPA サーバーのリストア手順 \(p. 21\)](#)

SPA サーバー更新時の注意事項

- SPA サーバーを更新すると、apache-tomcat がアップデートされます。apache-tomcat でポート番号や SSL などを設定している場合は、モジュール更新後に設定を変更してください。
- Bridge サービスの自動更新により、下記のファイルがアップデートされます。下記のファイルに個別の設定を行っている場合は、Bridge サービスの更新後に設定を変更してください。
 - <SBS_DIR>/bridge/lib/linux/OcrConfig.xml
 - <SBS_DIR>/bridge/lib/windows/OcrConfig.xml
- Bridge サービスの自動更新により、SPA Bridge Service のヒープサイズの設定内容もアップデートされます。Bridge サービスのモジュール更新後は、必要に応じてヒープサイズを変更してください。
- OCR サービスを利用している場合は、SPA サーバーを更新する前に、SPA の Loader 設定画面から、Distributor に追加されている OCR の読み取りが設定された文書定義が使用されている処理定義を無効にしてください。SPA サーバーの更新の際に SPA サーバーのプロセスを起動するため、処理定義を無効にしていない場合、アップデートする前の OCR サービスに SPA からアクセスすることで予期せぬエラーが発生する場合があります。
無効にした処理定義は、SPA サーバーと OCR サービスの更新が完了してから有効にしてください。

SPA サーバーの更新手順

1. サービスの終了

- アーカイブコマンドの確認 (利用している場合のみ)
モジュール更新対象の SPA サーバーにアーカイブを行っているアーカイブコマンドが起動していないことを確認します。
- Bridge サービスの終了
Bridge サービスをインストールしたユーザーで次のスクリプトを実行し、モジュール更新対象の SPA サーバーに接続しているすべての Bridge サービスのプロセスを終了します。
<SBS_DIR>/bridge/service/bin/service.sh

実行例

```
$/home/spa/SPA/bridge/service/bin/service.sh stop
```

- Document Converter の終了 (利用している場合のみ)
モジュール更新対象の SPA サーバーに接続しているすべての Document Converter を終了します。
- SPA サーバーのプロセスの終了
SPA サーバーをインストールしたユーザーで次のスクリプトを実行し、SPA サーバーのプロセスを終了します。

<SPA_DIR>/archiver/bin/shutdown.sh

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/shutdown.sh
```

2. Bridge サービスのデータ/ログのバックアップ

次のフォルダーを任意の場所にバックアップします。

- <SBS_DIR>/bridge/splstate (RDE 取り込みとフォルダー監視の処理状況)
- <SBS_DIR>/bridge/logs (Bridge サービスログファイル)

3. インストーラーの実行

次の手順でインストーラーを実行します。

- a. SPA サーバーの実行ユーザーで「install_x64.sh」を起動します。
- b. 使用許諾の条項が表示されるので、「yes」（同意する）を選択します。
- c. バックアップ先が表示されるので、パスを確認し、必要に応じて指定し直します。

参考

次のディレクトリはバックアップ先に指定できません。

- <SPA_DIR> (SPA のインストールディレクトリ)
 - <SPA_DIR>/archiver 配下のディレクトリ
 - 配下に「archiver」という名前のディレクトリがあるディレクトリ
 - ネットワークドライブ上にあるディレクトリ
- d. 更新するモジュールについての情報が表示されるので、内容に問題がないことを確認し、インストールを実行します。
 - e. 次のスクリプトを実行し、SPA サーバーのプロセスを起動します。
<SPA_DIR>/archiver/bin/startup.sh

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/startup.sh
```

制限

インストールの完了後に、SPA WebService が正常に起動しなかった場合は、次の手順で SPA WebService を再起動する必要があります。

- a. SPA Archive Server が起動したことを確認します。
- b. 次のスクリプトを実行し、SPA WebService を停止します。
<SPA_DIR>/archiver/bin/shutdown_web_service.sh

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/shutdown_web_service.sh
```

- c. 次のスクリプトを実行し、SPA WebService を開始します。
<SPA_DIR>/archiver/bin/startup_web_service.sh

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/startup_web_service.sh
```

4. Bridge サービスの起動

次のスクリプトを実行し、Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。

<SBS_DIR>/bridge/service/bin/service.sh

実行例

```
$/home/spa/SPA/bridge/service/bin/service.sh start
```

5. Bridge サービスのオンライン確認

次の手順で Bridge サービスがオンラインになっていることを確認します。

- a. SPA の管理画面 (<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/spa/manager.jsp>) にログインします。
- b. 管理画面の設定カテゴリ [文書定義の設定] - [Loader 設定] をクリックし、Loader 設定画面を開きます。
- c. [振り分け] タブで Bridge サービスがオンラインになっていることを確認します。

6. Bridge サービスの終了

Bridge サービスを自動更新するため、Bridge サービスのプロセスを終了します。

Bridge サービスをインストールしたユーザーで次のスクリプトを実行し、モジュール更新対象の SPA サーバーに接続しているすべての Bridge サービスのプロセスを終了します。

<SBS_DIR>/bridge/service/bin/service.sh

実行例

```
$/home/spa/SPA/bridge/service/bin/service.sh stop
```

7. Bridge サービスの起動

次のスクリプトを実行し、Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。Bridge サービスが自動更新されます。

<SBS_DIR>/bridge/service/bin/service.sh

実行例

```
$/home/spa/SPA/bridge/service/bin/service.sh start
```

8. SPA サーバーのモジュール更新の確認

ログイン画面 (<http://<IP アドレスまたはサーバー名>:44230/spa/>) を表示し、バージョンが「Ver. 10.6.X.X」と表示されていることを確認します。

9. Bridge サービスのモジュール更新の確認

次の手順で Bridge サービスのモジュールが更新されたことを確認します。

- a. SPA の管理画面 (<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/spa/manager.jsp>) にログインします。
- b. 管理画面の設定カテゴリ [文書定義の設定] - [Loader 設定] をクリックし、Loader 設定画面を開きます。
- c. [振り分け] タブで Bridge サービス名を選択します。
- d. [サービス設定] タブで [プロパティ設定] ボタンをクリックします。
- e. [バージョン情報] タブをクリックし、製品バージョンが「Ver. 10.6.X.X」となっていることを確認します。

10. Document Converter の更新と起動 (利用している場合)

モジュール更新対象の SPA サーバーに接続していたすべての Document Converter を更新し、起動します。更新と起動の手順は、「[SPA サーバーの更新とリストア \(p. 8\)](#)」を参照してください。

SPA サーバーのリストア手順

モジュール更新前の状態に復旧する場合には、次の手順に従って、リストアしてください。

1. SPA サーバーと Bridge サービスのモジュール更新手順 1 に従って、サービスを終了します。
2. 次のファイルとディレクトリを削除します。
 - <SPA_DIR>/archiver/apache-tomcat
 - <SPA_DIR>/archiver/bin
 - <SPA_DIR>/archiver/bridge
 - <SPA_DIR>/archiver/conf
 - <SPA_DIR>/archiver/data
 - <SPA_DIR>/archiver/jre
 - <SPA_DIR>/archiver/lib
 - <SPA_DIR>/archiver/license
 - <SPA_DIR>/archiver/solr
 - <SPA_DIR>/archiver/util
3. インストーラーが取得したバックアップを、<SPA_DIR>/に上書きコピーします。デフォルトのバックアップ先は次のとおりです。
 - <SPA_DIR>/_backup/
4. 更新前に取得した各種データや設定ファイルのバックアップをリストアします。

リストアの際は、『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」-「コールドバックアップからのリストア」の手順 4~7 を実行してください。

5. モジュールの更新手順 2 でバックアップした<SBS_DIR>/bridge/logs フォルダを、<SBS_DIR>/bridge フォルダに上書きコピーします。
6. <SBS_DIR>/bridge/splstate フォルダを削除し、モジュールの更新手順 2 でバックアップした<SBS_DIR>/bridge/splstate フォルダを<SBS_DIR>/bridge フォルダにコピーします。
7. SPA サーバーをインストールしたユーザーで次のスクリプトを実行し、SPA サーバーのプロセスを起動します。
<SPA_DIR>/archiver/bin/startup.sh

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/startup.sh
```

8. SPA サーバーの更新手順 4 に従って Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。
9. SPA サーバーの更新手順 6 に従って Bridge サービス (SPA Bridge Service) を終了し、SPA サーバーの更新手順 4 に従って Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。
10. SPA サーバーの更新手順 8 に従って、SPA のバージョンが更新前のバージョンであることを確認します。
11. SPA サーバーの更新手順 9 に従って、Bridge サービスのバージョンが更新前のバージョンであることを確認します。
12. モジュール更新対象の SPA サーバーに接続していたすべての Document Converter をリストアし、起動します。リストアと起動の手順は、「[SPA サーバーの更新とリストア \(p. 8\)](#)」を参照してください。

3.2.3. アーカイブコマンドの更新とリストア

アーカイブコマンドの更新は、アーカイブコマンドを利用している場合のみ必要です。

- [アーカイブコマンドの更新手順 \(p. 22\)](#)
- [アーカイブコマンドのリストア手順 \(p. 23\)](#)

アーカイブコマンドの更新手順

アーカイブコマンドの更新手順は、以下のとおりです。以降の手順では、アーカイブコマンドの配置先を<CMD_DIR>と記載します。

1. **アーカイブコマンドの停止確認**
アーカイブコマンドが起動していないことを確認します。
2. **既存モジュールのバックアップ**
次のディレクトリを任意の場所にバックアップします。
 - <CMD_DIR>/archive/info
 - <CMD_DIR>/archive/jre
 - <CMD_DIR>/archive/lib
 - <CMD_DIR>/archive/license
3. **既存モジュールの削除**

次のディレクトリを削除します。

- <CMD_DIR>/archive/info
- <CMD_DIR>/archive/jre
- <CMD_DIR>/archive/lib
- <CMD_DIR>/archive/license

4. モジュールの展開

「archive_command_rhel.tar.gz」を任意の場所に展開します。

「archive_command.rhel」ディレクトリが展開されます。

5. モジュールの更新

展開したディレクトリ内の「archiver」ディレクトリを<CMD_DIR>に上書きコピーします。

実行例

```
$cp -rpf archive/* /home/spa/archive
```

6. モジュール更新の確認

コマンドプロンプトから<CMD_DIR>/archive/archive_document.sh を実行します。

表示される「spa-command」のバージョンが、「Ver. 10.6.X.X」となっていることを確認します。

アーカイブコマンドのリストア手順

モジュール更新前の状態に復旧する場合には、次の手順に従って、リストアしてください。

1. 更新手順 1 に従って、アーカイブコマンドの停止を確認します。
2. 更新手順 3 と同じフォルダーを削除します。
3. 更新手順 2 で取得したバックアップを元の場所にコピーします。
4. 更新手順 6 に従って、バージョンが本パッチ適用前のバージョンであることを確認します。

4. SPA Ver. 10.0 からのマイグレーション

Ver. 10.0 からのマイグレーションは、マイグレーション後も同じ環境を利用するか、既存バージョンとは別の環境で利用するかで方法が異なります。ここでは、各マイグレーション方法の流れを説明します。

- [マイグレーション後も同じ環境を利用する場合の流れ \(p. 24\)](#)
- [マイグレーション後は別の環境を利用する場合流れ \(p. 24\)](#)

なお、SPA Ver. 10.0 に加え、Ver. 10.0 からパッチを適用することで Ver. 10.1 に更新した SPA も対象となります。対象の SPA の確認方法は、「[付録 2 バージョンの確認方法 \(p. 100\)](#)」を参照してください。

マイグレーション後も同じ環境を利用する場合の流れ

次の流れでマイグレーションします。同じ環境で利用する場合、モジュールの更新のみでマイグレーションは完了します。データ資産を移行する必要はありません。

1. 旧環境のコールドバックアップを取得するなど、マイグレーション前の準備を行います。
2. 最新バージョンのインストーラーを実行し、モジュール（SPA サーバー、Bridge サービス）を更新します。更新手順については、以下の章を参照してください。
 - Windows 環境の場合
「[Windows 版のマイグレーション手順 \(Ver.10.0 の場合\) \(p. 25\)](#)」
 - Linux 環境の場合
「[Linux 版のマイグレーション手順 \(Ver. 10.0 の場合\) \(p. 37\)](#)」
3. Documet Converter を利用している場合、Document Converter を更新します。
4. アーカイブコマンドを利用している場合、アーカイブコマンドを更新します。

マイグレーション後は別の環境を利用する場合流れ

次の流れでマイグレーションします。マイグレーション後は別の環境を利用する場合、旧環境のインストーラーとアクティベーションキーが必要になります。

1. 旧環境のコールドバックアップを取得します。詳細は、Ver. 10 の『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」の「コールドバックアップを行う」を参照してください。
2. 移行後の環境に、Ver. 10.0 をインストールし、アクティベーションします。詳細は、Ver. 10 の『セットアップガイド』を参照してください。
3. 手順 1 で取得したバックアップをリストアします。詳細は、Ver. 10 の『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」の「コールドバックアップからのリストア」を参照してください。
4. 最新バージョンのインストーラーを実行し、モジュール（SPA サーバー、Bridge サービス）を更新します。更新手順については、以下の章を参照してください。
 - Windows 環境の場合
「[Windows 版のマイグレーション手順 \(Ver.10.0 の場合\) \(p. 25\)](#)」
 - Linux 環境の場合
「[Linux 版のマイグレーション手順 \(Ver. 10.0 の場合\) \(p. 37\)](#)」

5. Document Converter を利用している場合、Document Converter を更新します。
6. アーカイブコマンドを利用している場合、アーカイブコマンドを更新します。

4.1. Windows 版のマイグレーション手順 (Ver.10.0 の場合)

次のモジュールごとに、モジュールの更新とリストアの手順を説明します。

- SPA サーバー (Bridge サービスを含む) (p.26)
- Document Converter (p.32)
- アーカイブコマンド (p.36)

マイグレーションにあたっての注意事項

- 下記のモジュールは、すべて同じバージョンのものを使用してください。バージョンが異なるモジュールを使用すると、正常に動作しないことがあります。
 - SPA サーバー
 - Bridge サービス
 - Document Converter
 - アーカイブコマンド
- マイグレーション後は、SPA サーバーのインストーラーのバージョンが Ver. 10.6.0.2 に更新されます。Bridge サービスと Document Converter は、自動更新機能によりモジュールのみが更新され、インストーラーのバージョンは更新されません。インストーラーのバージョンの確認方法は、「[付録 2 バージョンの確認方法 \(p.100\)](#)」を参照してください。
- インストーラーで最新バージョンの SPA にマイグレーションしたあと、以前のバージョンにリストアした環境は、そのままインストーラーを使ってマイグレーションし直すことができません。あらかじめマイグレーションする場合は「[付録 3 リストアした環境を再度マイグレーションする \(p.100\)](#)」を参照してください。
- SPA Ver. 10.4 以前のバージョンからマイグレーションすると、アーカイブされた文書に対し、「確認済み」プロパティが付与されます。アーカイブされた文書数が多い場合、「確認済み」プロパティが付与されるまでに時間がかかる場合があります。以下の環境で計測した時間を参考に示します。ただし、処理時間は文書数に比例するわけではありません。

項目	値
機種	Dell PowerEdge T640
OS	WS2019
CPU	Xeon シルバー 4110
メモリー	96GB
Disk	C ドライブ x 1 (RAID なし) : 800GB D ドライブ x 7 (RAID-0) : 5.6TB
SPA	D ドライブに SPA をインストール
アーカイブ文書数	100 万文書

項目	値
処理時間	約 22 時間

4.1.1. マイグレーション前の準備

マイグレーションを実行する前に、次の準備を行ってください。

- 更新用モジュール（最新バージョンのインストーラー、Document Converter、アーカイブコマンド）を更新対象モジュールのある環境に用意します。
- Document Converter を利用している場合、Document Converter の Ver. 10.0 のインストーラーを準備します。Ver. 10.0 のインストーラーは、更新したモジュールをリストアする場合に必要になります。
- モジュール更新時に、インストーラーによりプログラムがバックアップされるため、SPA サーバーがインストールされているドライブに、SPA のインストールフォルダーの 2 倍程度の空き容量が必要になる場合があります。
- 各種データや、設定ファイルなどのコールドバックアップを取得します。取得したデータは、更新した環境をリストアする場合に必要になります。バックアップ手順は『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」の「コールドバックアップを行う」を参照してください。
モジュール更新時に、インストーラーによりプログラムはバックアップされますが、各種データや設定ファイルなどは、バックアップされません。一方、モジュール更新後にモジュール更新前の状態に戻す場合には、モジュールのほかに各種データや設定ファイルなども合わせてリストアする必要があります。
- Microsoft Windows Server 2012 または Microsoft Windows Server 2012 R2 で Bridge サービスを利用する場合、Media Foundation がインストールされている必要があります。Media Foundation のインストールの確認およびインストール手順は次のとおりです。
 1. スタート画面から [サーバー マネージャー] を選択します。
 2. [管理] - [役割と機能の追加] を選択します。
 3. 表示される画面に従って Bridge サービスを利用する環境を選択し、機能の選択画面の一覧にある [Media Foundation] または [メディア ファンデーション] を確認します。
 - チェックボックスがオンで「インストール済み」と表示される場合
Media Foundation がインストールされています。
 - チェックボックスがオフの場合
チェックボックスをオンにして Media Foundation をインストールします。インストール後、Microsoft Windows Server 2012 または Microsoft Windows Server 2012 R2 を再起動します。

4.1.2. SPA サーバーの更新とリストア

SPA サーバーの更新とリストアの手順を説明します。

- [SPA サーバー更新時の注意事項 \(p. 27\)](#)
- [SPA サーバーの更新手順 \(p. 27\)](#)
- [SPA サーバーのリストア手順 \(p. 29\)](#)

SPA サーバー更新時の注意事項

- インストーラーは、「管理者」ユーザーで実行してください。
- モジュールを更新すると、apache-tomcat がアップデートされます。apache-tomcat でポート番号や SSLなどを設定している場合は、モジュール更新後に設定を変更してください。
- Bridge サービスの自動更新により、下記のファイルがアップデートされます。下記のファイルに個別の設定を行っている場合は、Bridge サービスの更新後に設定を変更してください。
 - <Bridge サービスのインストール先>%bridge%lib%linux%OcrConfig.xml
 - <Bridge サービスのインストール先>%bridge%lib%windows%OcrConfig.xml
- Bridge サービスの自動更新により、SPA Bridge Service のヒープサイズの設定内容もアップデートされます。Bridge サービスのモジュール更新後は、必要に応じてヒープサイズを変更してください。

SPA サーバーの更新手順

1. サービスの終了

- アーカイブコマンドの確認（利用している場合のみ）
モジュール更新対象の SPA サーバーにアーカイブを行っているアーカイブコマンドが起動していないことを確認します。
- Bridge サービスの終了
モジュール更新対象の SPA サーバーに接続しているすべての Bridge サービス（SPA Bridge Service）を終了します。
- Document Converter の終了（利用している場合のみ）
モジュール更新対象の SPA サーバーに接続しているすべての Document Converter を終了します。
- SPA サーバーのサービスの終了
次のサービスを、次の順番ですべて終了します。
 - SPA WebService
 - SPA Archive Server
 - SPA Solr Server
 - SPA ZooKeeper
 - SPA PostgreSQL Service

2. インストーラーの実行

次の手順でインストーラーを実行します。

- a. 「%SPA%Installer%install.exe」を起動します。
[言語の選択] ダイアログが表示されます。
- b. 使用する言語を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
[使用許諾契約] 画面が表示されます。
- c. 「使用許諾の条項に同意します」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
[バックアップ先] 画面が表示されます。
- d. バックアップ先を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。

参考

次のフォルダーはバックアップ先に指定できません。

- <SPA のインストールフォルダー>
- <SPA のインストールフォルダー>\archiver 配下のフォルダー
- 配下に「archiver」という名前のフォルダーがあるフォルダー
- ネットワークドライブ上にあるフォルダー

更新するモジュールについての情報が表示されます。

- e. 内容に問題がないことを確認し、[インストール] ボタンをクリックします。最新バージョンの SPA のインストールが開始されます。
- f. インストールが完了すると、SPA サーバーのサービスが起動されます。[完了] ボタンをクリックします。

制限

インストールの完了後に、SPA WebService が正常に起動しなかった場合は、次の手順で SPA WebService を再起動する必要があります。

- a. SPA Archive Server が起動したことを確認します。
- b. SPA WebService を停止します。
- c. SPA WebService を開始します。

3. Bridge サービスの起動

Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。Bridge サービスは、「SPA Bridge Service」を起動することで、自動的にアップデートされます。

なお、「WingArc Data Capture」を利用している場合、文字認識モデルデータの更新が必要です。「[文字認識モデルデータの更新とリストア \(p. 30\)](#)」に従って、文字認識モデルデータを更新してください。

4. SPA サーバーのモジュール更新の確認

ログイン画面 (<http://<IP アドレスまたはサーバー名>:44230/spa/>) を表示し、バージョンが「Ver. 10.6.X.X」と表示されていることを確認します。

5. Bridge サービスのモジュール更新の確認

次の手順で Bridge サービスのモジュールが更新されたことを確認します。

- a. SPA の管理画面 (<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/spa/manager.jsp>) にログインします。
- b. 管理画面の設定カテゴリ [文書定義の設定] - [Loader 設定] をクリックし、Loader 設定画面を開きます。
- c. [振り分け] タブで Bridge サービス名を選択します。
- d. [サービス設定] タブで [プロパティ 設定] ボタンをクリックします。
- e. [バージョン情報] タブをクリックし、製品バージョンが「Ver. 10.6.X.X」となっていることを確認します。

6. Document Converter の起動 (利用している場合)

「[Document Converter の更新とリストア \(p. 32\)](#)」に従ってモジュールを更新してから起動します。

SPA サーバーのリストア手順

モジュール適用前の状態に復元する場合には、次の手順に従って、リストアしてください。

1. SPA サーバーと Bridge サービスのモジュール適用手順 1 に従って、サービスを終了します。
2. 次のファイルとフォルダーを削除します。
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%apache-tomcat
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%bridge
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%conf
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%data
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%jre
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%launcher
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%lib
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%license
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%solr
 - <SPA サーバーのインストール先>%archiver%util
3. インストーラーが取得したバックアップを、<SPA サーバーのインストール先>%に上書きコピーします。

デフォルトのバックアップ先は次のとおりです。

 - <SPA サーバーのインストール先>%_backup%
4. 更新前に取得した各種データや設定ファイルのバックアップをリストアします。

リストアの際は、『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」-「コールドバックアップからのリストア」の手順 4~5 を実行してください。
5. 次のフォルダーを任意の場所にバックアップします。
 - <Bridge サービスのインストール先>%bridge%splstate (RDE 取り込みとフォルダー監視の処理状況)
 - <Bridge サービスのインストール先>%bridge%logs (Bridge サービスログファイル)
 - <Bridge サービスのインストール先>%bridge%data%simulation (OCR シミュレーションファイル)
6. Windows の [コントロール パネル] の [プログラムのアンインストール] または [プログラムの追加と削除] から、既存の Bridge サービスをアンインストールします。

アンインストール方法では、「すべてアンインストール」を選択します。
7. 次のサービスを、次の順番ですべて起動します。
 - a. SPA PostgreSQL Service
 - b. SPA ZooKeeper
 - c. SPA Solr Server
 - d. SPA Archive Server
 - e. SPA Webservice
8. 次の手順で、Bridge サービスをインストールします。
 - a. Bridge サービスのインストーラーをダウンロードします。手順の詳細は、『セットアップガイド』の「Bridge サービスのインストーラーをダウンロードする」を参照してください。

- b. Bridge サービスをインストールします。手順の詳細は、『セットアップガイド』の「Bridge サービスをインストールする」を参照してください。
9. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を終了します。
10. 手順 5 でバックアップしたフォルダーを、次のフォルダーに上書きコピーします。
<Bridge サービスのインストール先>\bridge
11. OCR 機能を利用している場合は、文字認識モデルデータもリストアします。詳細は、「[文字認識モデルデータの更新とリストア \(p. 30\)](#)」を参照してください。
12. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。
13. SPA サーバーの更新手順 4 に従って、SPA のバージョンが更新前のバージョンであることを確認します。
14. SPA サーバーの更新手順 5 に従って、Bridge サービスのバージョンが更新前のバージョンであることを確認します。
15. Document Converter を起動します。Document Converter は、更新前のバージョンに復元してから起動してください。詳細は、「[Document Converter の更新とリストア \(p. 32\)](#)」を参照してください。

4.1.2.1. 文字認識モデルデータの更新とリストア

「WingArc Data Capture」を利用している場合、文字認識モデルデータの更新が必要です。文字認識モデルデータの更新には、次の 2 種類があります。利用している環境に応じて、選択してください。

- [ツールで更新する \(p. 30\)](#)
文字認識モデルデータの更新ツールを利用して、インターネット経由で自動的に更新します。更新ツールにより文字認識モデルデータがバックアップされるため、Bridge サービスがインストールされているドライブに、12GB の空き容量が必要です。
- [モジュールをコピーして更新する \(p. 31\)](#)
文字認識モデルデータのモジュールをコピーして更新します。モジュールは文字認識モデルデータのメディアまたはサポートサイトからダウンロードして準備します。

ここでは、文字認識モデルデータの更新とリストアの手順を説明します。

参考

SPA Ver. 10.1 で、文字認識モデルデータを Bridge サービスのインストール先にコピーしないと WingArc Data Capture 以外の OCR エンジンが利用できない問題が解消されました。そのため、最新バージョンの SPA で WingArc Data Capture を利用しない場合、文字認識モデルデータの更新は不要です。

ツールで更新する

文字認識モデルデータの更新

更新ツールを使って文字認識モデルデータを更新します。

1. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を停止します。
2. 管理者としてコマンドプロンプトを起動して、次のコマンドを実行します。

```
<Bridge サービスのインストール先>\util\model_data\update\update.cmd
```

コマンドが実行され、実行結果の「Current version」に更新されたモデルデータのバージョンが表示されます。

3. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を再起動します。

参考

- 最新のモデルデータは自動的にダウンロードされます。
- 更新前のモデルデータは、次のフォルダーにバックアップされます。
<Bridge サービスのインストール先>%utils%model_data%update%backup%builtin_ocr
なお、保存されるのは直前にバックアップされたバージョンのみです。それより古いモデルデータは順次削除されます。

文字認識モデルデータのリストア

文字認識モデルデータを更新前のバージョンにリストア（復元）します。

参考

更新前のモデルデータは、次のフォルダーにバックアップされています。

<Bridge サービスのインストール先>%utils%model_data%update%backup%builtin_ocr

1. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を停止します。
2. 次のフォルダー内のファイルをすべて削除します。
<Bridge サービスのインストール先>%ocr%builtin_ocr
3. バックアップされているモデルデータを、次のフォルダーに上書きコピーします。
<Bridge サービスのインストール先>%ocr%builtin_ocr
4. モデルデータの更新状況が記録された次のファイルを削除します。
<Bridge サービスのインストール先>%utils%model_data%update%work%model_data.version
5. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を再起動します。

モジュールをコピーして更新する

文字認識モデルデータの更新

モジュールをコピーして文字認識モデルデータを更新します。

1. 次のフォルダーを任意の場所にバックアップします。
<Bridge サービスのインストール先>%bridge%ocr%builtin_ocr%model_data
2. 文字認識モデルデータのモジュールを任意の場所に展開します。
「model_data」フォルダーが展開されます。
3. 展開した「model_data」フォルダーを次のフォルダーに上書きコピーします。
<Bridge サービスのインストール先>%bridge%ocr%builtin_ocr
4. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を再起動します。
5. Bridge サービスを更新するため、次の手順で再起動します。
 - a. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を終了します。

- b. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。
6. 次の手順で文字認識モデルデータが適用されたことを確認します。
 - a. SPA の管理画面 (<http://<サーバー名またはIPアドレス>:44230/spa/manager.jsp>) にログインします。
 - b. 設定カテゴリ [文書定義の設定] - [Loader 設定] をクリックし、Loader 設定画面を開きます。
 - c. [振り分け] タブで Bridge サービス名を選択します。
 - d. [サービス設定] タブで [プロパティ 設定] ボタンをクリックします。
 - e. [バージョン情報] タブをクリックし、製品バージョンが「Ver. 10.6.X.X」となっていることを確認します。

文字認識モデルデータのリストア

文字認識モデルデータをモジュール適用前の状態に復元するには、次の手順に従ってリストアしてください。

1. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を停止します。
2. 次のフォルダー内のファイルをすべて削除します。
<Bridge サービスのインストール先>%ocr%builtin_ocr
3. 文字認識モデルデータを更新する際にバックアップしたデータを、次のフォルダーに上書きコピーします。
<Bridge サービスのインストール先>%ocr%builtin_ocr
4. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を再起動します。

4.1.3. Document Converter の更新とリストア

SPA Ver. 10.1 で、Document Converter に自動更新機能が追加されました。そのため、Document Converter は、自動更新機能を利用するかどうかによってモジュールの更新手順が異なります。なお、本手順は、Document Converter をインストールしている場合のみ必要です。

- 自動更新機能を利用する場合
「[Document Converter の更新とリストア（自動更新機能を利用する場合）](#) (p. 32)」を参照してください。
- 自動更新機能を利用しない場合、および、Ver. 10.1 への更新時に自動更新機能を使わない手順で更新した場合
「[Document Converter の更新とリストア（自動更新機能を利用しない場合）](#) (p. 35)」を参照してください。

4.1.3.1. Document Converter の更新とリストア（自動更新機能を利用する場合）

自動更新機能を利用する場合の更新とリストアの手順は以下のとおりです。

- [Document Converter の更新手順](#) (p. 32)
- [Document Converter のリストア手順](#) (p. 34)

Document Converter の更新手順

自動更新機能を利用する場合、次の流れでモジュールを適用します。

1. 既存の Bridge サービスのアンインストール

本手順は、Document Converter がインストールされている環境に Bridge サービスがインストールされている場合のみ必要です。

- a. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を終了します。
- b. 次のフォルダーを任意の場所にバックアップします。
 - <Bridge サービスのインストール先>%bridge%state (RDE 取り込みとフォルダー監視の処理状況)
 - <Bridge サービスのインストール先>%bridge%logs (Bridge サービスログファイル)
 - <Bridge サービスのインストール先>%bridge%data%simulation (OCR シミュレーションファイル)
- c. Windows の [コントロール パネル] の [プログラムのアンインストール] または [プログラムの追加と削除] から、既存の Bridge サービスをアンインストールします。アンインストール方法では、「すべてアンインストール」を選択します。

2. 既存の Document Converter のアンインストール

次の手順で、既存の Document Converter をアンインストールします。

- a. Document Converter を起動している場合は、スタート画面から [SPA Document Converter Stop] を選択して、Document Converter を終了します。
- b. Windows の [コントロール パネル] の [プログラムのアンインストール] または [プログラムの追加と削除] を選択します。
- c. 「SPA Document Converter Ver.10.0」を選択して、[アンインストール] ボタンをクリックします。
アンインストール画面が起動します。
- d. [はい] ボタンをクリックします。
アンインストールが完了します。

3. 最新バージョンの Bridge サービスのインストール

最新バージョンの Bridge サービスをインストールします。インストール手順は、『セットアップガイド』の「Bridge サービスのインストール」を参照してください。

4. RDE 取り込みとフォルダー監視の処理状況のリストア

本手順は、Document Converter がインストールされている環境に Bridge サービスがインストールされている場合のみ必要です。

次の手順で、RDE 取り込みとフォルダー監視の処理状況をリストアします。

- a. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を終了します。
- b. 手順 1 でバックアップしたフォルダーを次のフォルダーに上書きコピーします。
<Bridge サービスのインストール先>%bridge
- c. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。

5. 最新バージョンの Document Converter のインストール

最新バージョンの Document Converter をインストールします。インストール手順は、『セットアップガイド』の「インストールする」を参照してください。

6. Document Converter の起動

スタート画面から [SPA Document Converter Start] を選択して Document Converter を起動します。

7. 接続設定を変更する

モジュールの更新後、既存の接続設定の内容を変更します。

- a. 管理画面の設定カテゴリ [環境設定] – [Document Converter 設定] で、登録済みの接続設定を選択し [接続先の編集] ボタンをクリックします。
[接続先の編集] ダイアログが表示されます。
- b. [接続タイプ] を [Bridge] に変更します。
[Bridge 接続先] から、Bridge サービス名を選択します。
- c. [OK] ボタンをクリックします。
[接続先の編集] ダイアログが閉じます。
- d. [保存] ボタンをクリックします。

Document Converter のリストア手順

モジュール適用前の状態に復元するには、次の手順に従って、リストアしてください。

1. 最新バージョン Document Converter をアンインストールします。アンインストール手順は、『セットアップガイド』の「Document Converter のアンインストール」を参照してください。
2. Bridge サービスをリストアします。
 - Ver. 10.0 で Document Converter がインストールされている環境に Bridge サービスがインストールされている場合
次の手順で、リストアしてください。
 1. SPA サーバーが Ver. 10.0 にリストアされていることを確認します。
 2. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を終了します。
 3. Bridge サービスをアンインストールします。手順については、『セットアップガイド』の「Bridge サービスのアンインストール」を参照してください。
 4. Bridge サービスのインストーラーをダウンロードします。手順については、『セットアップガイド』の「Bridge サービスのインストーラーをダウンロードする」を参照してください。
 5. Bridge サービスをインストールします。手順については、『セットアップガイド』の「Bridge サービスをインストールする」を参照してください。
 6. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を終了します。
 7. 更新手順 1 でバックアップした次のフォルダーを<Bridge サービスのインストール先>¥bridge フォルダーに上書きコピーします。
 - <Bridge サービスのインストール先>¥bridge¥logs
 - <Bridge サービスのインストール先>¥bridge¥data¥simulation
 8. <Bridge サービスのインストール先>¥bridge¥splstate を削除し、更新手順 1 でバックアップした<Bridge サービスのインストール先>¥bridge¥splstate フォルダーを、<Bridge サービスのインストール先>¥bridge フォルダーにコピーします。
 9. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。
 - Ver. 10.0 で Document Converter がインストールされている環境に Bridge サービスがインストールされていない場合
最新バージョンの Bridge サービスをアンインストールします。手順については、『セットアップガイド』の「Bridge サービスのアンインストール」を参照してください。
3. 復元前の Document Converter をインストールします。インストール手順は、『セットアップガイド』の「Document Converter Ver. 10.0 のインストール」を参照してください。

4.1.3.2. Document Converter の更新とリストア（自動更新機能を利用しない場合）

自動更新機能を利用しない場合の更新とリストアの手順は以下のとおりです。

- [Document Converter の更新手順 \(p. 35\)](#)
- [Document Converter のリストア手順 \(p. 36\)](#)

Document Converter の更新手順

更新手順は以下のとおりです。更新は、管理者権限を持つユーザーで行ってください。

1. Document Converter の終了

Document Converter を起動している場合は、スタート画面から [SPA Document Converter Stop] を選択して、Document Converter を終了します。

2. 既存モジュールのバックアップ

次のファイルとフォルダーを任意の場所にバックアップします。

- <Document Converter のインストール先>%docconverter%DocumentConverter.exe
- <Document Converter のインストール先>%docconverter%apache-tomcat
- <Document Converter のインストール先>%docconverter%JRE
- <Document Converter のインストール先>%docconverter%license

3. レジストリからの JRE 内のフォント情報の削除

次の手順で、レジストリから JRE 内のフォント情報を削除します。

- a. 「dcjreunregister.zip」を任意の場所に展開します。
「dcjreunregister」フォルダーが展開されます。
- b. 展開したフォルダー内の「dcjreunregister.bat」を次のフォルダーにコピーします。
<Document Converter のインストール先>%docconverter%JRE
- c. コマンドプロンプトから<Document Converter のインストール先>%docconverter%JRE
%dcjreunregister.bat を実行します。

実行例

```
C:\SPA\docconverter\JRE\dcjreunregister.bat
```

- d. OS を再起動します。

4. 既存モジュールの削除

次のファイルとフォルダーを削除します。

- <Document Converter のインストール先>%docconverter%DocumentConverter.exe
- <Document Converter のインストール先>%docconverter%apache-tomcat
- <Document Converter のインストール先>%docconverter%JRE
- <Document Converter のインストール先>%docconverter%license

5. モジュールの展開

パッチモジュール「dc_win.zip」を任意の場所に展開します。

「dc_win」フォルダーが展開されます。

6. モジュールの適用

展開した「SPA」フォルダー内の「docconverter」フォルダーを<Document Converter のインストール先>に上書きコピーします。

7. Bridge サービスの設定ファイルの編集

この手順は、Document Converter がインストールされている環境に Bridge サービスがインストールされている場合のみ必要です。

- a. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を終了します。
- b. Bridge サービスの設定ファイル (<Bridge サービスのインストール先>%bridge%conf%spa-bridge.properties) を任意のフォルダーにコピーします。
- c. 「<Bridge サービスのインストール先>%bridge%conf%spa-bridge.properties」をテキストエディターで開き、ファイルの末尾に「spa.loader.doc-converter.tomcat.url=」という行を追記して、上書き保存します。
- d. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。

8. Document Converter の起動

スタート画面から [SPA Document Converter Start] を選択して Document Converter を起動します。

9. モジュール適用の確認

次の手順で Document Converter のモジュールが適用されたことを確認します。

- a. 次のファイルのプロパティを開いて、「詳細」タブの「ファイルバージョン」および「製品バージョン」で、印刷アプリケーションのバージョンが「Ver. 1.0.0.3」となっていることを確認します。

<Document Converter のインストール先>%docconverter%DocumentConverter.exe

- b. 次のコマンドを実行して、「Server Version」で、WAR ファイルのバージョンが「Ver. 10.6.X.X」となっていることを確認します。

<Document Converter のインストール先>%docconverter%util%version.cmd

Document Converter のリストア手順

モジュール適用前の状態に復旧する場合には、次の手順に従って、リストアしてください。

1. Document Converter をアンインストールします。アンインストール方法は、Ver. 10 の『セットアップガイド』を参照してください。
2. Ver. 10.0 のインストーラーで Document Converter をインストールします。インストール方法は、Ver. 10 の『セットアップガイド』を参照してください。
3. SPA と Document Converter の接続設定および PDF ファイルへの変換設定を行います。設定方法は、Ver.10 の『製品ガイド』を参照してください。

4.1.4. アーカイブコマンドの更新とリストア

アーカイブコマンドの更新は、アーカイブコマンドを利用している場合のみ必要です。

- [アーカイブコマンドの更新手順 \(p. 36\)](#)
- [アーカイブコマンドのリストア手順 \(p. 37\)](#)

アーカイブコマンドの更新手順

アーカイブコマンドの更新手順は、以下のとおりです。

1. アーカイブコマンドの停止確認

アーカイブコマンドが起動していないことを確認します。

2. 既存モジュールのバックアップ

次のフォルダーを任意の場所にバックアップします。

- <アーカイブコマンドの配置先>%archive%info
- <アーカイブコマンドの配置先>%archive%jre
- <アーカイブコマンドの配置先>%archive%lib
- <アーカイブコマンドの配置先>%archive%license

3. 既存モジュールの削除

次のフォルダーを削除します。

- <アーカイブコマンドの配置先>%archive%info
- <アーカイブコマンドの配置先>%archive%jre
- <アーカイブコマンドの配置先>%archive%lib
- <アーカイブコマンドの配置先>%archive%license

4. モジュールの展開

「archive_command.win.zip」を任意の場所に展開します。

「archive_command.win」フォルダーが展開されます。

5. モジュールの更新

展開した「archive」フォルダーに含まれるすべてのファイルとフォルダーを、「<アーカイブコマンドの配置先>%archive」フォルダーに上書きコピーします。

6. モジュール更新後の確認

コマンドプロンプトから<アーカイブコマンドの配置先>%archive%archive_document.bat を実行します。

表示される「spa-command」のバージョンが、「Ver. 10.6.X.X」となっていることを確認します。

アーカイブコマンドのリストア手順

モジュール更新前の状態に復旧する場合には、次の手順に従って、リストアしてください。

1. 更新手順 1 に従って、アーカイブコマンドの停止を確認します。
2. 更新手順 3 と同じフォルダーを削除します。
3. 更新手順 2 で取得したバックアップを元の場所にコピーします。
4. 更新手順 6 に従って、バージョンが本パッチ適用前のバージョンであることを確認します。

4.2. Linux 版のマイグレーション手順 (Ver. 10.0 の場合)

次のモジュールごとに、モジュールの更新とリストアの手順を説明します。

- SPA サーバー (Bridge サービスを含む) (p. 39)
- アーカイブコマンド (p. 43)

マイグレーションにあたっての注意事項

- 下記のモジュールは、すべて同じバージョンのものを使用してください。バージョンが異なるモジュールを使用すると、正常に動作しないことがあります。

- SPA サーバー
 - Bridge サービス
 - Document Converter
 - アーカイブコマンド
- マイグレーション後は、SPA サーバーのインストーラーのバージョンが Ver. 10.6.0.2 に更新されま
す。Bridge サービスと Document Converter は、自動更新機能によりモジュールのみが更新され、
インストーラーのバージョンは更新されません。インストーラーのバージョンの確認方法は、「[付録
2 バージョンの確認方法 \(p.100\)](#)」を参照してください。
 - インストーラーで最新バージョンの SPA にマイグレーションしたあと、以前のバージョンにリスト
アした環境は、そのままインストーラーを使ってマイグレーションし直すことができません。あら
ためてマイグレーションする場合は「[付録3 リストアした環境を再度マイグレーションする
\(p.100\)](#)」を参照してください。
 - SPA Ver. 10.4 以前のバージョンからマイグレーションすると、アーカイブされた文書に対し、「確
認済み」プロパティが付与されます。アーカイブされた文書数が多い場合、「確認済み」プロパティ
が付与されるまでに時間がかかる場合があります。

以下の環境で計測した時間を参考に示します。ただし、処理時間は文書数に比例するわけではあり
ません。

項目	値
機種	Dell PowerEdge T640
OS	WS2019
CPU	Xeon シルバー 4110
メモリー	96GB
Disk	C ドライブ x 1 (RAID なし) : 800GB D ドライブ x 7 (RAID-0) : 5.6TB
SPA	D ドライブに SPA をインストール
アーカイブ文書数	100 万文書
処理時間	約 22 時間

4.2.1. マイグレーション前の準備

マイグレーションを実行する前に、次の準備を行ってください。

- 更新用モジュール（最新バージョンのインストーラー、Document Converter、アーカイブコマ
ンド）を更新対象モジュールのある環境に用意します。
- Document Converter を利用している場合、Document Converter の Ver. 10.0 のインストー
ラーを準備します。Ver. 10.0 のインストーラーは、更新したモジュールをリストアする場合に必要にな
ります。
- モジュール更新時に、インストーラーによりプログラムがバックアップされるため、SPA サー
バーがインストールされているドライブに、SPA のインストールフォルダーの 2 倍程度の空き容量が必
要になる場合があります。

- 各種データや、設定ファイルなどのコールドバックアップを取得します。取得したデータは、更新した環境をリストアする場合に必要になります。バックアップ手順は『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」の「コールドバックアップを行う」を参照してください。

モジュール更新時に、インストーラーによりプログラムはバックアップされますが、各種データや設定ファイルなどは、バックアップされません。一方、モジュール更新後にモジュール更新前の状態に戻す場合には、モジュールのほかに各種データや設定ファイルなども合わせてリストアする必要があります。

4.2.2. SPA サーバーの更新とリストア

以降の手順では、SPA サーバーのインストール先を<SPA_DIR>、Bridge サービスのインストール先を<SBS_DIR>と記載します。

- [SPA サーバー更新時の注意事項 \(p. 39\)](#)
- [SPA サーバーの更新手順 \(p. 39\)](#)
- [SPA サーバーのリストア手順 \(p. 42\)](#)

SPA サーバー更新時の注意事項

- SPA サーバーを更新すると、apache-tomcat がアップデートされます。apache-tomcat でポート番号や SSL などを設定している場合は、モジュール更新後に設定を変更してください。
- Bridge サービスの自動更新により、下記のファイルがアップデートされます。下記のファイルに個別の設定を行っている場合は、Bridge サービスの更新後に設定を変更してください。
 - <SBS_DIR>/bridge/lib/linux/OcrConfig.xml
 - <SBS_DIR>/bridge/lib/windows/OcrConfig.xml
- Bridge サービスの自動更新により、SPA Bridge Service のヒープサイズの設定内容もアップデートされます。Bridge サービスのモジュール更新後は、必要に応じてヒープサイズを変更してください。

SPA サーバーの更新手順

1. サービスの終了

- アーカイブコマンドの確認（利用している場合のみ）
モジュール更新対象の SPA サーバーにアーカイブを行っているアーカイブコマンドが起動していないことを確認します。
- Bridge サービスの終了
Bridge サービスをインストールしたユーザーで次のスクリプトを実行し、モジュール更新対象の SPA サーバーに接続しているすべての Bridge サービスのプロセスを終了します。
<SBS_DIR>/bridge/service/bin/service.sh

実行例

```
$/home/spa/SPA/bridge/service/bin/service.sh stop
```

- Document Converter の終了（利用している場合のみ）
モジュール更新対象の SPA サーバーに接続しているすべての Document Converter を終了します。

- SPA サーバーのプロセスの終了

SPA サーバーをインストールしたユーザーで次のスクリプトを実行し、SPA サーバーのプロセスを終了します。

```
<SPA_DIR>/archiver/bin/shutdown.sh
```

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/shutdown.sh
```

2. インストーラーの実行

次の手順でインストーラーを実行します。

- a. SPA サーバーの実行ユーザーで「install_x64.sh」を起動します。
- b. 使用許諾の条項が表示されるので、「yes」（同意する）を選択します。
- c. バックアップ先が表示されるので、パスを確認し、必要に応じて指定し直します。

参考

次のディレクトリはバックアップ先に指定できません。

- <SPA_DIR>（SPA のインストールディレクトリ）
 - <SPA_DIR>/archiver 配下のディレクトリ
 - 配下に「archiver」という名前のディレクトリがあるディレクトリ
 - ネットワークドライブ上にあるディレクトリ
- d. 更新するモジュールについての情報が表示されるので、内容に問題がないことを確認し、インストールを実行します。
 - e. 次のスクリプトを実行し、SPA サーバーのプロセスを起動します。
<SPA_DIR>/archiver/bin/startup.sh

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/startup.sh
```

制限

インストールの完了後に、SPA WebService が正常に起動しなかった場合は、次の手順で SPA WebService を再起動する必要があります。

- a. SPA Archive Server が起動したことを確認します。
- b. 次のスクリプトを実行し、SPA WebService を停止します。
<SPA_DIR>/archiver/bin/shutdown_web_service.sh

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/shutdown_web_service.sh
```

- c. 次のスクリプトを実行し、SPA WebService を開始します。
<SPA_DIR>/archiver/bin/startup_web_service.sh

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/startup_web_service.sh
```

3. Bridge サービスの起動

次のスクリプトを実行し、Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。Bridge サービスは、「SPA Bridge Service」を起動することで、自動的に更新されます。

<SBS_DIR>/bridge/service/bin/service.sh

実行例

```
$/home/spa/SPA/bridge/service/bin/service.sh start
```

4. SPA サーバーのモジュール更新の確認

ログイン画面 (<http://<IP アドレスまたはサーバー名>:44230/spa/>) を表示し、バージョンが「Ver. 10.6.X.X」と表示されていることを確認します。

5. Bridge サービスのモジュール更新の確認

次の手順で Bridge サービスのモジュールが更新されたことを確認します。

- a. SPA の管理画面 (<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/spa/manager.jsp>) にログインします。
- b. 管理画面の設定カテゴリ [文書定義の設定] - [Loader 設定] をクリックし、Loader 設定画面を開きます。
- c. [振り分け] タブで Bridge サービス名を選択します。
- d. [サービス設定] タブで [プロパティ設定] ボタンをクリックします。
- e. [バージョン情報] タブをクリックし、製品バージョンが「Ver. 10.6.X.X」となっていることを確認します。

6. Document Converter の更新と起動 (利用している場合)

モジュール更新対象の SPA サーバーに接続していたすべての Document Converter を更新し、起動します。更新と起動の手順は、「[Document Converter の更新とリストア \(p. 32\)](#)」を参照してください。

SPA サーバーのリストア手順

モジュール更新前の状態に復旧する場合には、次の手順に従って、リストアしてください。

1. SPA サーバーと Bridge サービスのモジュール更新手順 1 に従って、サービスを終了します。
2. 次のファイルとディレクトリを削除します。
 - <SPA_DIR>/archiver/apache-tomcat
 - <SPA_DIR>/archiver/bridge
 - <SPA_DIR>/archiver/conf
 - <SPA_DIR>/archiver/data
 - <SPA_DIR>/archiver/jre
 - <SPA_DIR>/archiver/lib
 - <SPA_DIR>/archiver/license
 - <SPA_DIR>/archiver/solr
 - <SPA_DIR>/archiver/util
3. インストーラーが取得したバックアップを、<SPA_DIR>/に上書きコピーします。
デフォルトのバックアップ先は次のとおりです。
 - <SPA_DIR>/_backup/
4. 更新前に取得した各種データや設定ファイルのバックアップをリストアします。
リストアの際は、『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」-「コールドバックアップからのリストア」の手順 4~7 を実行してください。
5. 次のフォルダーを任意の場所にバックアップします。
 - <SBS_DIR>/bridge/splstate (RDE 取り込みとフォルダー監視の処理状況)
 - <SBS_DIR>/bridge/logs (Bridge サービスログファイル)
6. Bridge サービスをアンインストールします。手順の詳細は、『セットアップガイド』の「アンインストールする」を参照してください。
7. SPA サーバーをインストールしたユーザーで次のスクリプトを実行し、SPA サーバーのプロセスを起動します。
<SPA_DIR>/archiver/bin/startup.sh

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/startup.sh
```

8. 次の手順で、Bridge サービスをインストールします。
 - a. Bridge サービスのインストーラーをダウンロードします。手順の詳細は、『セットアップガイド』の「Bridge サービスのインストーラーをダウンロードする」を参照してください。
 - b. Bridge サービスをインストールします。手順の詳細は、『セットアップガイド』の「Bridge サービスをインストールする」を参照してください。
9. モジュールの更新手順 1 に従って、Bridge サービス (SPA Bridge Service) を終了します。
10. 手順 5 でバックアップしたフォルダーを次のフォルダーに上書きコピーします。
<SBS_DIR>/bridge
11. SPA サーバーの更新手順 3 に従って、Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。

12. SPA サーバーの更新手順 4 に従って、SPA のバージョンが更新前のバージョンであることを確認します。
13. SPA サーバーの更新手順 5 に従って、Bridge サービスのバージョンが更新前のバージョンであることを確認します。
14. モジュール更新対象の SPA サーバーに接続していたすべての Document Converter をリストアし、起動します。リストアと起動の手順は、「[Document Converter の更新とリストア \(p. 32\)](#)」を参照してください。

4.2.3. アーカイブコマンドの更新とリストア

アーカイブコマンドの更新は、アーカイブコマンドを利用している場合のみ必要です。

- [アーカイブコマンドの更新手順 \(p. 43\)](#)
- [アーカイブコマンドのリストア手順 \(p. 44\)](#)

アーカイブコマンドの更新手順

アーカイブコマンドの更新手順は、以下のとおりです。以降の手順では、アーカイブコマンドの配置先を<CMD_DIR>と記載します。

1. **アーカイブコマンドの停止確認**
アーカイブコマンドが起動していないことを確認します。
2. **既存モジュールのバックアップ**
次のディレクトリを任意の場所にバックアップします。
 - <CMD_DIR>/archive/info
 - <CMD_DIR>/archive/jre
 - <CMD_DIR>/archive/lib
 - <CMD_DIR>/archive/license
3. **既存モジュールの削除**
次のディレクトリを削除します。
 - <CMD_DIR>/archive/info
 - <CMD_DIR>/archive/jre
 - <CMD_DIR>/archive/lib
 - <CMD_DIR>/archive/license
4. **モジュールの展開**
「archive_command_rhel.tar.gz」を任意の場所に展開します。
「archive_command.rhel」ディレクトリが展開されます。
5. **モジュールの更新**
展開したディレクトリ内の「archiver」ディレクトリを<CMD_DIR>に上書きコピーします。

実行例

```
$cp -rpf archive/* /home/spa/archive
```

6. **モジュール更新の確認**
コマンドプロンプトから<CMD_DIR>/archive/archive_document.sh を実行します。

表示される「spa-command」のバージョンが、「Ver. 10.6.X.X」となっていることを確認します。

アーカイブコマンドのリストア手順

モジュール更新前の状態に復旧する場合には、次の手順に従って、リストアしてください。

1. 更新手順 1 に従って、アーカイブコマンドの停止を確認します。
2. 更新手順 3 と同じフォルダーを削除します。
3. 更新手順 2 で取得したバックアップを元の場所にコピーします。
4. 更新手順 6 に従って、バージョンが本パッチ適用前のバージョンであることを確認します。

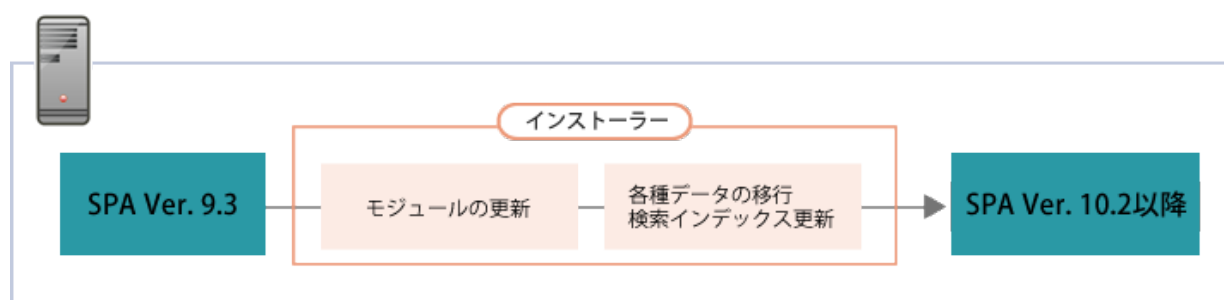
5. SPA Ver. 9.3 からのマイグレーション

SPA 9.3 からのマイグレーション方法は、マイグレーション後も同じ環境を利用するか、既存バージョンとは別の環境で利用するかで異なります。ここでは、各マイグレーション方法の概要と、マイグレーション対象の SPA のバージョン、マイグレーションにあたっての注意事項について説明します。

- [マイグレーション後も同じ環境を利用する場合 \(p. 45\)](#)
- [マイグレーション後は別の環境を利用する場合 \(p. 45\)](#)
- [マイグレーション対象バージョンについて \(p. 46\)](#)
- [マイグレーションにあたっての注意事項 \(p. 46\)](#)

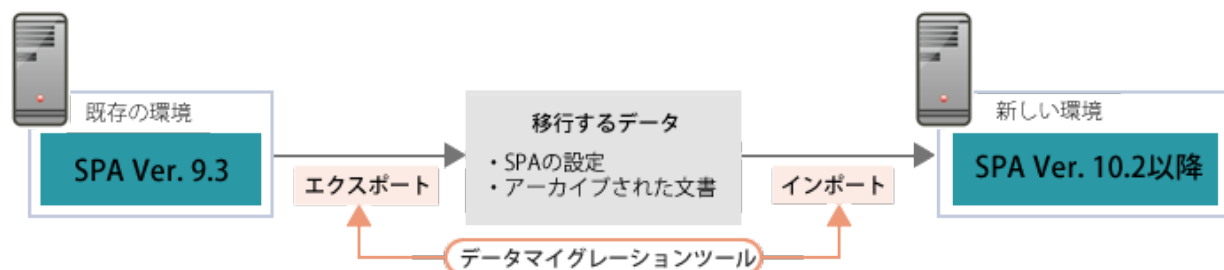
マイグレーション後も同じ環境を利用する場合

マイグレーション後も同じ環境を利用する場合は、最新バージョンのインストーラーを利用します。Ver. 9.3 がインストールされている環境で最新バージョンのインストーラーを実行すると、インストーラーのアップデート機能により、モジュールのバージョンアップと各種データの最新バージョンへの移行が行えます。詳細は、「[マイグレーション後も同じ環境を利用する場合 \(p. 46\)](#)」を参照してください。



マイグレーション後は別の環境を利用する場合

マイグレーション後は別の環境を利用する場合は、「データマイグレーションツール」を利用します。ツールを利用して既存の環境から SPA の設定とアーカイブされた文書をエクスポートし、最新バージョンをインストールした環境にデータをインポートします。詳細は、「[別の環境にマイグレーションする場合 \(p. 71\)](#)」を参照してください。



注意

SPA の各モジュール（SPA サーバー、Bridge サービス、Document Converter）は、同じサーバーに異なるバージョンをインストールできません。1 台のサーバーでデータマイグレーションツールを利用したマイグレーションを行う場合は、データのエクスポート後、必要に応じて既存環境のバックアップを取得し、既存の SPA をアンインストールしてから、新しい SPA をインストールしてください。

マイグレーション対象バージョンについて

どちらのマイグレーション方法も、SPA Ver. 9.3 Service Pack 5 以降に対応しています。SPA Ver. 9.3 Service Pack 4 以前を利用している場合、SPA Ver. 9.3 Service Pack 5 以降にバージョンアップする必要があります。SPA Ver. 9.3 Service Pack 5 以降へのバージョンアップについては、Service Pack に添付されている『適用手順書』を参照してください。

マイグレーションにあたっての注意事項

- SPA Ver. 10.4 以前のバージョンからマイグレーションすると、アーカイブされた文書に対し、「確認済み」プロパティが付与されます。アーカイブされた文書数が多い場合、「確認済み」プロパティが付与されるまでに時間がかかる場合があります。
以下の環境で計測した時間を参考に示します。ただし、処理時間は文書数に比例するわけではありません。

項目	値
機種	Dell PowerEdge T640
OS	WS2019
CPU	Xeon シルバー 4110
メモリー	96GB
Disk	C ドライブ x 1 (RAID なし) : 800GB D ドライブ x 7 (RAID-0) : 5.6TB
SPA	D ドライブに SPA をインストール
アーカイブ文書数	100 万文書
処理時間	約 22 時間

5.1. マイグレーション後も同じ環境を利用する場合

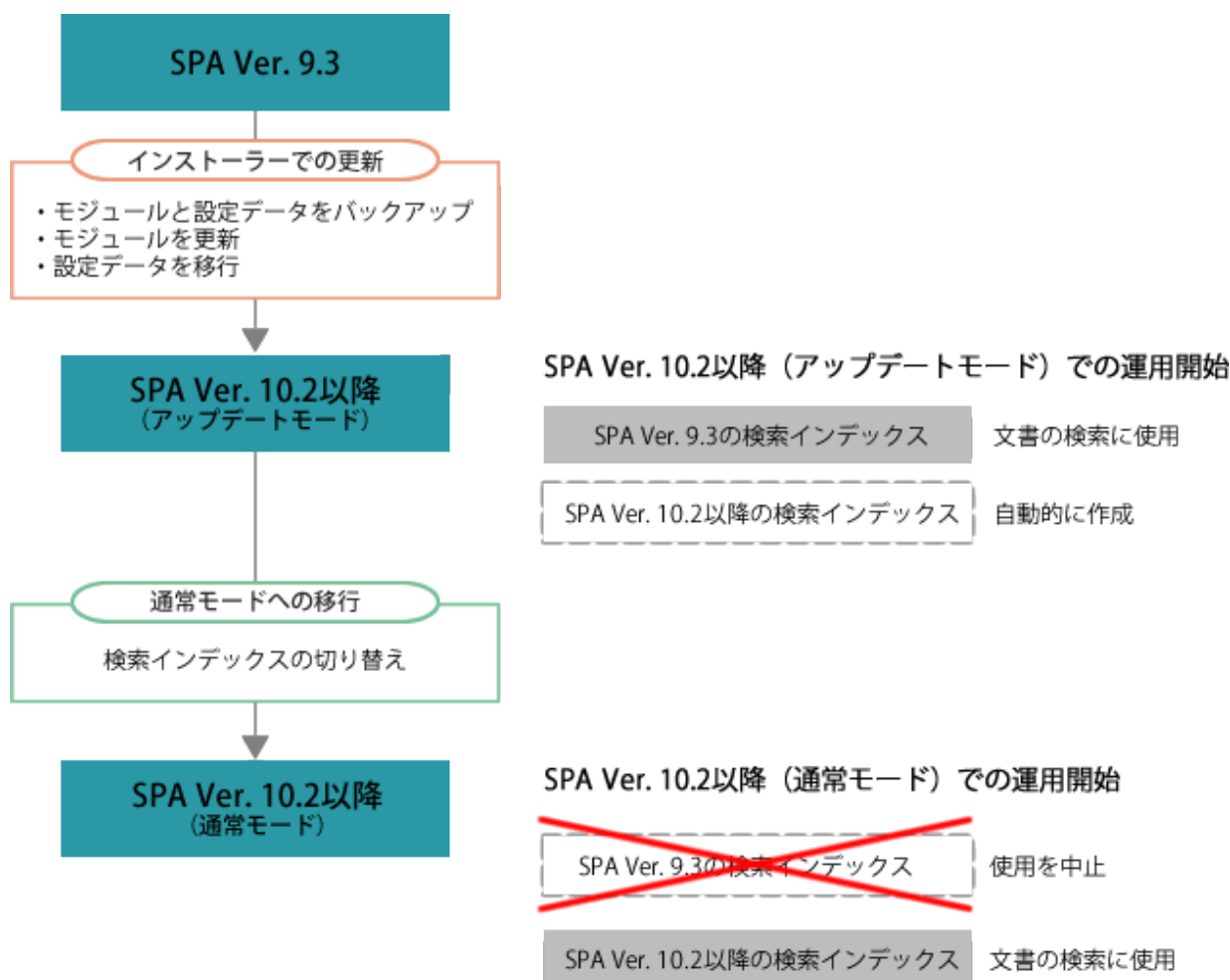
ここでは、インストーラーを利用した、マイグレーション後も同じ環境を利用する場合のマイグレーション手順を説明します。

- [インストーラーを利用したマイグレーションの特徴 \(p. 46\)](#)
- [マイグレーション対象 \(p. 47\)](#)

インストーラーを利用したマイグレーションの特徴

インストーラーを利用したマイグレーションでは、インストーラーを実行すると、アップデート機能によりモジュールと設定データの更新が行われます。モジュールと設定データの更新が完了すると、SPA

はアップデートモードで起動されます。アップデートモードは、SPA の内部で新しいバージョンのための検索インデックス作成を行うモードです。アップデートモード中は、更新前に使用していた検索インデックスを使用して SPA を運用できるため、大量の文書がアーカイブされている環境のマイグレーションにおいて、システムを停止する時間を短くすることができます。検索インデックスの作成が完了した後、SPA の運用で使用する検索インデックスを新しいバージョンのものに変えることで SPA が通常モードに移行し、マイグレーションが完了します。



参考

検索インデックス作成の所要時間については、下記のサポートサイト FAQ を参照してください。

『SPA におけるデータのエクスポート・インポート・検索インデックス作成の所要時間について』

<https://customer.wingarc.com/support/faq?id=000015851>

マイグレーション対象

SPA Ver. 9.3 Service Pack 5 以降がマイグレーション対象です。一部のデータは移行の対象ではありません。詳細は「インストーラーで移行されないデータ (p. 48)」を参照してください。

注意

SPA Ver. 9.3 Service Pack 4 以前を利用している場合は、マイグレーションの前に、Service Pack 5 以降を適用してください。

インストーラーで移行されないデータ

次のデータは移行の対象となりません。必要に応じて手動でデータを移行してください。

SPA のデータ

大分類	中分類	小分類	詳細
サーバー設定	アーカイブサーバー	フォントマッピング設定 (*)	
メンテナンスモード			

* フォントマッピングファイルは移行されますが、移行後に設定が必要です。

Loader サービスのデータ

大分類	中分類	小分類	詳細
設定	全般	言語設定	
振り分け	Loader サービス	各サービス情報（サービス名、ステータス、ホスト名）(*)	
	サービス設定	環境設定（プロパティ設定）	ログ（サービスログファイル出力の設定） 環境（スレッド数、シミュレーションルートフォルダー）

* サービス名のみが移行されます。ステータスとホスト名は、移行後に Bridge サービスをインストールすると表示されるようになります。

5.1.1. マイグレーション前の準備

マイグレーションを実行する前に、次の準備を行ってください。

- **インストールメディアの用意**

SPA Ver. 10.6.0.2 と SPA Ver. 9.3 のインストールメディアを用意します。

Ver. 9.3 のインストールメディアは、マイグレーションした環境を Ver. 9.3 にリストアする場合に必要になります。

- **アクティベーションキーの用意**

SPA Ver. 10.6.0.2 と SPA Ver. 9.3 のアクティベーションキーを用意します。

Ver. 9.3 のアクティベーションキーは、マイグレーションした環境を Ver. 9.3 にリストアする場合に必要になります。

- **PostgreSQL データベースの実行アカウントの情報の確認 (Window 版のみ)**

SPA Ver. 9.3 で使用している PostgreSQL データベースの実行アカウントのユーザー名とパスワードを確認します。

• 各種データの保存先とモジュールのインストール先の確認

SPA Ver. 9.3 の以下の保存先とインストール先を確認して、メモを取ります。

アーカイブファイル、キャッシュ用画像および共通データの保存先は、マイグレーションした環境を Ver. 9.3 にリストアする場合に必要なになります。

- アーカイブファイルの保存先

管理画面の設定カテゴリ [環境設定] - [保存先の設定] の [アーカイブファイルの格納フォルダー] タブで確認できます。

- 検索インデックスの保存先

管理画面の設定カテゴリ [環境設定] - [保存先の設定] の [検索インデックス格納フォルダー] タブで確認できます。

検索インデックスの保存先を複数指定している場合は、すべての保存先のメモを取る必要があります。

- キャッシュ用画像の保存先

管理画面の設定カテゴリ [環境設定] - [保存先の設定] の [キャッシュ用画像の格納フォルダー] タブで確認できます。

- 共通データの保存先

以下のファイルで「common」を確認します。

<SPA のインストール先>%archiver%setup%installed_info.txt

- PostgreSQL のインストール先

以下のファイルで「pgsql」を確認します。

<SPA のインストール先>%archiver%setup%installed_info.txt

- アーカイブコマンドの配置先 (使用している場合)

- Loader サービスのインストール先 (使用している場合)

- Document Converter のインストール先 (使用している場合)

• 空き容量の確認

ディスクに、マイグレーション時に必要な以下の容量を合計した空き容量があることを確認します。

- Ver. 10.6.0.2 のインストールメディアの容量 (ディスクにコピーして利用する場合)

約 4GB

- SPA Ver. 9.3 のモジュールの容量

以下のフォルダーの容量から、アーカイブファイルの保存先とキャッシュ用画像の保存先の容量を除いた容量

<SPA のインストール先>%archiver

- 共通データの容量の 2 倍

共通データの保存先の容量を確認してください。マイグレーション時にバックアップを取得するため、2 倍の容量が必要です。

- 検索インデックスの容量

検索インデックスの保存先の容量を確認してください。検索インデックスの保存先を複数指定している場合は、すべての保存先の容量を合計してください。

5.1.2. Windows 版のマイグレーション手順

ここでは、Windows 版のマイグレーションの流れと、注意事項を説明します。

マイグレーションの流れと注意事項を確認し、手順に沿ってデータを移行してください。

- [マイグレーションの流れ \(p. 50\)](#)
- [注意事項 \(p. 52\)](#)

マイグレーションの流れ

SPA Ver. 9.3 から最新バージョンの SPA へのマイグレーションは、次の流れで行います。

1. SPA のログイン画面を表示して、マイグレーション対象の SPA のバージョン番号が「Ver. 9.3.5.X」以降であることを確認します。
2. インストーラー実行中にバックアップされない以下のデータを、オフラインバックアップまたはコールドバックアップします。バックアップ手順は、Ver. 9.3 『管理者ガイド』の「運用設定編」の「8-9-1-2 オフラインバックアップを行う」または「8-9-1-3 コールドバックアップを行う」を参照してください。
 - アーカイブファイル
 - 検索インデックス
 - キャッシュ用画像
3. 次のモジュールのうち、使用しているものをバックアップします。
 - Loader サービス
Loader サービスのサービス「SVF PDF Archiver Loader Service」を終了して、次のフォルダーを任意の場所にコピーします。
 - <Loader サービスのインストール先>%loader%lib
 - <Loader サービスのインストール先>%loader%license
 - <Loader サービスのインストール先>%loader%splstate
 - アーカイブコマンド
アーカイブコマンドが動作していないことを確認して、<アーカイブコマンドの配置先>%archive を任意の場所に移動します。
 - Document Converter
Document Converter を終了して、次のファイルとフォルダーを任意の場所にコピーします。終了手順は、Ver. 9.3 『管理者ガイド』の「運用設定編」の「8-1-2 Document Converter の起動と終了」を参照してください。
 - <Document Converter のインストール先>%docconverter%DocumentConverter.exe
 - <Document Converter のインストール先>%docconverter%apache-tomcat
 - <Document Converter のインストール先>%docconverter%license
4. Loader サービスと Document Converter を使用している場合は、アンインストールします。アンインストール手順は、Ver 9.3 の『セットアップガイド』を参照してください。
5. SPA Ver. 10.6.0.2 のインストーラーを実行します。詳細は、「[インストーラーの実行 \(p. 52\)](#)」を参照してください。
6. SPA Ver. 10.6.0.2 をアクティベーションして、サービスが起動していることを確認します。アップデートモードで最新バージョンの SPA の運用が開始されます。また、最新バージョンの検索インデックスの作成が自動的に開始されます。
7. 次のモジュールのうち、SPA Ver. 9.3 で利用していたものをインストールして、必要な設定をします。
 - Loader サービス

以下の流れで Bridge サービスをインストールし、最新バージョンの SPA に接続するための設定と、必要に応じてインストーラーの実行により移行されないデータの設定を行います。SPA に接続するための設定手順は Ver. 10『SPA 製品ガイド』を参照してください。

1. インストール前の準備を行います。手順の詳細は、Ver. 10『セットアップガイド』の「インストール前の準備をする」を参照してください。
2. Bridge サービスのインストーラーをダウンロードします。手順の詳細は、Ver. 10『セットアップガイド』の「Bridge サービスのインストーラーをダウンロードする」を参照してください。
3. ダウンロードしたインストーラーを実行します。手順の詳細は、Ver. 10『セットアップガイド』の「Bridge サービスをインストールする」を参照してください。

注意

インストーラーの実行後、サービスを起動しないでください。

4. マイグレーション前に手動でバックアップしたデータのうち、「splstate」フォルダーを「<Bridge サービスのインストール先>%bridge」フォルダーにコピーします。
5. Windows の管理ツールにある [サービス] で「SPA Bridge Service」を起動します。
6. 必要に応じて、OCR 機能を利用するための準備をします。手順の詳細は、Ver. 10『セットアップガイド』の「OCR 機能を利用するための準備をする」を参照してください。
7. インストールが完了したことを確認します。手順の詳細は、Ver. 10『セットアップガイド』の「Bridge サービスのインストール完了を確認する」を参照してください。

• Document Converter

Document Converter をインストールして、最新バージョンの SPA に接続するための設定を行います。また、必要に応じて、インストーラーの実行により移行されないデータの設定を行います。Document Converter のインストール手順は、Ver. 10『セットアップガイド』を参照してください。SPA に接続するための設定手順は Ver. 10『SPA 製品ガイド』を参照してください。

• アーカイブコマンド

アーカイブコマンドを配置します。また、手動でバックアップした Ver. 9.3 のアーカイブコマンド (<バックアップ先>%archive) に独自に作成したフォルダーやファイルがある場合は、必要に応じて、<アーカイブコマンドの配置先>%archive にコピーします。アーカイブコマンドの配置手順は、Ver. 10『SPA 製品ガイド』の「アーカイブする」の「コマンドでアーカイブする」を参照してください。

注意

手動でバックアップした Ver. 9.3 のアーカイブコマンドのうち、独自に作成したフォルダーやファイル以外を<アーカイブコマンドの配置先>%archive にコピーすると、アーカイブコマンドの動作に問題が発生します。必ず、独自に作成したフォルダーやファイルだけをコピーしてください。

8. 最新バージョンの検索インデックスの作成が終了したことを確認して、SPA のモードを変更します。詳細は、「[通常モードへの移行 \(p. 54\)](#)」を参照してください。
9. 必要に応じて、最新バージョンの検索インデックスの作成で使用したサービスとデータを削除します。詳細は、「[検索インデックスの作成で使用したサービスとデータの削除 \(p. 55\)](#)」を参照してください。

注意事項

- インストーラーを実行する環境には、管理者権限でログインしてください。
- インストーラーを実行する前に、すべてのアプリケーションを終了してください。
- インストールする環境のタイムゾーンには、夏時間を持たないタイムゾーンを指定して利用することをお勧めします。
- 何らかのアンチウイルスソフトを利用している場合、PostgreSQL のデータフォルダーを監視対象から外してください。不規則かつ予期できないエラーが起きたり、最悪の場合、データ破損を引き起こす可能性があります。また、PostgreSQL の動作が遅くなることがあります。
PostgreSQL のデータフォルダーは、<PostgreSQL のインストールフォルダー>%pgsql\data です。
- モジュールを更新すると、apache-tomcat と PostgreSQL がアップデートされます。apache-tomcat でポート番号や SSL、PostgreSQL でデータベース接続数などの個別設定を行っている場合は、モジュールの更新後に設定を変更してください。
- モジュール更新後は、必要に応じて、ヒープサイズの変更や OCR に関する個別設定 (OcrConfig.xml の編集) を行ってください。

5.1.2.1. インストーラーの実行

ここでは、最新バージョンのインストーラーを使用した SPA サーバーの更新と設定データの移行の手順を説明します。

1. SPA Ver. 10.6.0.2 のインストールメディア内の「install.exe」を起動します。
[言語の選択] ダイアログが表示されます。
2. 使用する言語を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
[使用許諾契約] 画面が表示されます。
3. 「使用許諾の条項に同意します」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
アクティベーションの確認画面が表示されます。
4. ライセンスマネージャーを使用して、アクティベーションを解除します。アクティベーションの解除手順は、Ver. 9.3『セットアップガイド』の「1-1-4-1 アクティベーションを解除する」を参照してください。
インストールの確認画面が表示されます。
5. [次へ] ボタンをクリックします。
[バックアップ先] 画面が表示されます。
6. バックアップ先を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。

参考

次のフォルダーはバックアップ先に指定できません。

- <SPA のインストールフォルダー>
- <SPA のインストールフォルダー>%archiver 配下のフォルダー
- 配下に「archiver」という名前のフォルダーがあるフォルダー
- ネットワークドライブ上にあるフォルダー

PostgreSQL データベースの実行アカウントを指定する画面が表示されます。

7. SPA Ver. 9.3 の PostgreSQL 実行ユーザーのユーザー名とパスワードを指定して、[次へ] ボタンをクリックします。

ここまでに設定した情報がまとめて表示されます。

8. 設定内容に問題がないことを確認して、[インストール] ボタンをクリックします。
問題がある場合は、[戻る] ボタンをクリックして、設定を変更してください。
モジュールの更新と設定データの移行が開始されます。処理が完了すると自動的にライセンスマネージャーが起動して、アクティベーションが開始されます。
9. SPA Ver. 10.6.0.2 のアクティベーションキーでアクティベーションを実行します。アクティベーションの手順は、Ver. 10『セットアップガイド』の「アクティベーションを実行する」を参照してください。

注意

マイグレーション作業を進めるには SPA Ver. 10.6.0.2 が必要です。必ずアクティベーションを実行して、次の作業に進んでください。

10. 次のサービスが起動していることを確認します。
 - SPA Zookeeper 93
 - SPA SolrServer 93
 - SPA PostgreSQL Service
 - SPA ZooKeeper
 - SPA Solr Server
 - SPA Archive Server
 - SPA WebService

制限

インストールの完了後に、SPA WebService が正常に起動しなかった場合は、次の手順で SPA WebService を再起動する必要があります。

- a. SPA Archive Server が起動したことを確認します。
- b. SPA WebService を停止します。
- c. SPA WebService を開始します。

以上でインストーラーを使用した SPA サーバーの更新と設定データの移行は完了です。

注意

SPA サーバーはアップデートモードで起動しています。アップデートモード中は、最新バージョンの検索インデックスを作成しているため、次の操作ができません。

- 保存先の追加、変更、削除
- 検索方式の変更
- 検索インデックス再作成コマンドの実行

参考

最新バージョンの検索インデックスの作成条件（処理の同時実行数の上限や処理間隔）を、必要に応じて、調整することができます。検索インデックスの作成条件の調整手順は、「付録 1 検索インデックスの作成条件の調整 (p. 98)」を参照してください。

5.1.2.2. 通常モードへの移行

ここでは、最新バージョンの SPA の検索インデックスの作成が完了していることを確認して、SPA を通常モードに移行する手順を説明します。

1. 管理者としてコマンドプロンプトを起動して、キュー管理コマンドを利用し、最新バージョンの検索インデックスの作成が完了しているかどうかを確認します。

```
<SPA のインストール先>\archiver\util\queue.bat count -q all
```

コマンドの実行結果ですべてのキューの値が「0」の場合は、次に進んでください。「0」以外の場合は、検索インデックスを作成中です。時間を空けて、コマンドを再度実行してください。

キュー管理コマンドの実行方法は、『SPA 製品ガイド』の「コマンドによる運用と管理」の、「システム内部キューの確認」を参照してください。

2. SPA のサービスを次の順に終了します。
 - SPA WebService
 - SPA Archive Server
 - SPA Solr Server
 - SPA ZooKeeper
 - SPA PostgreSQL Service
 - SPA SolrServer 93

- SPA Zookeeper 93
3. 「<SPA のインストール先>%archiver%conf%spa-store-server.properties」をテキストエディターで開いて、次のとおりに編集します。
 - 「spa.system.index.mode」の値を「normal」に変更します。
 - 「spa.system.index.zkaddr」の値を「127.0.0.1:44243/solr」に変更します。

注意

「spa-store-server.properties」の変更した値が正しくないと、SPA の動作に問題が発生します。必ず、上記のとおりに変更してください。

4. 「<SPA のインストール先>%archiver%conf%spa-webapp.properties」をテキストエディターで開いて、次のとおりに編集します。
 - 「spa.system.index.mode」の値を「normal」に変更します。
 - 「spa.system.index.zkaddr」の値を「127.0.0.1:44243/solr」に変更します。

注意

「spa-webapp.properties」の変更した値が正しくないと、SPA の動作に問題が発生します。必ず、上記のとおりに変更してください。

5. SPA のサービスを次の順に起動します。
 - SPA PostgreSQL Service
 - SPA ZooKeeper
 - SPA Solr Server
 - SPA Archive Server
 - SPA Webservice
6. ユーザー画面 (<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/pdfarchiver/>) にログインして、アーカイブされている文書を検索できることを確認します。

5.1.2.3. 検索インデックスの作成で使ったサービスとデータの削除

ここでは、検索インデックスの作成で使ったサービスとデータ（フォルダーとファイル）を削除する手順を説明します。サービスとデータの削除は、マイグレーション完了後に、必要に応じて実行してください。

1. SPA のサービスを次の順に終了します。
 - SPA Webservice
 - SPA Archive Server
 - SPA Solr Server
 - SPA ZooKeeper
 - SPA PostgreSQL Service
 - SPA SolrServer 93
 - SPA Zookeeper 93
2. 次のデータを任意の場所にコピーします。

- フォルダ
 - <共通データの格納先>93
 - <検索インデックスの格納先>93
検索インデックス格納フォルダを複数指定している場合は、すべての格納フォルダをコピーする必要があります。
 - <SPA のインストール先>%archiver%solr%solr93
 - <SPA のインストール先>%archiver%solr%zookeeper93
- ファイル
 - <SPA のインストール先>%archiver%launcher%SPASolrServer93.run
 - <SPA のインストール先>%archiver%launcher%SPAZookeeper93.run

3. 次のサービスを削除します。

- SPA SolrServer 93
- SPA Zookeeper 93

実行例

```
sc delete SPASolrServer93
sc delete SPAZookeeper93
```

4. 次のデータを削除します。

- フォルダ
 - <共通データの格納先>93
 - <検索インデックスの格納先>93
検索インデックス格納フォルダを複数指定している場合は、すべての格納フォルダを削除する必要があります。
 - <SPA のインストール先>%archiver%solr%solr93
 - <SPA のインストール先>%archiver%solr%zookeeper93
- ファイル
 - <SPA のインストール先>%archiver%launcher%SPASolrServer93.run
 - <SPA のインストール先>%archiver%launcher%SPAZookeeper93.run

5. SPA のサービスを次の順に起動します。

- SPA PostgreSQL Service
- SPA ZooKeeper
- SPA Solr Server
- SPA Archive Server
- SPA Webservice

6. SPA のユーザー画面または管理画面にログインして、問題なく動作することを確認します。

- ユーザー画面のログイン画面
<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/pdfarchiver/>
- 管理画面のログイン画面
<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/pdfarchiver/manager.jsp>

5.1.2.4. Ver. 9.3 へのリストア

ここでは、Ver. 9.3 へのリストア手順を、モジュールごとに説明します。

- リストアで移行されないデータ (p. 57)
- SPA サーバーのリストア (p. 57)
- アーカイブコマンドのリストア (配置している場合のみ) (p. 60)
- Loader サービスのリストア (インストールしている場合のみ) (p. 60)
- Document Converter のリストア (インストールしている場合のみ) (p. 61)

リストアで移行されないデータ

次のデータは、リストアされません。リストア後、必要に応じて再設定してください。

SPA のデータ

大分類	中分類	小分類	詳細
メンテナンスモード			

Loader サービスのデータ

大分類	中分類	小分類	詳細
設定	全般	言語設定	
振り分け	サービス設定	環境設定 (プロパティ設定)	ログ (サービスログファイル出力の設定) 環境 (スレッド数、シミュレーションルートフォルダー)

SPA サーバーのリストア

1. サービスの終了

サービスを次の順に終了します。

- SPA WebService
- SPA Archive Server
- SPA Solr Server
- SPA ZooKeeper
- SPA PostgreSQL Service
- SPA Solr Server 93 (削除していない場合)
- SPA Zookeeper 93 (削除していない場合)

2. マイグレーション時に自動的にバックアップされていたデータの退避

マイグレーション時にデフォルトのバックアップ先 (< SPA サーバーのインストール先> ¥_backup) を指定した場合は、< SPA サーバーのインストール先> 配下以外のフォルダーにデータをコピーしてください。

コピー例

```
xcopy /E /H /R /K /O /Y C:\SVFPDFArchiver\_backup C:\SPAtemp\_backup\
```

3. 最新バージョンの SPA のアンインストール

最新バージョンの SPA をアンインストールします。手順は、Ver. 10『セットアップガイド』の「SPA サーバーのアンインストール」を参照してください。

インストール中、アンインストール方法を選択するときは、「すべてアンインストール」を選択します。

4. SPA Ver. 9.3 のインストールとアクティベーション

SPA Ver. 9.3 をインストールし、アクティベーションします。手順は、Ver. 9.3『セットアップガイド』の「1-1-1 SPA サーバーのインストール」を参照してください。

- インストールには、SPA Ver. 9.3 をはじめにインストールしたときのインストーラーを利用します。
- 以下の保存先には、マイグレーションの際にメモを取ったパスを指定します。
 - [アーカイブファイルの格納フォルダー]
 - [検索インデックスの格納フォルダー]
 - [キャッシュ用画像の格納フォルダー]
 - [共通データの格納フォルダー]
- アクティベーションでは、SPA Ver. 9.3 のアクティベーションキーを使用してください。

5. サービスの終了

SPA Ver. 9.3 のサービスが起動している場合は、次の順に終了します。終了している場合は、次に進んでください。

- SVF PDF Archiver Web Service
- SVF PDF Archiver Archive Server
- SVF PDF Archiver Solr Server
- SVF PDF Archiver Zookeeper
- SVF PDF Archiver PostgreSQL Service

6. フォルダの削除

以下のフォルダを削除します。

- <SPA サーバーのインストール先>%archiver%apache-tomcat
- <SPA サーバーのインストール先>%archiver%lib
- <SPA サーバーのインストール先>%archiver%launcher
- <SPA サーバーのインストール先>%archiver%license
- <SPA サーバーのインストール先>%archiver%sample
- <SPA サーバーのインストール先>%archiver%solr%solr%server%solr-webapp%webapp%WEB-INF%lib
- <SPA サーバーのインストール先>%archiver%util%info
- <SPA サーバーのインストール先>%archiver%util%lib
- <PostgreSQL のインストール先>%pgsql
- アーカイブファイルの保存先
- 検索インデックスの保存先
- キャッシュ用画像の保存先
- 共通データの保存先

7. マイグレーション時に自動的にバックアップされていたデータの復元

「[マイグレーション時に自動的にバックアップされていたデータの退避](#)」で退避したデータを復元します。

- インストーラーで作成されたバックアップのデータのうち、共通データ (<SPA サーバーのインストール先>%_backup%archiver%data%common) を、マイグレーションの際にメモを取った共通データの保存先にコピーします。
- インストーラーで作成されたバックアップのデータのうち、PostgreSQL のデータ (<SPA サーバーのインストール先>%_backup%archiver%pgsql) を、マイグレーションの際にメモを取った PostgreSQL のインストール先にコピーします。

PostgreSQL のデータを復元する場合のコピー例

```
xcopy /E /H /R /K /O /Y <バックアップ先>\_backup\archiver\pgsql  
<PostgreSQL のインストール先>\pgsql
```

- 共通データ、PostgreSQL 以外のデータを、<SPA サーバーのインストール先>%archiver にコピーします。

8. 手動でバックアップした SPA Ver. 9.3 のデータの復元

マイグレーション前に手動でバックアップした以下のデータを、元の場所にコピーします。

- アーカイブファイル
- 検索インデックス
- キャッシュ用画像

アーカイブファイルを復元する場合のコピー例

```
xcopy /E /H /R /K /O /Y <バックアップ先>\store <SPA サーバーのインストール先>  
\archiver\data\store
```

9. PostgreSQL データベースのセキュリティ設定の確認

PostgreSQL データベースのフォルダー (<PGSQL_DIR>%pgsql%data) のプロパティを開き、[セキュリティ] タブで PostgreSQL 実行ユーザーに「変更」が許可されているか確認します。

PostgreSQL 実行ユーザーに「変更」が許可されていない場合は、「変更」を許可してください。

参考

- 実行ユーザーは、SPA PostgreSQL Service プロパティの [ログオン] タブで確認できます。
- フォルダープロパティの [セキュリティ] タブー [グループ名またはユーザー名] に PostgreSQL 実行ユーザーが存在しない場合、PostgreSQL 実行ユーザーを追加し、アクセス許可を「変更」に設定してください。

10. サービスの起動

サービスを次の順に起動します。

- SVF PDF Archiver PostgreSQL Service
- SVF PDF Archiver Zookeeper
- SVF PDF Archiver Solr Server
- SVF PDF Archiver Archive Server
- SVF PDF Archiver Web Service

11. リストアの結果の確認

SPA のユーザー画面または管理画面で、SPA およびデータがリストアされていることを確認します。

- a. SPA のログイン画面 (<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/pdfarchiver/>) を表示して、表示されるバージョンが「9.3.5.X」以降であることを確認します。
- b. ユーザー画面にログインして、アーカイブされた文書のデータが移行されていることを確認します。
- c. 管理画面にログインして、設定データが移行されていることを確認します。

12. リストアで移行されないデータの移行

必要に応じて、リストアで移行されないデータを手動で移行してください。

アーカイブコマンドのリストア（配置している場合のみ）

1. 最新バージョンのアーカイブコマンドの削除

アーカイブコマンドが動作していないことを確認し、<アーカイブコマンド配置先>%archive を削除します。

2. 手動でバックアップした Ver. 9.3 のアーカイブコマンドの復元

マイグレーション前に手動でバックアップした Ver. 9.3 のアーカイブコマンドを、<アーカイブコマンドの配置先>にコピーします。

3. リストアの結果の確認

コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行して、表示されるバージョンが、「9.3.5.X」以降であることを確認します。

```
<アーカイブコマンドの配置先>%archive%archive_document.bat
```

Loader サービスのリストア（インストールしている場合のみ）

1. Bridge サービスのアンインストール

最新バージョンの Bridge サービスをアンインストールします。手順は、Ver. 10『セットアップガイド』の「Bridge サービスのアンインストール」を参照してください。

インストール中、アンインストール方法を選択するときは、「すべてアンインストール」を選択します。

2. Loader サービスのインストール

Ver. 9.3 の Loader サービスをインストールします。手順は、Ver. 9.3『セットアップガイド』の「2-1-1 Loader サービスのインストール」を参照してください。

3. サービスの終了

サービス「SVF PDF Archiver Loader Service」が起動している場合は、終了します。終了している場合は、次に進んでください。

4. Loader サービスのデータの削除

以下のフォルダーを削除します。

- <Loader サービスのインストール先>%loader%lib
- <Loader サービスのインストール先>%loader%license
- <Loader サービスのインストール先>%loader%splstate

5. 手動でバックアップした Loader サービスのデータの復元

マイグレーション前に手動でバックアップしたデータを、<Loader サービスのインストール先>%loader フォルダーにコピーします。

6. サービスの起動

サービス「SVF PDF Archiver Loader Service」を起動します。

7. リストアの結果の確認

以下の手順で Loader サービスがリストアされていることを確認します。

- a. SPA の管理画面 (<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/pdfarchiver/manager.jsp>) にログインします。
- b. 管理画面の設定カテゴリ [文書定義] で [Loader 設定] を選択して、Loader 設定画面を表示します。
- c. [振り分け] タブで Loader サービス名を選択します。
- d. [サービス設定] タブで [プロパティ 設定] ボタンをクリックします。
- e. [バージョン情報] タブをクリックし、製品バージョンが「9.3.5.X」以降であることを確認します。

8. リストアで移行されないデータの移行

必要に応じて、リストアで移行されないデータを手動で移行してください。

Document Converter のリストア (インストールしている場合のみ)

1. 最新バージョンの Document Converter のアンインストール

最新バージョンの Document Converter をアンインストールします。手順は、Ver. 10『セットアップガイド』の「Document Converter のアンインストール」を参照してください。

2. Ver. 9.3 の Document Converter のインストール

Ver. 9.3 の Document Converter をインストールします。手順は、Ver. 9.3『セットアップガイド』の「3-1 Document Converter のインストール」を参照してください。

3. Ver. 9.3 の Document Converter の終了

Ver. 9.3 の Document Converter を終了します。

4. Ver. 9.3 の Document Converter のデータの削除

以下のフォルダーおよびファイルを削除します。

- <Document Converter のインストール先>%docconverter%DocumentConverter.exe
- <Document Converter のインストール先>%docconverter%apache-tomcat%webapps
- <Document Converter のインストール先>%docconverter%apache-tomcat%work% Catalina %localhost%spapd-webapp
- <Document Converter のインストール先>%docconverter%license

5. 手動でバックアップした Ver. 9.3 の Document Converter のデータの復元

マイグレーション前に手動でバックアップしたデータを、<Document Converter のインストール先>%docconverter フォルダーにコピーします。

6. リストアの結果の確認

以下の手順で Document Converter がリストアされていることを確認します。

- a. Document Converter を起動します。
- b. 次のファイルのプロパティの [詳細] タブで印刷アプリケーションのバージョンを確認し、[ファイルバージョン] および [製品バージョン] で、印刷アプリケーションのバージョンが「1.0.0.2」であることを確認します。
<Document Converter のインストール先>%docconverter%DocumentConverter.exe

- c. 次のファイルをテキストエディタで開いて WAR ファイルのバージョンを確認し、
[Implementation-Version] の内容が、「9.3.5.X」以降であることを確認します。
<Document Converter のインストール先>%docconverter%apache-tomcat%webapps
%spapd-webapp%META-INF%MANIFEST.MF

5.1.3. Linux 版のマイグレーション手順

ここでは、Linux 版のマイグレーションの流れと、注意事項を説明します。

マイグレーションの流れと注意事項を確認し、手順に沿ってデータを移行してください。

- [マイグレーションの流れ \(p. 62\)](#)
- [注意事項 \(p. 64\)](#)

マイグレーションの流れ

SPA Ver. 9.3 から最新バージョンの SPA へのマイグレーションは、次の流れで行います。

1. SPA のログイン画面 (<http://<IP アドレスまたはサーバー名>:44230/pdfarchiver/>) を表示し、バージョンが「9.3.5.X」以降であることを確認します。
2. インストーラー実行中にバックアップされない以下のデータを、オフラインバックアップまたはコールドバックアップします。バックアップ手順は、Ver. 9.3 『管理者ガイド』の「運用設定編」の「8-9-1-2 オフラインバックアップを行う」または「8-9-1-3 コールドバックアップを行う」を参照してください。
 - アーカイブファイル
 - 検索インデックス
 - キャッシュ用画像
3. 次のモジュールのうち、使用しているものをバックアップします。
 - Loader サービス
<Loader サービスのインストール先>/loader/bin/shutdown.sh を実行して「SVF PDF Archiver Loader Service」を終了し、次のディレクトリを任意の場所にコピーします。
 - <Loader サービスのインストール先>/loader/lib
 - <Loader サービスのインストール先>/loader/license
 - <Loader サービスのインストール先>/loader/splstate
 - アーカイブコマンド
アーカイブコマンドが動作していないことを確認して、<アーカイブコマンドの配置先>/archive を任意の場所に移動します。
 - Document Converter
Document Converter を終了して、次のファイルとフォルダーを任意の場所にコピーします。終了手順は、Ver. 9.3 『管理者ガイド』の「運用設定編」の「8-1-2 Document Converter の起動と終了」を参照してください。
 - <Document Converter のインストール先>%docconverter%DocumentConverter.exe
 - <Document Converter のインストール先>%docconverter%apache-tomcat
 - <Document Converter のインストール先>%docconverter%license
4. Loader サービスと Document Converter を使用している場合は、アンインストールします。アンインストール手順は、Ver 9.3 の『セットアップガイド』を参照してください。

5. SPA Ver. 10.6.0.2 のインストーラーを実行します。詳細は、「[インストーラーの実行 \(p. 64\)](#)」を参照してください。
6. SPA Ver. 10.6.0.2 をアクティベーションして、プロセスを起動します。
アップデートモードで最新バージョンの SPA の運用が開始されます。また、最新バージョンの検索インデックスの作成が自動的に開始されます。
7. 次のモジュールのうち、SPA Ver. 9.3 で利用していたものをインストールして、必要な設定をします。

- Loader サービス

次の流れで Bridge サービスをインストールして、最新バージョンの SPA に接続するための設定と、必要に応じてインストーラーの実行により移行されないデータの設定を行います。SPA に接続するための設定手順は Ver. 10 『SPA 製品ガイド』を参照してください。

1. インストール前の準備を行います。手順の詳細は、Ver. 10 『セットアップガイド』の「インストール前の準備をする」を参照してください。
2. Bridge サービスのインストーラーをダウンロードします。手順の詳細は、Ver. 10 『セットアップガイド』の「Bridge サービスのインストーラーをダウンロードする」を参照してください。
3. ダウンロードしたインストーラーを実行します。手順の詳細は、Ver. 10 『セットアップガイド』の「Bridge サービスをインストールする」を参照してください。
4. マイグレーション前に手動でバックアップしたデータのうち、「splstate」フォルダーを「<Bridge サービスのインストール先>/bridge」フォルダーにコピーします。
5. プロセスを起動します。手順の詳細は、Ver. 10 『セットアップガイド』の「プロセスを起動する」を参照してください。
6. インストールが完了したことを確認します。手順の詳細は、Ver. 10 『セットアップガイド』の「Bridge サービスのインストール完了を確認する」を参照してください。

- Document Converter

Document Converter をインストールして、最新バージョンの SPA に接続するための設定を行います。また、必要に応じて、インストーラーの実行により移行されないデータの設定を行います。Document Converter のインストール手順は、Ver. 10 『セットアップガイド』を参照してください。SPA に接続するための設定手順は Ver. 10 『SPA 製品ガイド』を参照してください。

- アーカイブコマンド

アーカイブコマンドを配置します。また、手動でバックアップした Ver. 9.3 のアーカイブコマンド (<バックアップ先>/archive) に独自に作成したディレクトリやファイルがある場合は、必要に応じて、<アーカイブコマンドの配置先>/archive にコピーします。アーカイブコマンドの配置手順は、Ver. 10 『SPA 製品ガイド』の「アーカイブする」の「第 4 章 コマンドでアーカイブする」を参照してください。

注意

手動でバックアップした Ver. 9.3 のアーカイブコマンドのうち、独自に作成したディレクトリやファイル以外を<アーカイブコマンドの配置先>/archive にコピーすると、アーカイブコマンドの動作に問題が発生します。必ず、独自に作成したディレクトリやファイルだけをコピーしてください。

8. 最新バージョンの検索インデックスの作成が終了したことを確認して、SPA のモードを変更します。詳細は、「[通常モードへの移行 \(p. 66\)](#)」を参照してください。
9. 必要に応じて、最新バージョンの検索インデックスの作成で使用したデータを削除します。詳細は、「[検索インデックスの作成で使用したデータの削除 \(p. 66\)](#)」を参照してください。

注意事項

- インストーラーを実行する前に、すべてのアプリケーションを終了してください。
- インストールする環境のタイムゾーンには、夏時間を持たないタイムゾーンを指定して利用することをお勧めします。
- 何らかのアンチウイルスソフトを利用している場合、PostgreSQL のデータディレクトリを監視対象から外してください。不規則かつ予期できないエラーが起きたり、最悪の場合、データ破損を引き起こす可能性があります。また、PostgreSQL の動作が遅くなることがあります。PostgreSQL のデータディレクトリは、<PostgreSQL のインストールディレクトリ>/pgsql/data です。
- モジュールを更新すると、apache-tomcat と PostgreSQL がアップデートされます。apache-tomcat でポート番号や SSL、PostgreSQL でデータベース接続数などの個別設定を行っている場合は、モジュールの更新後に設定を変更してください。
- モジュール更新後は、必要に応じて、ヒープサイズの変更や OCR に関する個別設定 (OcrConfig.xml の編集) を行ってください。

5.1.3.1. インストーラーの実行

ここでは、最新バージョンのインストーラーを使用した SPA サーバーの更新と設定データの移行の手順を説明します。

1. 次のシェルスクリプトを実行して、SPA Ver. 9.3 のすべてのプロセスを終了します。

```
<SPA のインストール先>/archiver/bin/shutdown.sh
```

2. SPA Ver. 9.3 のアクティベーションを解除します。手順は、Ver. 9.3 『セットアップガイド』の「1-2-4-2 アクティベーションを解除する」を参照してください。
3. SPA Ver. 10.6.0.2 のインストールメディア内の「install_x64.sh」を起動します。アップデートの同意を確認するメッセージが表示されます。
4. 「yes」を選択します。バックアップ先の指定が表示されます。
5. バックアップ先のパスを確認し、必要に応じて指定し直します。

参考

次のフォルダーはバックアップ先に指定できません。

- <SPA のインストールフォルダー>
- <SPA のインストールフォルダー>%archiver 配下のフォルダー
- 配下に「archiver」という名前のフォルダーがあるフォルダー
- ネットワークドライブ上にあるフォルダー

6. ここまでに設定した情報がまとめて表示されます。

設定内容に問題がないことを確認して、「yes」を選択します。

問題がある場合は、「no」を選択して、設定を変更してください。

モジュールの更新と設定データの移行が開始されます。インストールが完了すると、アクティベーションの実行を促すメッセージが表示されます。

7. SPA Ver. 10.6.0.2 のアクティベーションキーでアクティベーションを実行します。手順は、Ver. 10 『セットアップガイド』の「アクティベーションを実行する」を参照してください。
8. 次の順にシェルスクリプトを実行して、SPA Ver. 10.6.0.2 のすべてのプロセスを起動します。

```
<SPA のインストール先>/archiver/bin/startup93.sh
```

```
<SPA のインストール先>/archiver/bin/startup.sh
```

制限

インストールの完了後に、SPA WebService が正常に起動しなかった場合は、次の手順で SPA WebService を再起動する必要があります。

- a. SPA Archive Server が起動したことを確認します。
- b. 次のスクリプトを実行し、SPA WebService を停止します。

```
<SPA_DIR>/archiver/bin/shutdown_web_service.sh
```

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/shutdown_web_service.sh
```

- c. 次のスクリプトを実行し、SPA WebService を開始します。

```
<SPA_DIR>/archiver/bin/startup_web_service.sh
```

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/startup_web_service.sh
```

以上でインストーラーを使用した SPA サーバーの更新と設定データの移行は完了です。

注意

上記の手順の後には、SPA サーバーはアップデートモードで起動しています。アップデートモード中は、最新バージョンの検索インデックスを作成しているため、次の操作ができません。

- 保存先の追加、変更、削除
- 検索方式の変更
- 検索インデックス再作成コマンドの実行

参考

最新バージョンの検索インデックスの作成条件（処理の同時実行数の上限や処理間隔）を、必要に応じて、調整することができます。検索インデックスの作成条件の調整手順は、「[付録1 検索インデックスの作成条件の調整 \(p.98\)](#)」を参照してください。

5.1.3.2. 通常モードへの移行

ここでは、最新バージョンの SPA の検索インデックスの作成が完了していることを確認して、SPA を通常モードに移行する手順を説明します。

1. キュー管理コマンドを利用し、最新バージョンの検索インデックスの作成が完了しているかどうかを確認します。

```
<SPA のインストール先>/archiver/util/queue.sh count -q all
```

シェルスクリプトの実行結果ですべてのキューの値が「0」の場合は、次に進んでください。「0」以外の場合は、検索インデックスを作成中です。時間を空けて、シェルスクリプトを再度実行してください。

キュー管理コマンドの実行方法は、『SPA 製品ガイド』の「コマンドによる運用と管理」の、「システム内部キューの確認」を参照してください。

2. 次の順にシェルスクリプトを実行して、SPA のすべてのプロセスを終了します。

```
<SPA のインストール先>/archiver/bin/shutdown.sh  
<SPA のインストール先>/archiver/bin/shutdown93.sh
```

3. 「<SPA のインストール先>/archiver/conf/spa-store-server.properties」をテキストエディターで開いて、次のとおりに編集します。
 - spa.system.index.mode の値を「normal」に変更します。
 - spa.system.index.zkaddr の値を「127.0.0.1:44243/solr」に変更します。

注意

「spa-store-server.properties」の変更した値が正しくないと、SPA の動作に問題が発生します。必ず、上記のとおりに変更してください。

4. 「<SPA のインストール先>/archiver/conf/spa-webapp.properties」をテキストエディターで開いて、次のとおりに編集します。
 - spa.system.index.mode の値を「normal」に変更します。
 - spa.system.index.zkaddr の値を「127.0.0.1:44243/solr」に変更します。

注意

「spa-webapp.properties」の変更した値が正しくないと、SPA の動作に問題が発生します。必ず、上記のとおりに変更してください。

5. 次のシェルスクリプトを実行して、SPA のすべてのプロセスを起動します。

```
<SPA のインストール先>/archiver/bin/startup.sh
```

6. ユーザー画面 (<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/pdfarchiver/>) にログインして、アーカイブされている文書を検索できることを確認します。

5.1.3.3. 検索インデックスの作成で使ったデータの削除

ここでは、検索インデックスの作成で使ったデータ（ディレクトリとファイル）を削除する手順を説明します。データの削除は、マイグレーション完了後に、必要に応じて実行してください。

1. 次の順にシェルスクリプトを実行して、SPA のすべてのプロセスを終了します。

```
<SPA のインストール先>/archiver/bin/shutdown.sh  
<SPA のインストール先>/archiver/bin/shutdown93.sh
```

2. 次のデータを任意の場所にコピーします。

- ディレクトリ
 - <共通データの格納先>93
 - <検索インデックスの格納先>93
検索インデックス格納ディレクトリを複数指定している場合は、すべての格納ディレクトリをコピーする必要があります。
 - <SPA のインストール先>/archiver/solr/solr93
 - <SPA のインストール先>/archiver/solr/zookeeper93
- ファイル
 - <SPA のインストール先>/archiver/bin/startup93.sh
 - <SPA のインストール先>/archiver/bin/shutdown93.sh

3. 次のデータを削除します。

- ディレクトリ
 - <共通データの格納先>93
 - <検索インデックスの格納先>93
検索インデックス格納ディレクトリを複数指定している場合は、すべての格納ディレクトリを削除する必要があります。
 - <SPA のインストール先>/archiver/solr/solr93
 - <SPA のインストール先>/archiver/solr/zookeeper93
- ファイル
 - <SPA のインストール先>/archiver/bin/startup93.sh
 - <SPA のインストール先>/archiver/bin/shutdown93.sh

4. 次のシェルスクリプトを実行して、SPA のすべてのプロセスを起動します。

```
<SPA のインストール先>/archiver/bin/startup.sh
```

5. SPA のユーザー画面および管理画面にログインして、問題なく動作することを確認します。

- ユーザー画面のログイン画面
<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/pdfarchiver/>
- 管理画面のログイン画面
<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/pdfarchiver/manager.jsp>

5.1.3.4. Ver. 9.3 へのリストア

ここでは、Ver. 9.3 へのリストア手順を、モジュールごとに説明します。

- リストアで移行されないデータ (p. 68)
- SPA サーバーのリストア (p. 68)
- アーカイブコマンドのリストア (配置している場合のみ) (p. 70)
- Loader サービスのリストア (インストールしている場合のみ) (p. 70)

参考

Document Converter のリストアについては、「[Ver. 9.3 へのリストア \(p. 57\)](#)」を参照してください。

リストアで移行されないデータ

次のデータは、リストアされません。リストア後、必要に応じて再設定してください。

SPA のデータ

大分類	中分類	小分類	詳細
メンテナンスモード			

Loader サービスのデータ

大分類	中分類	小分類	詳細
設定	全般	言語設定	
振り分け	サービス設定	環境設定（プロパティ設定）	ログ（サービスマニフェストファイル出力の設定） 環境（スレッド数、シミュレーションルートフォルダー）

SPA サーバーのリストア

1. プロセスの終了

次の順にシェルスクリプトを実行して、すべてのプロセスを終了します。

```
<SPA サーバーのインストール先>/archiver/bin/shutdown.sh  
<SPA サーバーのインストール先>/archiver/bin/shutdown93.sh（アップデートモードで起動している場合）
```

2. マイグレーション時に自動的にバックアップされていたデータの退避

次のディレクトリを、任意のディレクトリにコピーします。

```
<SPA サーバーのインストール先>/_backup
```

3. 最新バージョンの SPA のアンインストール

最新バージョンの SPA をアンインストールします。手順は、Ver. 10『セットアップガイド』の「SPA サーバーのアンインストール」を参照してください。

インストール中、アンインストール方法を選択するときは、「すべてアンインストール」を選択します。

4. SPA Ver. 9.3 のインストールとアクティベーション

SPA Ver. 9.3 をインストールし、アクティベーションします。手順は、Ver. 9.3『セットアップガイド』の「1-2-1 SPA サーバーのインストール」を参照してください。

- インストールには、SPA Ver. 9.3 をはじめにインストールしたときのインストーラーを利用します。
- 以下の保存先には、マイグレーションの際にメモを取ったパスを指定します。
 - アーカイブファイルの格納ディレクトリ

- 検索インデックスの格納ディレクトリ
- キャッシュ用画像の格納ディレクトリ
- 共通データの格納ディレクトリ
- アクティベーションでは、SPA Ver. 9.3 のアクティベーションキーを使用してください。

5. ディレクトリの削除

以下のディレクトリを削除します。

- <SPA サーバーのインストール先>/archiver/apache-tomcat
- <SPA サーバーのインストール先>/archiver/bin
- <SPA サーバーのインストール先>/archiver/lib
- <SPA サーバーのインストール先>/archiver/license
- <SPA サーバーのインストール先>/archiver/sample
- <SPA サーバーのインストール先>/archiver/solr/solr/server/solr-webapp/webapp/WEB-INF/lib
- <SPA サーバーのインストール先>/archiver/util/info
- <SPA サーバーのインストール先>/archiver/util/lib
- <PostgreSQL のインストール先>/pgsql
- アーカイブファイルの保存先
- 検索インデックスの保存先
- キャッシュ用画像の保存先
- 共通データの保存先

6. マイグレーション時に自動的にバックアップされていたデータの復元

「[マイグレーション時に自動的にバックアップされていたデータの退避](#)」で退避したデータを復元します。

- インストーラーで作成されたバックアップのデータのうち、共通データ (<SPA サーバーのインストール先>/_backup/archiver/data/common) を、マイグレーションの際にメモを取った共通データの保存先にコピーします。
- インストーラーで作成されたバックアップのデータのうち、PostgreSQL のデータ (<SPA サーバーのインストール先>/_backup/archiver/pgsql) を、<PostgreSQL のインストール先>/pgsql にコピーします。(<PostgreSQL のインストール先>は、マイグレーションの際にメモを取った PostgreSQL のインストール先です。)
- 共通データ、PostgreSQL 以外のデータを、<SPA サーバーのインストール先>/archiver にコピーします。

7. 手動でバックアップした SPA Ver. 9.3 のデータの復元

マイグレーション前に手動でバックアップした以下のデータを、元の場所にコピーします。

- アーカイブファイル
- 検索インデックス
- キャッシュ用画像

8. プロセスの起動

次のシェルスクリプトを実行して、SPA Ver. 9.3 のすべてのプロセスを起動します。

```
<SPA のインストール先>/archiver/bin/startup.sh
```


9. リストアの結果の確認

SPA のユーザー画面または管理画面で、SPA およびデータがリストアされていることを確認します。

- a. SPA のログイン画面 (<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/pdfarchiver/>) を表示して、表示されるバージョンが「9.3.5.X」以降であることを確認します。
- b. ユーザー画面にログインして、アーカイブされた文書のデータが移行されていることを確認します。
- c. 管理画面にログインして、設定データが移行されていることを確認します。

10. リストアで移行されないデータの移行

必要に応じて、リストアで移行されないデータを手動で移行してください。

アーカイブコマンドのリストア（配置している場合のみ）

1. 最新バージョンのアーカイブコマンドの削除

アーカイブコマンドが動作していないことを確認し、<アーカイブコマンドの配置先>/archive を削除します。

2. 手動でバックアップした Ver. 9.3 のアーカイブコマンドの復元

マイグレーション前に手動でバックアップした Ver. 9.3 のアーカイブコマンドを、<アーカイブコマンドの配置先>にコピーします。

3. リストアの結果の確認

コマンドプロンプトから以下のシェルスクリプトを実行して、表示されるバージョンが、「9.3.5.X」以降であることを確認します。

```
<アーカイブコマンドの配置先>/archive/archive_document.sh
```

Loader サービスのリストア（インストールしている場合のみ）

1. Bridge サービスのアンインストール

最新バージョンの Bridge サービスをアンインストールします。手順は、Ver. 10『セットアップガイド』の「Bridge サービスのアンインストール」を参照してください。

2. Loader サービスのインストール

Ver. 9.3 の Loader サービスをインストールします。手順は、Ver. 9.3『セットアップガイド』の「2-2-1 Loader サービスのインストール」を参照してください。

3. プロセスの終了

Loader サービスのプロセスが起動している場合は、次のシェルスクリプトを実行して、Loader サービスのプロセスを終了します。

```
<Loader サービスのインストール先>/loader/bin/shutdown.sh
```

4. Loader サービスのデータの削除

以下のディレクトリを削除します。

- <Loader サービスのインストール先>/loader/lib
- <Loader サービスのインストール先>/loader/license
- <Loader サービスのインストール先>/loader/splstate

5. 手動でバックアップした Loader サービスのデータの復元

マイグレーション前に手動でバックアップしたデータを、<Loader サービスのインストール先>/loader ディレクトリにコピーします。

6. プロセスの起動

次のシェルスクリプトを実行して、Loader サービスのプロセスを起動します。

```
<Loader サービスのインストール先>/loader/bin/startup.sharchiver/bin/  
startup.sh
```

7. リストア結果の確認

以下の手順で Loader サービスがリストアされていることを確認します。

- a. SPA の管理画面 (<http://<サーバー名または IP アドレス>:44230/pdfarchiver/manager.jsp>) にログインします。
- b. 管理画面の設定カテゴリ [文書定義] で [Loader 設定] を選択して、Loader 設定画面を表示します。
- c. [振り分け] タブで Loader サービス名を選択します。
- d. [サービス設定] タブで [プロパティ 設定] ボタンをクリックします。
- e. [バージョン情報] タブをクリックし、製品バージョンが「9.3.5.X」以降であることを確認します。

8. リストアで移行されないデータの移行

必要に応じて、リストアで移行されないデータを手動で移行してください。

5.2. 別の環境にマイグレーションする場合

マイグレーション後に別の環境を利用する場合は、「データマイグレーションツール」を利用して既存の環境から SPA の設定とアーカイブされた文書をエクスポートし、最新バージョンの SPA をインストールした環境にデータをインポートします。この章では、データマイグレーションツールを利用した、別環境へのマイグレーションの手順を説明します。

- [マイグレーション対象 \(p. 71\)](#)
- [データマイグレーションツールで移行されないデータ \(p. 72\)](#)
- [提供するツール \(p. 72\)](#)

マイグレーション対象

データマイグレーションツールで新環境にインポートできるのは、SPA Ver. 9.3 Service Pack 5 以降からエクスポートしたデータです。

SPA Ver. 9.3 Service Pack 5 以降の設定データおよびアーカイブされた文書のデータが、マイグレーションの対象となります。一部のデータはデータマイグレーションツールでの移行の対象となりません。詳細は「[データマイグレーションツールで移行されないデータ \(p. 72\)](#)」を参照してください。

注意

- SPA Ver. 9.3 Service Pack 4 以前を利用している場合は、マイグレーションの前に、Service Pack 5 以降を適用してください。
- Windows 版と Linux 版の間でデータをマイグレーションすることはできません。

データマイグレーションツールで移行されないデータ

データマイグレーションツールでの移行対象ではないデータは次のとおりです。必要に応じて手動でデータを移行してください。

SPA のデータ

大分類	中分類	小分類	詳細
サーバー設定	Web サーバー	デバッグログ出力設定	
		アクセスログ出力設定	
		Loader 実行結果ログの出力設定	
		詳細設定	タイムアウト値等の設定
	アーカイブサーバー	デバッグログ出力設定	
		PDF ファイルエラーログ設定	
詳細設定		スレッド数・プーリング数等の設定	

Loader サービスのデータ

大分類	中分類	小分類	詳細
設定	全般	言語設定	
振り分け	サービス設定	環境設定（プロパティ設定）	ログ（サービスログファイル出力の設定）
			環境（スレッド数、シミュレーションルートフォルダー）

システムファイル

SPA で使用する以下のシステムファイルは移行されません。エクスポートしたデータをインポートした後、コマンドを利用して作成してください。手順については、「[最新バージョンの SPA \(Windows 版\) へのインポート \(p. 76\)](#)」または「[最新バージョンの SPA \(Linux 版\) へのインポート \(p. 83\)](#)」を参照してください。

- PDF インデックスファイル（文書へのアクセスなどを高速化するための中間補助ファイル）
- プレビューに使用するキャッシュ用画像ファイル
- 検索インデックス

提供するツール

データマイグレーションツールとして次のファイルが提供されます。ファイルを展開し、対象となる製品がインストールされたフォルダー（Linux 版ではディレクトリ）直下に、フォルダーごと配置してください。

- Windows 版
v93datamigration_win.zip

- Linux 版
v93datamigration_rhel.tar.gz

注意

必ずバイナリーモードで tar.gz ファイルをコピーしてください。

展開後のフォルダー構成

- Windows 版
v93datamigration_win.zip は、次の構成で展開されます。

```
v93datamigration (フォルダー)
|- lib (ライブラリ格納フォルダー)
|- conf (設定ファイル格納フォルダー)
|- license (OSS ライセンス格納フォルダー)
|- jre (Java ランタイム)
|- temp (ツールのテンポラリフォルダー)
|- logs (ツールが出力するログの格納フォルダー)
|- spa93export.bat (SPA Ver. 9.3 用エクスポートツール)
|- spa106import.bat (SPA Ver. 10.6 用インポートツール)
```

- Linux 版
v93datamigration_rhel.tar.gz は、次の構成で展開されます。

```
v93datamigration (ディレクトリ)
|- lib (ライブラリ格納ディレクトリ)
|- conf (設定ファイル格納ディレクトリ)
|- license (OSS ライセンス格納ディレクトリ)
|- jre (Java ランタイム)
|- temp (ツールのテンポラリディレクトリ)
|- logs (ツールが出力するログの格納ディレクトリ)
|- spa93export.sh (SPA Ver. 9.3 用エクスポートツール)
|- spa106import.sh (SPA Ver. 10.6 用インポートツール)
```

5.2.1. Windows 版のマイグレーション手順

ここでは、Windows 版のマイグレーションの流れと、注意事項を説明します。

マイグレーションの流れと注意事項を確認し、手順に沿ってデータを移行してください。

マイグレーションの流れ

SPA Ver. 9.3 から最新バージョンの SPA へのマイグレーションは、次の流れで行います。なお、ここでは、最新バージョンの SPA が、SPA Ver. 9.3 とは別の環境にインストールされているという前提で説明しています。

1. SPA のログイン画面 (<http://<IP アドレスまたはサーバー名>:44230/pdfarchiver/>) を表示し、バージョンが「9.3.5.X」以降であることを確認します。
2. SPA Ver. 9.3 のデータをエクスポートします。

3. データをインポートする環境に、最新バージョンの SPA をインストールします。インストール手順は、Ver. 10 の『セットアップガイド』を参照してください。
4. エクスポートしたデータを、最新バージョンの SPA がインストールされた環境にインポートします。
5. システムファイルの再作成コマンドで、システムファイルを作成します。

注意事項

- ネットワークドライブはエクスポート先として指定できません。
- エクスポートするデータは大容量になる可能性があります。SPA のインストールフォルダーやデータフォルダー（アーカイブファイルの格納先）の容量を確認し、十分な空き容量のあるディスクをエクスポート先として用意してください。
エクスポート先の空き容量の目安については、「[エクスポート先の空き容量の目安 \(p. 74\)](#)」を参照してください。
- マイグレーションを始める前に、下記のサポートサイト FAQ を参照してください。
『SPA におけるデータのエクスポート・インポート・検索インデックス作成の所要時間について』
<https://customer.wingarc.com/support/faq?id=000015851>

エクスポート先の空き容量の目安

SPA Ver. 9.3 の「データベースの容量+保存ファイルの容量」と同等の容量が必要です。

- データベースの容量
SPA Ver. 9.3 の、<PostgreSQL のインストールフォルダー>%pgsql\data の容量を確認してください。
- 保存ファイルの容量
SPA Ver. 9.3 の、管理画面の設定カテゴリ [環境設定] - [保存先の設定] の各タブで、保存ファイル（アーカイブファイル、キャッシュ用画像、検索インデックス）の容量を確認してください。

5.2.1.1. SPA Ver. 9.3 (Windows 版) からのエクスポート

SPA Ver. 9.3 (Windows 版) からのデータのエクスポート手順は次のとおりです。

エクスポート前の作業

- アーカイブされている文書の情報（文書数）を確認し、記録してください。
- アーカイブされている文書の情報は次の手順で確認できます。確認した情報は、データが正しく移行されたことを確認するために使用します。
 1. 「admin」ユーザーでユーザー画面にログインします。
 2. 「/」（ルート）フォルダーを右クリックして表示されるメニューから [フォルダー情報] を選択します。
[フォルダー情報] ダイアログが表示されます。
 3. [フォルダー情報] ダイアログの内容（文書数など）を記録するか、スクリーンショットを取得してファイルに保存します。
- 「/」（ルート）フォルダーを指定して、文書プロパティ「アーカイブ日時」が「2000年1月1日以降」の文書を検索し、検索結果を CSV ファイルに出力します。出力した CSV ファイルはデータが正しく移行されたことを確認するために利用します。アーカイブされている文書が 10 万を超える場合は、フォルダーごとに検索と CSV ファイルの出力を行ってください。

- データマイグレーションツール (v93datamigration_win.zip) を任意の場所に展開してください。

エクスポート手順

ここでは、SPA Ver. 9.3 が「C:\SVFPDFArchiver」にインストールされていることを前提に説明します。

参考

必要に応じて SPA Ver. 9.3 のデータのバックアップを取得してください。

1. 以下のサービスを、次の順番ですべて終了します。
 - SVF PDF Archiver Loader Service
 - SVF PDF Archiver WebService
 - SVF PDF Archiver Archive Server
 - SVF PDF Archiver Solr Server
 - SVF PDF Archiver ZooKeeper
 - SVF PDF Archiver PostgreSQL Service
2. 「SVF PDF Archiver PostgreSQL Service」を起動します。
3. 展開したデータマイグレーションツールを、フォルダーごと「C:\SVFPDFArchiver」にコピーします。

データマイグレーションツール配置後のフォルダー構成

```
C:\SVFPDFArchiver\v93datamigration
```

4. 管理者としてコマンドプロンプトを起動し、次のコマンド（エクスポートツール）を実行します。

```
C:\SVFPDFArchiver\v93datamigration\spa93export.bat
```

5. データのエクスポート先を指定します。
設定データと文書の情報、PDF ファイルがエクスポートされます。

```
SVF PDF Archiver Ver.9.3 ExportTool (Ver. 10.6.0.2)
SVF PDF Archiver Ver.9.3 のデータを SPA Ver. 10.6 移行用にエクスポートします。
```

エクスポート先のディレクトリを指定してください。

```
> C:/temp/archiver_v93data
```

確認：

```
エクスポート先ディレクトリ C:/temp/archiver_v93data
```

エクスポートを開始します。よろしいですか？ (Y/N)

```
> y
```

```
[1/4] データベース情報のエクスポートが完了しました。
```

```
[2/4] 画像ファイルのエクスポートが完了しました。
```

```
[3/4] PDF ファイルのエクスポートが完了しました。
```

[4/4] 設定ファイルのエクスポートが完了しました。

エクスポートが完了しました。

詳細ログは C:\SVFPDFArchiver\v93datamigration\logs
\result20190512143159.log を参照してください。

6. 「SVF PDF Archiver PostgreSQL Service」を終了します。

参考

必要に応じて SPA Ver. 9.3 および SPA Loader Service Ver.9.3 をアンインストールします。

5.2.1.2. 最新バージョンの SPA (Windows 版) へのインポート

ここでは、エクスポートしたデータを、最新バージョンの SPA がインストールされた環境にインポートする手順を説明します。

インポート前の作業

エクスポートしたデータをインポートする前に、次の作業を行ってください。

1. 最新バージョンの SPA をインストールし、アクティベーションします。

注意

各種設定やフォルダー作成、文書のアーカイブなどは行わないでください。設定データが存在していたり文書がアーカイブされたりしている場合、エクスポートしたデータがインポートできません。

2. インストール直後の環境をコールドバックアップします。
何かの問題でデータのインポートに失敗した場合は、このバックアップデータを使ってインストール直後の状態を復元します。バックアップの手順は、SPA Ver. 10『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」の、「コールドバックアップを行う」を参照してください。
3. 次のサービスを、次の順番ですべて起動します。
 - SPA PostgreSQL Service
 - SPA Zookeeper
 - SPA Solr Server
 - SPA Archive Server
 - SPA Webservice
4. データマイグレーションツール (v93datamigration_win.zip) を任意のフォルダーに展開します。
5. エクスポートしたデータを、最新バージョンの SPA をインストールしたサーバーからアクセスできる場所に配置します。
ここでは、エクスポートしたデータが「C:%temp%archiver_v93data」に配置されていることを前提として説明します。

インポート手順

ここでは、最新バージョンの SPA が「C:%SPA」にインストールされていることを前提に説明します。

1. Windows のコントロールパネルの [プログラムと機能] で、SPA Ver. 10.6.0.2 の [バージョン] が「10.6.00.0002」と表示されていることを確認します。
2. 以下のサービスを、次の順番ですべて終了します。
 - SPA WebService
 - SPA Archive Server
 - SPA Solr Server
 - SPA Zookeeper
 - SPA PostgreSQL Service
3. 「SPA PostgreSQL Service」を起動します。
4. 展開したデータマイグレーションツールを「C:%SPA」にコピーします。

データマイグレーションツール配置後のフォルダー構成

```
C:\SPA\v93datamigration
```

5. 管理者としてコマンドプロンプトを起動し、次のコマンド（インポートツール）を実行します。

```
C:\SPA\v93datamigration\spa106import.bat
```

6. インポートするデータが格納されたフォルダーを指定します。
エクスポートしたデータがインポートされます。

```
SPA Ver. 10.6 Ver.9.3ImportTool (Ver. 10.6.0.2)
```

```
SVF PDF Archiver Ver.9.3 のエクスポートデータをインポートします。
```

```
SVF PDF Archiver Ver.9.3 のデータをインポートしますか？ (Y/N)
```

```
> y
```

```
SVF PDF Archiver Ver.9.3 のデータエクスポートディレクトリを指定してください。
```

```
> C:/temp/archiver_v93data
```

確認：

```
SVF PDF Archiver Ver.9.3 のデータインポート : する
```

```
SVF PDF Archiver Ver.9.3 のエクスポートデータディレクトリ:C:\temp  
\archiver_v93data
```

```
インポートを開始します。よろしいですか？ (Y/N)
```

```
> y
```

```
[1/9] 実行前の確認が完了しました。
```

```
[2/9] Ver. 10.6 のチェック処理が完了しました。
```

```
[3/9] 作業データベースの作成が完了しました。
```

```
[4/9] データベース情報のインポートが完了しました。
```

```
[5/9] 環境設定情報のコンバートが完了しました。
```

```
[6/9] データベースの切り替えが完了しました。
```

```
[7/9] 画像データのインポートが完了しました。
```



```
[8/9] PDF ファイルのインポートが完了しました。
```

```
[9/9] クリーンアップが完了しました。
```


インポートが完了しました。

SPA のサービスをすべて起動し、システムデータ再作成コマンドを実行してください。

詳細ログは C:\SPA\v93datamigration\logs/result2019051264805.log を参照してください。

7. 以下のサービスを、次の順番ですべて起動します。
 - SPA ZooKeeper
 - SPA Solr Server
 - SPA Archive Server
 - SPA WebService
8. SPA を起動し、管理画面の設定カテゴリ [環境設定] - [保存先の設定] で、[検索インデックス格納フォルダー] タブをクリックします。
9.  [最新状態に更新] ボタンをクリックし、 [検索インデックス格納フォルダー] タブの各項目のステータスを確認します。
ステータスに「利用可」のみが表示されている場合は手順 12 に進みます。
「サーバー再起動後に適用」と表示された場合は「SPA Solr Server」の再起動が必要です。次の手順に進んでください。
10. 「SPA Solr Server」を終了し、再起動します。
11.  [最新状態に更新] ボタンをクリックし、 [検索インデックス格納フォルダー] タブの各項目のステータスが「利用可」となったことを確認します。
12. システムファイル作成コマンドを利用し、システムファイル（PDF インデックスファイル、プレビュー用キャッシュファイル、検索インデックス）を作成します。
コマンド指定例は以下のとおりです。

```
create_system_file.bat -wc -ws -r -d /
```

システムファイル作成コマンドの詳細は、『SPA 製品ガイド』の「コマンドによる運用と管理」の、「システムファイルの作成」を参照してください。

13. キュー管理コマンドを利用し、システムファイルの作成処理が終了したかどうかを確認します。
コマンド指定例は以下のとおりです。

```
C:\SPA\archiver\util\queue.bat count -q all
```

コマンドの実行結果ですべてのキューの値が「0」の場合は、システムファイルの作成処理は完了しています。「0」以外の場合は、システムファイルを作成中です。時間を空けて、コマンドを再度実行してください。

キュー管理コマンドの実行方法は、『SPA 製品ガイド』の「コマンドによる運用と管理」の、「システム内部キューの確認」を参照してください。

14. 次の方法で、データが正しくマイグレーションされたことを確認します。
 - 「admin」ユーザーでユーザー画面にログインし、「/」（ルート）フォルダーのフォルダー情報が、Ver. 9.3 がインストールされた環境のフォルダー情報と同じことを確認します。
 - 文書プロパティ「アーカイブ日時」が「2000年1月1日以降」の文書を検索し、検索結果を CSV ファイルに出力します。検索と CSV ファイル出力は、Ver. 9.3 がインストールされた環境で出力した CSV ファイルと同じフォルダー単位で行ってください。出力した CSV ファイルを、Ver. 9.3 がインストールされた環境で出力した CSV ファイルと比較し、テキストに差分が

ないことを確認します。比較する前に、CSV ファイルを「パス」と「名称」でソートしてください。

15. Bridge サービスのインストーラーをダウンロードし、Bridge サービスをインストールします。詳細は、『セットアップガイド』の「Bridge サービスのセットアップ」を参照してください。
16. 必要に応じて「処理定義」を有効にします。
システムファイルの作成と同時に Bridge サービスを使用したアーカイブが自動で開始されることがないように、インポート直後はすべての「処理定義」が無効になっています。Loader 設定画面で有効にする処理定義を選択し、[処理定義を有効にする] をオンにします。

インポートに失敗した場合

何らかの理由でインポートに失敗した場合、実行結果ログファイルを参照し、原因を把握した上でインポートを再実行します。

主な原因として、次のことが考えられます。

- ディスク容量（インポート先ディスクの容量不足）
- メモリの枯渇
- インポート元ファイルがネットワーク上に置かれており、インポート中にネットワークが切断された
- インポート元ファイルの破損

インポート再実行の手順は次のとおりです。

1. インポート前に作成したバックアップをリストアします。
リストアの手順は、『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」の、「コールドバックアップからのリストア」を参照してください。
2. インポートツールを利用して、あらためてデータをインポートします。

5.2.2. Linux 版のマイグレーション手順

ここでは、Linux 版のマイグレーションの流れと、注意事項を説明します。

マイグレーションの流れと注意事項を確認し、手順に沿ってデータを移行してください。

マイグレーションの流れ

SPA Ver. 9.3 から最新バージョンの SPA へのマイグレーションは、次の流れで行います。なお、ここでは、最新バージョンの SPA が、SPA Ver. 9.3 とは別の環境にインストールされているという前提で説明しています。

1. SPA のログイン画面 (<http://<IP アドレスまたはサーバー名>:44230/pdfarchiver/>) を表示し、バージョンが「9.3.5.X」以降であることを確認します。
2. SPA Ver. 9.3 のデータをエクスポートします。
3. データをインポートする環境に、最新バージョンの SPA をインストールします。インストール手順は、Ver. 10 の『セットアップガイド』を参照してください。
4. エクスポートしたデータを、最新バージョンの SPA がインストールされた環境にインポートします。
5. システムファイルの再作成コマンドで、システムファイルを作成します。

注意事項

- ネットワークドライブはエクスポート先として指定できません。
- エクスポートするデータは大容量になる可能性があります。SPA のインストールフォルダーやデータフォルダー（アーカイブファイルの格納先）の容量を確認し、十分な空き容量のあるディスクをエクスポート先として用意してください。
エクスポート先の空き容量の目安については、「[エクスポート先の空き容量の目安 \(p. 80\)](#)」を参照してください。
- マイグレーションを始める前に、下記のサポートサイト FAQ を参照してください。
『SPA におけるデータのエクスポート・インポート・検索インデックス作成の所要時間について』
<https://customer.wingarc.com/support/faq?id=000015851>

エクスポート先の空き容量の目安

SPA Ver. 9.3 の「データベースの容量+保存ファイルの容量」と同等の容量が必要です。

- データベースの容量
SPA Ver. 9.3 の、<PostgreSQL のインストールフォルダー>/pgsql/data の容量を確認してください。
- 保存ファイルの容量
SPA Ver. 9.3 の、管理画面の設定カテゴリ [環境設定] - [保存先の設定] の各タブで、保存ファイル（アーカイブファイル、キャッシュ用画像、検索インデックス）の容量を確認してください。

5.2.2.1. SPA Ver. 9.3 (Linux 版) からのエクスポート

SPA Ver. 9.3 からデータのエクスポートする手順は次のとおりです。

注意

エクスポートは、SPA Ver. 9.3 をインストールしたユーザーで実施してください。

エクスポート前の作業

- アーカイブされている文書の情報（文書数）を確認し、記録してください。
アーカイブされている文書の情報は次の手順で確認できます。確認した情報は、データが正しく移行されたことを確認するために使用します。
 - 「admin」ユーザーでユーザー画面にログインします。
 - 「/」（ルート）フォルダーを右クリックして表示されるメニューから [フォルダー情報] を選択します。
[フォルダー情報] ダイアログが表示されます。
 - [フォルダー情報] ダイアログの内容（文書数など）を記録するか、スクリーンショットを取得してファイルに保存します。
- 「/」（ルート）フォルダーを指定して、文書プロパティ「アーカイブ日時」が「2000年1月1日以降」の文書を検索し、検索結果を CSV ファイルに出力します。出力した CSV ファイルはデータが正しく移行されたことを確認するために利用します。アーカイブされている文書が 10 万を超える場合は、フォルダーごとに検索と CSV ファイルの出力を行ってください。
- データマイグレーションツール (v93datamigration_rhel.tar.gz) を任意の場所に展開してください。

実行例

```
$ tar -xvzf v93datamigration_rhel.tar.gz
```

エクスポート手順

以降の説明では、次の表記を使用します。

- SPA Ver. 9.3 のインストール先を<INSTALL_DIR>と記載します。
- SPA Ver. 9.3 の PostgreSQL のインストール先を<PGSQL_DIR>と記載します。

また、SPA Ver. 9.3 および SPA Ver. 9.3 の PostgreSQL が「/home/spa/SVFPDFArchiver」にインストールされていることを前提に記載します。

参考

- SPA Ver. 9.3 のデフォルトインストールディレクトリは、「~/SVFPDFArchiver」です。
- PostgreSQL をインストールしたディレクトリは、次のコマンドで確認できます。
<INSTALL_DIR>には、SPA Ver. 9.3 をインストールしたディレクトリを指定してください。
grep POSTGRES_DIR= <INSTALL_DIR>/archiver/bin/startup.sh

1. 以下のスクリプトを実行し、SPA Ver. 9.3 のプロセスを終了します。
<INSTALL_DIR>/archiver/bin/shutdown.sh

実行例

```
$ /home/spa/SVFPDFArchiver/archiver/bin/shutdown.sh
```

2. 次の2つのコマンドを実行し、PostgreSQL サービスのみ起動します。
 - ライブラリの設定
export LD_LIBRARY_PATH="<PGSQL_DIR>/pgsql/lib": "\$LD_LIBRARY_PATH"

実行例

```
$ export LD_LIBRARY_PATH="/home/spa/SVFPDFArchiver/archiver/pgsql/lib": "$LD_LIBRARY_PATH"
```

- PostgreSQL サービスの起動
<PGSQL_DIR>/pgsql/bin/pg_ctl start -D "<PGSQL_DIR>/pgsql/data"

実行例

```
$ /home/spa/SVFPDFArchiver/archiver/pgsql/bin/pg_ctl start -D "/home/spa/SVFPDFArchiver/archiver/pgsql/data"
```

3. 展開したデータマイグレーションツールを、ディレクトリごと「<INSTALL_DIR>」にコピーします。

実行例

```
$ cp -rfp v93datamigration /home/spa/SVFPDFArchiver
```

参考

データマイグレーションツール配置後のディレクトリ構成は以下のようになります。

```
/home/spa/SVFPDFArchiver/v93datamigration
```

4. 次のコマンド（エクスポートツール）を実行します。
<INSTALL_DIR>/v93datamigration/spa93export.sh

実行例

```
$ /home/spa/SVFPDFArchiver/v93datamigration/spa93export.sh
```

5. データのエクスポート先を指定します。
設定データと文書の情報、PDF ファイルがエクスポートされます。

実行例

```
SVF PDF Archiver Ver.9.3 ExportTool (Ver. 10.6.0.2)  
SVF PDF Archiver Ver.9.3 のデータを SPA Ver. 10.6 移行用にエクスポートします。
```

エクスポート先のディレクトリを指定してください。

```
> /home/spa/spa93
```

確認：

```
エクスポート先ディレクトリ /home/spa/spa93
```

エクスポートを開始します。よろしいですか？ (Y/N)

```
> y
```

```
[1/4] データベース情報のエクスポートが完了しました。
```

```
[2/4] 画像ファイルのエクスポートが完了しました。
```

```
[3/4] PDF ファイルのエクスポートが完了しました。
```

```
[4/4] 設定ファイルのエクスポートが完了しました。
```

エクスポートが完了しました。

詳細ログは/home/spa/SVFPDFArchiver/v93datamigration/logs/
result20190528062930.log を参照してください。

6. 次のコマンドを実行し、PostgreSQL サービスを終了します。
<PGSQL_DIR>/pgsql/bin/pg_ctl stop -D "<PGSQL_DIR>/pgsql/data"

実行例

```
$ /home/spa/SVFPDFArchiver/archiver/pgsql/bin/pg_ctl stop -D "/home/spa/SVFPDFArchiver/archiver/pgsql/data"
```

5.2.2.2. 最新バージョンの SPA (Linux 版) へのインポート

エクスポートしたデータのインポート手順を説明します。

注意

インポートは、最新バージョンの SPA をインストールしたユーザーで実施してください。

インポート前の作業

エクスポートしたデータをインポートする前に、次の作業を行ってください。

1. 最新バージョンの SPA をインストールし、アクティベーションします。

注意

各種設定やディレクトリ作成、文書のアーカイブなどは行わないでください。設定データが存在していたり文書がアーカイブされたりしている場合、エクスポートしたデータがインポートできません。

2. インストール直後の環境をコールドバックアップします。
何かの問題でデータのインポートに失敗した場合は、このバックアップデータを使ってインストール直後の状態を復元します。バックアップの手順は、SPA Ver. 10『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」の、「コールドバックアップを行う」を参照してください。
3. SPA サーバーをインストールしたユーザーで次のスクリプトを実行し、SPA サーバーのプロセスを起動します。

```
<SPA_DIR>/archiver/bin/startup.sh
```

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/startup.sh
```

4. データマイグレーションツール (v93datamigration_rhel.tar.gz) を任意のフォルダーに展開します。

実行例

```
$ tar -xvzf v93datamigration_rhel.tar.gz
```

5. エクスポートしたデータを、最新バージョンの SPA をインストールしたサーバーからアクセスできる場所に配置します。
ここでは、エクスポートしたデータが「/home/spa/tmp/spa」に配置されていることを前提として説明します。

インポート手順

以降の説明では、次の表記を使用します。

最新バージョンの SPA のインストール先を<INSTALL_DIR>、PostgreSQL のインストール先を<PGSQL_DIR>と記載します。

また、最新バージョンの SPA および PostgreSQL が「/home/spa/SPA」にインストールされていることを前提に記載します。

参考

- SPA のデフォルトインストールディレクトリは、「~/SPA」です。
- PostgreSQL をインストールしたディレクトリは、次のファイルで確認できます。
<INSTALL_DIR>には、SPA をインストールしたディレクトリを指定してください。
grep POSTGRES_DIR= <INSTALL_DIR>/archiver/bin/startup.sh

1. 以下のスクリプトを実行し、SPA のプロセスを終了します。
<INSTALL_DIR>/archiver/bin/shutdown.sh

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/shutdown.sh
```

2. 次の2つのコマンドを実行し、PostgreSQL サービスのみ起動します。

- ライブラリの設定

```
export LD_LIBRARY_PATH="<PGSQL_DIR>/pgsql/lib": "$LD_LIBRARY_PATH"
```

実行例

```
$ export LD_LIBRARY_PATH="/home/spa/SPA/archiver/pgsql/lib": "$LD_LIBRARY_PATH"
```

- PostgreSQL サービスの起動

```
<PGSQL_DIR>/ pgsq/bin/pg_ctl start -D "<PGSQL_DIR>/ pgsq/data"
```

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/pgsql/bin/pg_ctl start -D "/home/spa/SPA/archiver/pgsql/data"
```

3. 展開したデータマイグレーションツールを、ディレクトリごと「<INSTALL_DIR>」にコピーします。

実行例

```
$ cp -rfp v93datamigration /home/spa/SPA
```

参考

データマイグレーションツール配置後のディレクトリ構成は以下のようになります。

```
/home/spa/SPA/v93datamigration
```

4. 次のコマンド（インポートツール）を実行します。
<INSTALL_DIR>/v93datamigration/spa106import.sh

実行例

```
$ /home/spa/SPA/v93datamigration/spa106import.sh
```

5. インポートするデータが格納されたディレクトリを指定します。
エクスポートしたデータがインポートされます。

実行例

```
SPA Ver. 10.6 Ver.9.3ImportTool (Ver. 10.6.0.2)
SVF PDF Archiver Ver.9.3 のエクスポートデータをインポートします。

SVF PDF Archiver Ver.9.3 のデータをインポートしますか？ (Y/N)
> y

SVF PDF Archiver Ver.9.3 のデータエクスポートディレクトリを指定してください。
> /home/spa/temp/spa
```

確認：

```
SVF PDF Archiver Ver.9.3 のデータインポート : する
SVF PDF Archiver Ver.9.3 のエクスポートデータディレクトリ：/home/spa/tmp/spa
インポートを実行します。よろしいですか？ (Y/N)
> y
```

```
[1/9] 実行前の確認が完了しました。
[2/9] Ver. 10.6 のチェック処理が完了しました。
[3/9] 作業データベースの作成が完了しました。
[4/9] データベース情報のインポートが完了しました。
[5/9] 環境設定情報のコンバートが完了しました。
[6/9] データベースの切り替えが完了しました。
[7/9] 画像データのインポートが完了しました。
[8/9] PDF ファイルのインポートが完了しました。
[9/9] クリーンアップが完了しました。
```

インポートが完了しました。

SPA のサービスをすべて起動し、システムデータ再作成コマンドを実行してください。

詳細ログは、/home/spa/SPA/v93datamigration/logs/result20190528082930.log を参照してください。

6. 次のコマンドを実行し、PostgreSQL サービスを終了します。
<PGSQL_DIR>/pgsql/bin/pg_ctl stop -D "<PGSQL_DIR>/pgsql/data"


実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/pgsql/bin/pg_ctl stop -D "/home/spa/SPA/archiver/pgsql/data"
```

7. 以下のスクリプトを実行し、SPA のプロセスを起動します。
<INSTALL_DIR>/archiver/bin/startup.sh

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/startup.sh
```

8. SPA を起動し、管理画面の設定カテゴリ [環境設定] – [保存先の設定] で、[検索インデックス格納フォルダー] タブをクリックします。
9.  [最新状態に更新] ボタンをクリックし、 [検索インデックス格納フォルダー] タブの各項目のステータスを確認します。
ステータスに「利用可」のみが表示されている場合は手順 13 に進みます。
「サーバー再起動後に適用」と表示された場合は「SPA Solr Server」の再起動が必要です。次の手順に進んでください。
10. 以下のスクリプトを実行し、SPA のプロセスを終了します。
<INSTALL_DIR>/archiver/bin/shutdown.sh


実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/shutdown.sh
```

11. 以下のスクリプトを実行し、SPA のプロセスを起動します。
<INSTALL_DIR>/archiver/bin/startup.sh

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/bin/startup.sh
```

12.  [最新状態に更新] ボタンをクリックし、 [検索インデックス格納フォルダー] タブの各項目のステータスが「利用可」となったことを確認します。
13. システムファイル作成コマンドを利用し、システムファイル（PDF インデックスファイル、プレビュー用キャッシュファイル、検索インデックス）を作成します。

実行例

```
$ ./create_system_file.sh -wc -ws -r -d /
```

システムファイル作成コマンドの詳細は、『SPA 製品ガイド』の「コマンドによる運用と管理」の、「システムファイルの作成」を参照してください。

14. キュー管理コマンドを利用し、システムファイルの作成処理が終了したかどうかを確認します。

実行例

```
$ /home/spa/SPA/archiver/util/queue.sh count -q all
```

シェルスクリプトの実行結果ですべてのキューの値が「0」の場合は、システムファイルの作成処理は完了しています。「0」以外の場合は、システムファイルを作成中です。時間を空けて、シェルスクリプトを再度実行してください。

キュー管理コマンドの実行方法は、『SPA 製品ガイド』の「コマンドによる運用と管理」の、「システム内部キューの確認」を参照してください。

15. 次の方法で、データが正しくマイグレーションされたことを確認します。
 - 「admin」ユーザーでユーザー画面にログインし、「/」（ルート）フォルダーのフォルダー情報が、Ver. 9.3 がインストールされた環境のフォルダー情報と同じことを確認します。
 - 文書プロパティ「アーカイブ日時」が「2000年1月1日以降」の文書を検索し、検索結果をCSVファイルに出力します。検索とCSVファイル出力は、Ver. 9.3 がインストールされた環境で出力したCSVファイルと同じフォルダー単位で行ってください。出力したCSVファイルを、Ver. 9.3 がインストールされた環境で出力したCSVファイルと比較し、テキストに差分がないことを確認します。比較する前に、CSVファイルを「パス」と「名称」でソートしてください。
16. Bridge サービスのインストーラーをダウンロードし、Bridge サービスをインストールします。詳細は、『セットアップガイド』の「Bridge サービスのセットアップ」を参照してください。
17. 必要に応じて「処理定義」を有効にします。

システムファイルの作成と同時に Bridge サービスを使用したアーカイブが自動で開始されることがないように、インポート直後はすべての「処理定義」が無効になっています。Loader 設定画面で有効にする処理定義を選択し、[処理定義を有効にする] をオンにします。

インポートに失敗した場合

何らかの理由でインポートに失敗した場合、実行結果ログファイルを参照し、原因を把握した上でインポートを再実行します。

主な原因として、次のことが考えられます。

- ディスク容量（インポート先ディスクの容量不足）
- メモリの枯渇
- インポート元ファイルがネットワーク上に置かれており、インポート中にネットワークが切断された
- インポート元ファイルの破損

インポート再実行の手順は次のとおりです。

1. インポート前に作成したバックアップをリストアします。

リストアの手順は、『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」の、「コールドバックアップからのリストア」を参照してください。
2. インポートツールを利用して、あらためてデータをインポートします。

6. SPA サーバーのマイグレーション後の設定

ここでは、SPA サーバーのマイグレーション後に行う設定について説明します。

- [難読化に対応した URL 表示への変更 \(p. 88\)](#)
- [Cross-Site Request Forgery 脆弱性対策 \(p. 89\)](#)
- [カスタムロールの変更 \(p. 90\)](#)
- [アーカイブファイルの保存先として「Box」を指定する場合の設定 \(p. 91\)](#)
- [統合 Windows 認証を IIS 経由で使用する場合の設定 \(p. 91\)](#)

6.1. 難読化に対応した URL 表示への変更

Ver. 10.1 以前からマイグレーションした場合、文書やフォルダーのプロパティの [URL リンク] は、リクエストパラメーターとして内部 ID が直接表示される形式になります。

必要に応じて、内部 ID が推測されにくい難読化に対応した URL 形式を表示するように設定を変更してください。

URL の形式

URL の形式は、それぞれ次のように表示されます。

- 難読化に対応していない URL
「docId=15」(文書 ID) など、内部 ID が表示されます。

```
例：http://<hostname>:44230/spa/preview.jsp?docId=15
```

- 難読化に対応した URL
「59zENUiI8g79L6Ag7TlBIE」など、内部 ID が推測されにくい文字列が表示されます。

```
例：http://<hostname>:44230/spa/preview/59zENUiI8g79L6Ag7TlBIE
```

難読化に対応した URL 表示の設定

ここでは、文書やフォルダーのプロパティの [URL リンク] に、難読化に対応した URL が表示されるように変更する手順を説明します。

1. SPA のサービスを次の順に終了します。
 - SPA WebService
 - SPA Archive Server
 - SPA Solr Server
 - SPA ZooKeeper
 - SPA PostgreSQL Service
2. 次のファイルを任意の場所にコピーしてバックアップします。
 - <SPA のインストール先>%archiver%conf%spa-store-server.properties
 - <SPA のインストール先>%archiver%conf%spa-webapp.properties
3. 「<SPA のインストール先>%archiver%conf%spa-store-server.properties」をテキストエディターで開いて、次のとおりに編集します。

- 「spa.system.directurl.url.jamming=true」を最終行に追加します。

注意

「spa-store-server.properties」の変更した値が正しくないと、SPAの動作に問題が発生します。必ず、上記のとおりに変更してください。

4. 「<SPAのインストール先>%archiver%conf%spa-webapp.properties」をテキストエディターで開いて、次のとおりに編集します。
 - 「spa.system.directurl.url.jamming=true」を最終行に追加します。

注意

「spa-webapp.properties」の変更した値が正しくないと、SPAの動作に問題が発生します。必ず、上記のとおりに変更してください。

5. SPAのサービスを次の順に起動します。
 - SPA PostgreSQL Service
 - SPA ZooKeeper
 - SPA Solr Server
 - SPA Archive Server
 - SPA Webservice
6. ユーザー画面 (<http://<サーバー名またはIPアドレス>:44230/spa/>) にログインして、文書やフォルダーのプロパティの [URL リンク] に、難読化に対応した URL が表示されることを確認します。

6.2. Cross-Site Request Forgery 脆弱性対策

SPA Ver. 10.1 以前からマイグレーションした場合や、最新バージョンを新規インストールした場合、Cross-Site Request Forgery (以降、CSRF と表記) 脆弱性対策の機能が無効になっています。必要に応じて、CSRF 脆弱性対策の機能を有効にしてください。

ここでは、CSRF 脆弱性対策の機能を有効にする手順を説明します。

1. SPAのサービスを次の順に終了します。
 - SPA Bridge Service (Bridgeサービスを利用している場合のみ)
 - SPA Webservice
 - SPA Archive Server
 - SPA Solr Server
 - SPA ZooKeeper
 - SPA PostgreSQL Service
2. 次のファイルを任意の場所にバックアップします。
 - <SPAのインストール先>%archiver%apache-tomcat%webapps%spa%WEB-INF%csrfguard_web.xml
 - <SPAのインストール先>%archiver%apache-tomcat%webapps%spa%WEB-INF%web.xml
 - <Bridgeサービスのインストール先>%conf%spa-bridge.properties (Bridgeサービスを利用している場合のみ)

3. 次のファイルを削除します。
 - <SPA のインストール先>%archiver%apache-tomcat%webapps%spa%WEB-INF%web.xml
4. 「<SPA のインストール先>%archiver%apache-tomcat%webapps%spa%WEB-INF%csrfguard_web.xml」を次のとおりに編集します。
 - 「csrfguard_web.xml」のファイル名を「web.xml」に変更します。
5. 「<Bridge サービスのインストール先>%conf%spa-bridge.properties」を次のとおりに編集します (Bridge サービスを利用している場合のみ)。
 - spa.system.spa-client.xsrf-token.enable の値を「true」に変更します。
6. SPA のサービスを次の順に起動します。
 - SPA PostgreSQL Service
 - SPA ZooKeeper
 - SPA Solr Server
 - SPA Archive Server
 - SPA Webservice
 - SPA Bridge Service (Bridge サービスを利用している場合のみ)CSRF 脆弱性対策が有効になります。

参考

CSRF 脆弱性対策の機能を有効にした場合、SPA からのレスポンスヘッダーの中の「Set-Cookie」フィールドに「XSRF-TOKEN」というキー名の情報が付加されます。

例：XSRF-TOKEN=15QK-AUQP-8AYH-U0EI-MB2W-ALGI-RGIR-WDYE

CSRF 脆弱性対策を有効している場合で、SPA の Web API を利用するには、ログイン時の Web API (Auth Login) のレスポンスに含まれる「XSRF-TOKEN」の情報をリクエストの Cookie に含める必要があります。

なお、SPA では「XSRF-TOKEN」というキー名は固定になっています。

6.3. カスタムロールの変更

Ver. 10.3.2 より前のバージョンからマイグレーションした場合、作成済みのカスタムロールの操作権限「注釈（個人）の作成」には「指定なし」が設定されます。

参考

ユーザーが作成済みの、ログインしているユーザー個人だけが参照および編集できる注釈は削除されずに残っていますが、操作権限「注釈（個人）の作成」を持っていないユーザーは参照および編集できません。

ログインしているユーザー個人だけが参照および編集できる注釈を利用するには、「注釈（個人）の作成」の操作権限が必要です。

必要に応じて、カスタムロールを変更して「注釈（個人）の作成」の操作権限を付与してください。カスタムロールの編集については、『SPA 製品ガイド』の「最初に設定すること」の「カスタムロールを設定する」を参照してください。

6.4. アーカイブファイルの保存先として「Box」を指定する場合の設定

Ver. 10.4 以降へマイグレーションした場合で、アーカイブファイルの保存先として「Box」を指定するには、SPA のオプションとしてアクティベーションする必要があります。

追加するアクティベーションキーは、以下のサポートサイトを参照してください。

- アーカイブファイルの保存先として「Box」を指定する場合のアクティベーションキーについて
<https://cs.wingarc.com/ja/page/000020617>

6.5. 統合 Windows 認証を IIS 経由で使用する場合の設定

Ver. 10.5 以降へマイグレーションした場合で、統合 Windows 認証を IIS 経由で使用するには、Tomcat のバージョンアップに伴い Apache JServ Protocol (AJP) Connector の設定を変更する必要があります。

AJP Connector の設定については、『SPA 製品ガイド』の「サーバーの運用と設定」の「統合 Windows 認証を設定する (IIS を使用する認証方式)」を参照してください。

7. OCR サービスのアップデート

OCR サービスを使用している場合は、SPA のマイグレーション後のバージョンに合わせて、OCR サービスもアップデートする必要があります。

OCR サービスは、以下の流れでアップデートします。

1. [OCR サービスのアップデート前の準備 \(p. 92\)](#)
インストーラーの準備や空き容量の確認など、アップデート前の準備を行います。
2. [OCR サービスの更新とリストア \(p. 92\)](#)
最新バージョンのインストーラーを実行し、OCR サービスを更新します。
3. [OCR サービスで利用する文字認識モデルデータの更新とリストア \(p. 96\)](#)
OCR サービスで「WingArc Data Capture」を利用している場合は、文字認識モデルデータを更新します。

参考

- OCR サービスのアップデートは、モジュールの更新のみで完了します。OCR サービスでは一時ファイル以外のデータを保持していないため、データ資産を移行する必要はありません。
- 既存バージョンとは別の環境で OCR サービスを利用する場合は、新しい環境に新バージョンの OCR サービスをセットアップし、SPA の Distributor に登録している OCR サービスの接続先を新環境に変更します。
旧環境のログのデータを保存したい場合は、旧環境をアンインストールする前にログを保存してください。

OCR サービスのアップデートに当たっての注意事項

OCR サービスのアップデートには、SPA サーバーと同じバージョンの OCR サービスのインストーラーを使用してください。

SPA サーバーと OCR サービスのバージョンが異なると、正常に動作しないことがあります。

7.1. OCR サービスのアップデート前の準備

OCR サービスのアップデートを実行する前に、次の準備を行ってください。

- OCR サービスの最新バージョンのインストーラーを、OCR サービスがセットアップされている環境に用意します。
- OCR サービスをアップデートする際は、OCR サービスがインストールされているドライブに 300MB 程度の空き容量が必要になります。
また、OCR サービスで「WingArc Data Capture」を利用している場合、文字認識モデルデータをツールで更新すると文字認識モデルデータが自動でバックアップされます。この場合、OCR サービスがインストールされているドライブに、上記の他に 12GB の空き容量が必要です。

7.2. OCR サービスの更新とリストア

OCR サービスの更新とリストアの手順を説明します。

- [OCR サービス更新時の注意事項 \(p. 93\)](#)
- [OCR サービスの更新手順 \(p. 93\)](#)
- [OCR サービスのリストア手順 \(p. 95\)](#)

OCR サービス更新時の注意事項

- インストーラーは、「管理者」ユーザーで実行してください。

OCR サービスの更新手順

1. Bridge サービスの停止

Bridge サービス (SPA Bridge Service) を停止します。

2. SPA から OCR サービスへのアクセス停止

以下のいずれかを行って、SPA から OCR サービスへアクセスする処理をすべて停止します。すでに停止している場合は、この作業は不要です。

- OCR サービスにアクセスする処理定義の無効化
SPA の Loader 設定画面から、Distributor に追加されている、OCR の読み取りが設定された文書定義が使用されている処理定義を無効にします。また、該当する処理が実行中でないことを確認します。
- SPA サーバーのサービスの終了
次のサービスを、次の順番ですべて終了します。
 - SPA WebService
 - SPA Archive Server
 - SPA OCR Service
 - SPA Solr Server
 - SPA ZooKeeper
 - SPA PostgreSQL Service

3. インストーラーの実行

次の手順でインストーラーを実行します。

- OCR サービスのインストーラー (spa-ocr-service-windows.zip) を任意のフォルダーに解凍します。
- 「¥Installer¥install.exe」を起動します。
[言語の選択] ダイアログが表示されます。
- 使用する言語を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
[使用許諾契約] 画面が表示されます。
- 「使用許諾の条項に同意します」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
[バックアップ先] 画面が表示されます。
- バックアップ先を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。

参考

次のフォルダーはバックアップ先に指定できません。

- <OCR サービスのインストールフォルダー>
- <OCR サービスのインストールフォルダー>¥spaocr 配下のフォルダー
- 配下に「spaocr」という名前のフォルダーがあるフォルダー
- ネットワークドライブ上にあるフォルダー
- ファイルの書き込みが行えないフォルダー

更新するモジュールについての情報が表示されます。

- f. 内容に問題がないことを確認し、[インストール] ボタンをクリックします。
最新バージョンの OCR サービスのインストールが開始されます。
- g. インストールが完了すると、正常に完了したことを知らせる画面が表示されます。
[完了] ボタンをクリックします。

参考

インストーラーの実行ログは、以下に出力されます。

```
C:\Users\<ユーザー名>\AppData\Local\Temp\fc-install<連番>.log
```

4. 文字認識モデルデータの更新

「WingArc Data Capture」を利用している場合、文字認識モデルデータの更新が必要です。「[OCR サービスで利用する文字認識モデルデータの更新とリストア \(p. 96\)](#)」に従って、文字認識モデルデータを更新してください。

5. OCR サービスの起動

OCR サービス (SPA OCR Service) を起動します。

6. OCR サービスへのアクセス再開

手順 2 でアクセスを停止した方法に応じて、SPA から OCR サービスへアクセスする処理を再開します。

- OCR サービスにアクセスする処理定義を無効化した場合
SPA の Loader 設定画面から、Distributor に追加されている、OCR の読み取りが設定された文書定義が使用されている処理定義を有効にします。
- SPA サーバーのサービスを終了した場合
次のサービスを、次の順番ですべて起動します。
 - SPA PostgreSQL Service
 - SPA ZooKeeper
 - SPA Solr Server
 - SPA OCR Service
 - SPA Archive Server
 - SPA WebService

7. Bridge サービスの起動

Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。

OCR サービスのリストア手順

モジュール更新前の状態に復元する場合には、次の手順に従って、リストアしてください。

1. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を停止します。
2. モジュールの更新手順 2 に従って、SPA から OCR サービスへアクセスする処理をすべて停止します。すでに停止している場合は、この作業は不要です。
3. OCR サービス (SPA OCR Service) を停止します。
4. 次のファイルとフォルダーを削除します。
 - <OCR サービスのインストールフォルダー>%spaocr%apache-tomcat
 - <OCR サービスのインストールフォルダー>%spaocr%conf
 - <OCR サービスのインストールフォルダー>%spaocr%lib
 - <OCR サービスのインストールフォルダー>%spaocr%license
 - <OCR サービスのインストールフォルダー>%spaocr%utils%model_data%update%lib
 - <OCR サービスのインストールフォルダー>%spaocr%uninstall.cmd
5. インストーラーが取得したバックアップのうち、以下のファイルとフォルダーを、<OCR サービスのインストールフォルダー>配下の元の場所にコピーします。
 - <OCR サービスのバックアップ先>%spaocr%apache-tomcat
 - <OCR サービスのバックアップ先>%spaocr%conf
 - <OCR サービスのバックアップ先>%spaocr%lib
 - <OCR サービスのバックアップ先>%spaocr%license
 - <OCR サービスのバックアップ先>%spaocr%utils%model_data%update%lib
 - <OCR サービスのバックアップ先>%spaocr%uninstall.cmdデフォルトのバックアップ先は次のとおりです。
 - <OCR サービスのインストールフォルダー>%_backup%
6. 手順 2 でアクセスを停止した方法に応じて、SPA から OCR サービスへアクセスする処理を再開します。
 - OCR サービスにアクセスする処理定義を無効化した場合
SPA の Loader 設定画面から、Distributor に追加されている、OCR の読み取りが設定された文書定義が使用されている処理定義を有効にします。
 - SPA サーバーのサービスを終了した場合
次のサービスを、次の順番ですべて起動します。
 - SPA PostgreSQL Service
 - SPA ZooKeeper
 - SPA Solr Server
 - SPA OCR Service
 - SPA Archive Server
 - SPA Webservice
7. 「WingArc Data Capture」を利用している場合は、文字認識モデルデータを復元します。復元手順は、「[OCR サービスで利用する文字認識モデルデータの更新とリストア \(p. 96\)](#)」を参照してください。

8. OCR サービス (SPA OCR Service) を起動します。
9. Bridge サービス (SPA Bridge Service) を起動します。

7.3. OCR サービスで利用する文字認識モデルデータの更新とリストア

OCR サービスで「WingArc Data Capture」を利用している場合、文字認識モデルデータの更新が必要です。文字認識モデルデータの更新には、次の 2 種類があります。利用している環境に応じて、選択してください。

- [ツールで更新する \(p.96\)](#)
文字認識モデルデータの更新ツールを利用して、インターネット経由で自動的に更新します。更新ツールにより文字認識モデルデータがバックアップされるため、OCR サービスがインストールされているドライブに、12GB の空き容量が必要です。
- [モジュールをコピーして更新する \(p.97\)](#)
文字認識モデルデータのモジュールをコピーして更新します。モジュールは文字認識モデルデータのメディアまたはサポートサイトからダウンロードして準備します。

ここでは、文字認識モデルデータの更新とリストアの手順を説明します。

ツールで更新する

文字認識モデルデータの更新

更新ツールを使って文字認識モデルデータを更新します。

文字認識モデルデータの更新は、OCR サービスを停止した状態で行います。

- 管理者としてコマンドプロンプトを起動して、次のコマンドを実行します。

```
<OCR サービスのインストール先>\spaocr\utils\model_data\update\update.cmd
```

コマンドが実行され、実行結果の「Current version」に更新されたモデルデータのバージョンが表示されます。

参考

- 最新のモデルデータは自動的にダウンロードされます。
- 更新前のモデルデータは、次のフォルダーにバックアップされます。
<OCR サービスのインストール先>%spaocr%utils%model_data%update%backup%builtin_ocr
なお、保存されるのは直前にバックアップされたバージョンのみです。それより古いモデルデータは順次削除されます。

文字認識モデルデータのリストア

文字認識モデルデータを更新前のバージョンにリストア（復元）します。

リストアは、OCR サービスを停止した状態で行います。

参考

更新前のモデルデータは、次のフォルダーにバックアップされています。

```
<OCR サービスのインストール先>%spaocr%utils\model_data%update%backup%builtin_ocr
```

1. 次のフォルダー内のファイルをすべて削除します。
<OCR サービスのインストール先>%spaocr%ocr%builtin_ocr
2. バックアップされているモデルデータを、次のフォルダーに上書きコピーします。
<OCR サービスのインストール先>%spaocr%ocr%builtin_ocr
3. モデルデータの更新状況が記録された次のファイルを削除します。
<OCR サービスのインストール先>%spaocr%utils\model_data%update%work
%model_data.version

モジュールをコピーして更新する

文字認識モデルデータの更新

モジュールをコピーして文字認識モデルデータを更新します。

文字認識モデルデータの更新は、OCR サービスを停止した状態で行います。

1. 次のフォルダーを任意の場所にバックアップします。
<OCR サービスのインストール先>%spaocr%ocr%builtin_ocr%model_data
2. 文字認識モデルデータのモジュールを任意の場所に展開します。
「model_data」フォルダーが展開されます。
3. 展開した「model_data」フォルダーを次のフォルダーに上書きコピーします。
<OCR サービスのインストール先>%spaocr%ocr%builtin_ocr

文字認識モデルデータのリストア

文字認識モデルデータを更新前のバージョンにリストア（復元）します。

リストアは、OCR サービスを停止した状態で行います。

1. 次のフォルダー内のファイルをすべて削除します。
<OCR サービスのインストール先>%spaocr%ocr%builtin_ocr
2. 文字認識モデルデータを更新する際にバックアップしたデータを、次のフォルダーに上書きコピーします。
<OCR サービスのインストール先>%spaocr%ocr%builtin_ocr

付録

- [付録 1 検索インデックスの作成条件の調整 \(p. 98\)](#)
- [付録 2 バージョンの確認方法 \(p. 100\)](#)
- [付録 3 リストアした環境を再度マイグレーションする \(p. 100\)](#)

付録 1 検索インデックスの作成条件の調整

ここでは、最新バージョンの検索インデックスの作成条件（処理の同時実行数の上限や処理間隔）を調整する手順を説明します。この手順は、インストーラーを使用して SPA サーバーの更新と設定データの移行を実行したあと、必要に応じて行います。

- [Windows 版の調整手順 \(p. 98\)](#)
- [Linux 版の調整手順 \(p. 99\)](#)

Windows 版の調整手順

1. SPA のサービスを次の順に終了します。
 - SPA WebService
 - SPA Archive Server
 - SPA Solr Server
 - SPA ZooKeeper
 - SPA PostgreSQL Service
 - SPA SolrServer 93
 - SPA Zookeeper 93
2. 「<SPA のインストール先>%archiver%conf%spa-store-server.properties」をテキストエディターで開いて、以下の設定項目の値を変更します。

設定項目	説明	デフォルト	指定できる値
spa.update.storeServer.queueThread.search.maxThreadCount	検索インデックス作成時の同時実行数の上限をスレッド数で指定します。	3	1～99
spa.update.storeServer.queueThread.search.monitorSpan	検索インデックス作成のキューデータを 1 件処理したあとの待機間隔をミリ秒で指定します。	10	10 以上
spa.update.storeServer.queueThread.searchRemove.maxThreadCount	検索インデックス削除時の同時実行数の上限をスレッド数で指定します。	1	1～99

設定項目	説明	デフォルト	指定できる値
spa.update.storeServer.queueThread.searchRemove.monitorSpan	検索インデックス削除のキューデータを1件処理したあとの待機間隔をミリ秒で指定します。	10	10以上

参考

各設定項目に「指定できる値」の範囲外の値が指定された場合は、デフォルトの値として扱われます。

3. SPA のサービスを次の順に起動します。

- SPA Zookeeper 93
- SPA SolrServer 93
- SPA PostgreSQL Service
- SPA ZooKeeper
- SPA Solr Server
- SPA Archive Server
- SPA Webservice

サービスの起動後、設定した条件で最新バージョンの検索インデックスの作成が開始されます。

Linux 版の調整手順

1. 次の順にシェルスクリプトを実行して、SPA のすべてのプロセスを終了します。

```
<SPA のインストール先>/archiver/bin/shutdown.sh
<SPA のインストール先>/archiver/bin/shutdown93.sh
```

2. 「<SPA のインストール先>/archiver/conf/spa-store-server.properties」をテキストエディターで開いて、以下の設定項目の値を変更します。

設定項目	説明	デフォルト	指定できる値
spa.update.storeServer.queueThread.search.maxThreadCount	検索インデックス作成時の同時実行数の上限をスレッド数で指定します。	3	1～99
spa.update.storeServer.queueThread.search.monitorSpan	検索インデックス作成のキューデータを1件処理したあとの待機間隔をミリ秒で指定します。	10	10以上

設定項目	説明	デフォルト	指定できる値
spa.update.storeServer.queueThread.searchRemove.maxThreadCount	検索インデックス削除時の同時実行数の上限をスレッド数で指定します。	1	1～99
spa.update.storeServer.queueThread.searchRemove.monitorSpan	検索インデックス削除のキューデータを1件処理したあとの待機間隔をミリ秒で指定します。	10	10以上

参考

各設定項目に「指定できる値」の範囲外の値が指定された場合は、デフォルトの値として扱われます。

- 次の順にシェルスクリプトを実行して、SPA のすべてのプロセスを起動します。

```
<SPA のインストール先>/archiver/bin/startup93.sh
<SPA のインストール先>/archiver/bin/startup.sh
```

サービスの起動後、設定した条件で最新バージョンの検索インデックスの作成が開始されます。

付録 2 バージョンの確認方法

SPA Ver.10.1 の場合、SPA をインストールしたときのインストーラーのバージョンにより、更新手順が異なります。ここでは、SPA のインストーラーのバージョンの確認方法を説明します。

- [Windows 環境の場合 \(p. 100\)](#)
- [Linux 環境の場合 \(p. 100\)](#)

Windows 環境の場合

[コントロール パネル] の [プログラムのアンインストール] または [プログラムの追加と削除] で SPA を選択すると表示される「製品バージョン」の右側の数字を確認してください。

Linux 環境の場合

/home/.WingArc/Uninstaller/backup ディレクトリ配下の「SPA.versions」ファイルをテキストエディターで開きます。先頭が「install」になっている行の 3 カラム目の数字がインストーラーのバージョンです。

付録 3 リストアした環境を再度マイグレーションする

インストーラーで最新バージョンの SPA にマイグレーションしたあと、以前のバージョンにリストアした環境は、そのままではインストーラーを使ってマイグレーションし直すことができません。

あらためてマイグレーションする場合は、ここで説明する操作を行ってからインストーラーを使用してください。

参考

SPA Ver. 9.3 から最新バージョンの SPA にマイグレーションし、Ver. 9.3 にリストアした場合、この操作は不要です。

Windows 版

1. 「restoreVersion.zip」を任意の場所に展開します。
「restoreVersion」フォルダーが展開されます。
2. 展開されたフォルダー内の「archiver」フォルダーを、次のフォルダーに上書きコピーします。
<SPA サーバーのインストール先>
3. コマンドプロンプトから、次のコマンドを実行します。
<SPA サーバーのインストール先>%archiver%util%restore_version.bat
4. 「success」と表示されたことを確認します。

Linux 版

1. 「restoreVersion.tar.gz」を任意の場所に展開します。
「restoreVersion」ディレクトリが展開されます。
2. 展開されたディレクトリ内の「archiver」ディレクトリを、次のディレクトリに上書きコピーします。
<SPA サーバーのインストール先>
3. SPA をインストールしたユーザーで、次のスクリプトを実行します。
<SPA サーバーのインストール先>/archiver/util/restore_version.sh
4. 「success」と表示されたことを確認します。